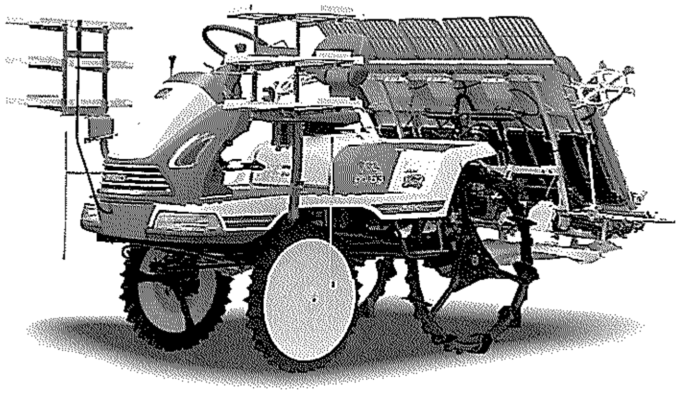
ISEKI

乗用田植機

さなえ

取扱説明書

PG 83・73・63・53



ご注意

◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。

◆記載内容を十分理解してから、乗用田植機の取扱いを開始してください。

◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるよう乗用田植機の近くに保管してください。

井関農機株式会社

田植機重要ポイント

1. ほ場まで移動するときは、
   トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、
   火気厳禁とします。
   エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、
   主クラッチペダルを「切」主変速レバーを「中立」で行います。
   周囲の状況を確認してから行います。

4. 田植作業以外のときは、
   左右のブレーキペダルを連結します。

5. トラックへ積み降ろしするときは、
   強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。
   スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。
   上り、下りの途中で主クラッチ・ブレーキペダルは踏みません。

6. ほ場へ出入りするときは、
   スピードを落としあぜに直角に走行します。
   上り、下りの途中で主クラッチ・ブレーキペダルは踏みません。

7. 田植機や作業機を点検整備するときは、
   必ず平たんな広い場所で、エンジンを止め、油圧ロックをします。

8. 補助者と共同作業を行うときは、
   合図をし状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくと共に、必ず守っていただくようお願いいたします。

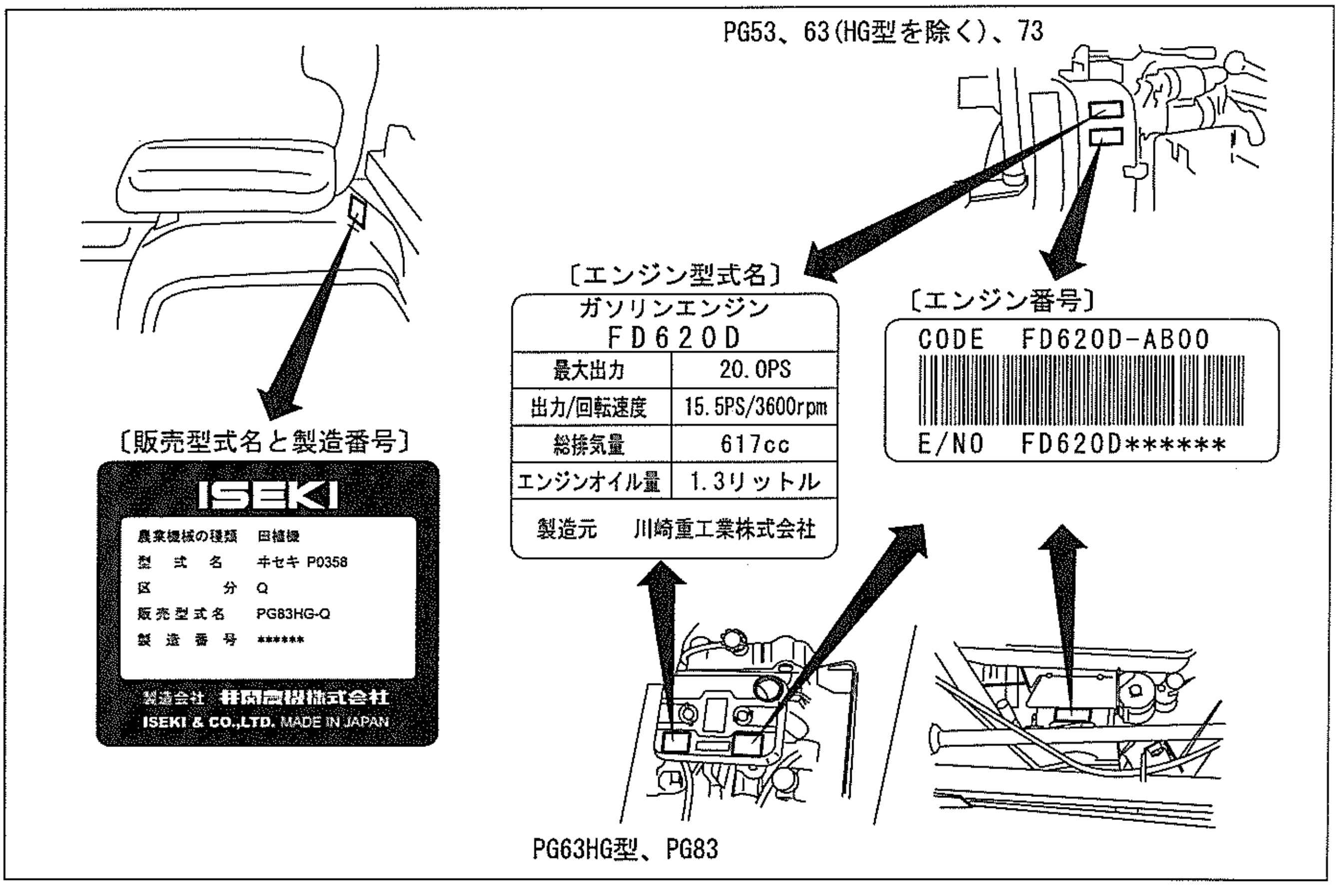
重要なお知らせ

- このたびは、ヰセキ田植機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲の苗を植付けるための作業機として使用してください。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。
改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）
- 井関農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、ヰセキ田植機（以降田植機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この田植機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や田植機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
よって、田植機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および田植機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 田植機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- この田植機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この田植機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の田植機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本田植機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は田植機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本田植機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、田植機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買い上げ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い上げ先」へお問い合せください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記しています。
お買い上げいただいた田植機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



■上記（例）の販売型式名　　PG83HG-Q

■装備内容

※J 型はフィンガーアップになります。

装置内容 ＼ 型式名記		基式						植付部					車輪		施肥機	自動	
		D			H		HG	A	N		−	B	−	K	F	Q	R
		VE	V	VR	VE	VR			−	18							
エンジン	FE400D（最大 13.5ps）	○	○	○	○	○	○ (5条)										
	FD501D（最大 16.0ps）						○ (6条)										
	FD620D（最大 20.0ps）						○ (8条)										
変速	油圧無段変速装置				○	○	○										
	ベルト式 5 段変速装置	○	○	○													
スーパーくるっとターン		○	○	○	○	○	○										
電動マーカ																	
ロングホイールベース							○ (6.8条)										
ショートフロート				○		○	○										
メカ	ワンリフト		○	○		○											
	バックリフト(切り替え付)	○	○	○	○	○											
条間 33 cm								○									
ヰセキポット	16条								○								
	18条									○							
植付爪	フィンガ(13/G)										○						
	フィンガ(14/G)											○					
後輪	太リムラグ車輪												○				
	鉄ラグ車輪													○			
側条施肥機（粒状）															○		
マイコン機能	フィンガーアップ															○ (5,6条)	
	バックリフト(切り替え付)															○	
	油圧ローリング															○	○
	音声モニター															○	
	自己診断															○	○
	らくらくレバー															○ ※(8条)	

警告表示について

本田植機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。
また、田植機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なこと等を示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の３種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

(例)	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。（左図の場合は爆発注意）
(例)	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。（左図の場合は火気厳禁）
(例)	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。（左図の場合はメガネ着用）

目　次

重要なお知らせ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ i
型式と装備内容について ‥‥‥‥‥‥ ii
警告表示について ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ iv
目　次 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ v

1. 使用上のポイント

1.1　非特殊自動車としての取り扱い ‥‥ 1
1.2　使用上のご注意 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 1
1.2.1　運転者の条件 ‥‥‥‥‥‥‥‥1
1.2.2　作業をする前に ‥‥‥‥‥‥‥2
1.2.3　エンジンの始動と発進 ‥‥‥‥3
1.2.4　走行するときは ‥‥‥‥‥‥‥4
1.2.5　トラックへの積み・降ろし ‥‥7
1.2.6　作業中は ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥9
1.2.7　夜間作業の禁止について ‥‥‥10
1.2.8　点検・整備 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥10
1.2.9　格納・保管時は ‥‥‥‥‥‥‥13
1.3　電装関係を取り扱うときは ‥‥‥ 14
1.3.1　電気配線点検時の注意事項 ‥‥14
1.3.2　バッテリー取り扱い時の注意事項 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥15
1.3.3　ブースタケーブル使用時の注意事項 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥16
1.3.4　バッテリー液の注意事項 ‥‥‥17
1.4　警告ラベルについて ‥‥‥‥‥‥ 17
1.5　警告ラベル貼付位置 ‥‥‥‥‥‥ 18
1.5.1　走行部 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥18
1.5.2　植付部 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥20

2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 21
2.2　サービスネット ‥‥‥‥‥‥‥‥ 21
2.3　補修用部品供給年限について ‥‥ 21

3. 各部の名称とはたらき

3.1　各部の名称 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 22
3.2　計器およびスイッチのはたらき ‥‥ 24
3.2.1　スイッチのはたらき ‥‥‥‥‥24
3.2.2　スイッチのはたらき（Q、R型）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥27
3.2.3　計器のはたらき ‥‥‥‥‥‥‥28
3.2.4　音声モニター（Q型）‥‥‥‥31
3.2.5　音声停止スイッチ ‥‥‥‥‥‥33
3.3　レバー、ペダル、シート関係の取り扱い ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 34
3.3.1　アクセルレバーとアクセルペダル ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥34
3.3.2　チョークノブ ‥‥‥‥‥‥‥‥34
3.3.3　主クラッチペダル ‥‥‥‥‥‥35
3.3.4　ロック解除ペダル ‥‥‥‥‥‥35
3.3.5　ブレーキペダル ‥‥‥‥‥‥‥36
3.3.6　駐車ブレーキレバー ‥‥‥‥‥36
3.3.7　主変速レバー ‥‥‥‥‥‥‥‥37
3.3.8　移動牽制レバー（D型）‥‥‥38
3.3.9　副変速レバー ‥‥‥‥‥‥‥‥38
3.3.10　車速牽制レバー（J、A型を除くPG83）‥‥39
3.3.11　超低速レバー（D型）‥‥‥‥39
3.3.12　前輪デフロックペダル‥‥‥‥40
3.3.13　チルトペダル‥‥‥‥‥‥‥‥40
3.3.14　座席の調節‥‥‥‥‥‥‥‥‥41
3.3.15　スーパーくるっとターン‥‥‥41
3.3.16　株数切替レバー‥‥‥‥‥‥‥41
3.3.17　株数副変速レバー‥‥‥‥‥‥42
3.3.18　植付クラッチレバー（Q型を除く）‥‥‥‥42
3.3.19　油圧感度調節レバー‥‥‥‥‥42
3.3.20　植込杆停止レバー（F型を除く）‥‥‥‥‥43

3.3.21 バックリフト切替レバー（Q 型を除く）……43
3.3.22 ワンリフトレバー（DVE、HVE、Q 型を除く）……43
3.3.23 フィンガーアップレバー（Q 型、PG83J 型）……44
3.3.24 らくらくレバー（J 型を除く PG83）……45
3.3.25 植付ポジションレバー（Q 型）……46
3.3.26 下降ロックレバー……46
3.3.27 苗取量調節レバー……46
3.3.28 植付深さ調節レバー……46
3.3.29 横送り切替レバー……47
3.3.30 苗押え……47
3.3.31 苗ストッパ……48
3.3.32 植付補助レバー（PG83 型）……48

4. 作業前の点検

4.1 給油、注油箇所の点検と補給……50
4.1.1 燃料……51
4.1.2 エンジンオイル……52
4.1.3 冷却水（PG63HG 型、PG83）……54
4.1.4 チェンジミッションオイル（全型式）……55
4.1.5 オイルタンク（PG83、PG63H、PG53H）……55
4.1.6 植込杆……56
4.1.7 グリース注入箇所（グリースニップル）……56
4.1.8 グリース塗布箇所……57
4.1.9 オイル注油箇所……57
4.1.10 オイル注油箇所（毎日）……58

5. 運転のしかた

5.1 エンジンの始動と停止のしかた……60
5.1.1 エンジンの始動……60
5.1.2 エンジンの停止……63
5.2 発進、停止、駐車のしかた……64
5.2.1 発進のしかた……64
5.2.2 停止のしかた……66
5.2.3 駐車のしかた……68
5.3 移動、運搬のしかた……69
5.3.1 走行のしかた……69
5.3.2 苗のせ台の収納（PG73、83）……75
5.3.3 トラックへの積み・降ろしのしかた……78
5.3.4 運搬中の固定方法……82
5.4 ほ場への出入のしかた……83
5.4.1 ほ場への入りかた……84
5.4.2 ほ場からの出かた……85

6. 植付作業のしかた

6.1 ほ場の準備……87
6.1.1 代かき……87
6.1.2 水深……88
6.1.3 きょう雑物……88
6.2 植付作業前の準備……89
6.2.1 植付株数（株間）の決めかた……89
6.2.2 株数副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた……91
6.2.3 植付深さの調節……93
6.2.4 横送り量の調整……94
6.2.5 苗取量の調節……95
6.2.6 油圧感度調節……96
6.2.7 抵抗棒の調節……97
6.2.8 整地板の調節……98
6.3 植付作業の手順……99

6.3.1 枕地一工程植えのしかた ······102
6.3.2 枕地のとりかた ··············103
6.3.3 旋回のしかた ················104
6.3.4 オートマーカの使いかた ······105
6.3.5 電動マーカの使いかた
（PG83（T 型を除く）） ·····105
6.3.6 マーカ両出しのしかた ········106
6.3.7 バックリフトの使いかた ······107
6.3.8 傾き調節ダイヤルの使いかた
（Q、R 型） ················107
6.3.9 苗の補給 ····················108
6.3.10 植えじまい··················109
6.3.11 残り苗の取り出し············111
6.3.12 安全クラッチが作動したとき
······························111
6.3.13 ポット、マットの組み替え···112

7. 点検整備

7.1 定期的な点検整備 ··············· 113
7.1.1 点検、給油、調整一覧表 ······114
7.1.2 エンジンオイルの交換 ········116
7.1.3 エンジンオイルフィルタの
交換 ························118
7.1.4 冷却水の点検 ················119
7.1.5 ラジエータホース
（PG63HG 型、PG83） ····120
7.1.6 ラジエータの清掃
（PG63HG 型、PG83） ····122
7.1.7 エアクリーナエレメントの洗浄
······························122
7.1.8 点火プラグの清掃 ············123
7.1.9 燃料フィルタの清掃 ··········125
7.1.10 油圧オイルフィルタの交換
（H、HG 型） ··············125
7.1.11 油圧サクションフィルタの
清掃（D 型） ··············126
7.1.12 リヤミッションオイルの給油
······························127
7.1.13 植付クラッチケースの給油···128
7.1.14 ブレーキペダルの点検·······129
7.1.15 主クラッチペダルの点検と
調整························129
7.1.16 バッテリーの点検と取り扱い
······························130
7.1.17 ヒューズの交換············132
7.1.18 スローブローヒューズの交換
······························133
7.1.19 ランプの交換··············134
7.1.20 フィンガ（13/G）（14/G）
の点検交換················134

8. 格納時の手入れ

8.1 日常の格納 ····················· 135
8.2 長期格納 ······················· 135

9. 不調時の処置

9.1 油圧ローリングの応急処置
（Q、R 型） ···················· 140
9.2 植付ポジションレバーの応急処置
（Q 型） ······················· 140
9.3 ブザーが鳴り続くとき
（水冷エンジンの場合） ········ 141

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表············· 142
10.2 主要諸元····················· 143
10.3 機能装備一覧表··············· 148

1. 使用上のポイント

本章では、田植機を効率よく正しくお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しています。十分に熟読されて、正しい作業を行ってください。

1.1 非特殊自動車としての取り扱い

この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として、道路走行車両の型式認定を受けていません。したがって、道路（農面道路を除く）を走行することは、違法行為になります。移動する場合は、トラック等に載せて運搬してください。

1.2 使用上のご注意

記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

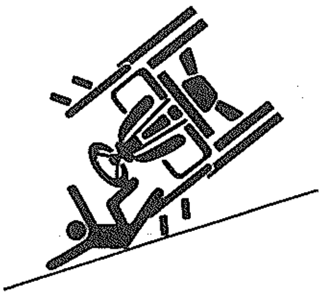
1.2.1 運転者の条件

⚠警告

こんなときは、運転をしないでください。

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

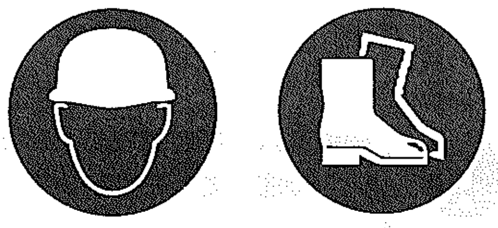
※ 誤操作しやすく傷害事故の原因となります。



作業に適した服装を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

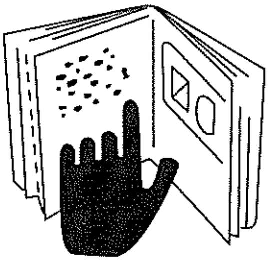


⚠警告

機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※ 借りた人が、機械の運転に不慣れなため、傷害事故を引き起こすことがあります。

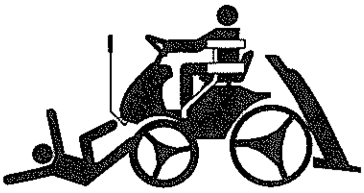


1.2.2 作業をする前に

⚠警告

無理のないゆとりある作業計画をたててください。

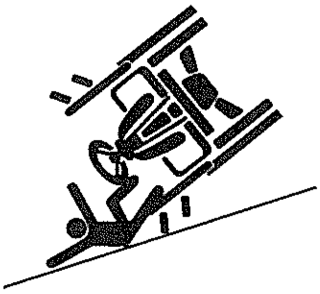
※ 無理な作業計画は、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。



作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。

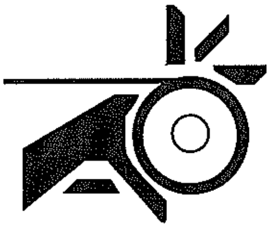
特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。

※ 点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の傷害事故につながります。



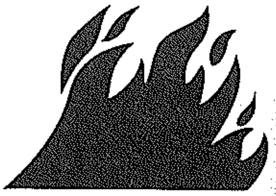
保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。



⚠危険

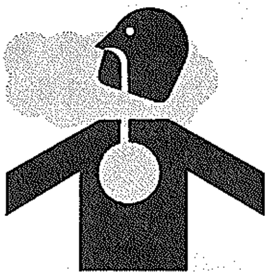
燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。



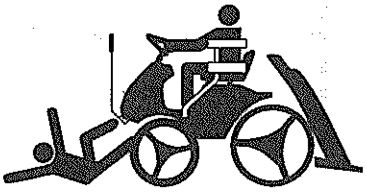
1.2.3 エンジンの始動と発進

⚠警告

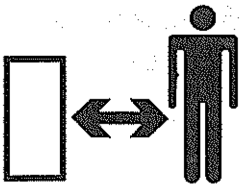
室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。
※ 換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、主クラッチペダル、主変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。
※ 確認を怠ると、急発進したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。
特に子供に注意してください。
※ 急発進すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



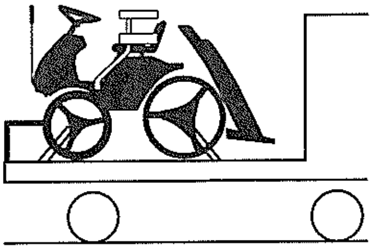
1.2.4 走行するときは

⚠警告

ほ場等への移動は、必ずトラック等に載せて移動してください。

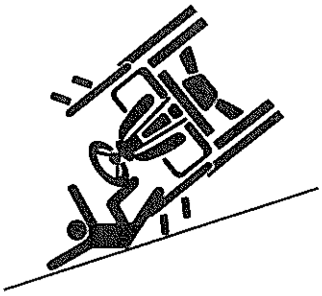
この田植機は、自動車としての認定を受けていません。

※ 道路（農面道路を除く）を乗用走行することは違法行為になります。



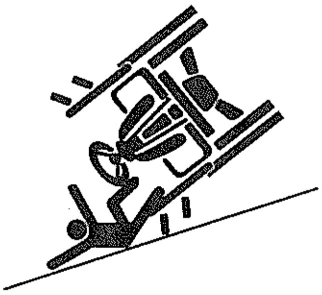
ステアリング（ハンドル）やクラッチは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしないでください。

※ 接触事故や、転倒事故につながるおそれがあります。



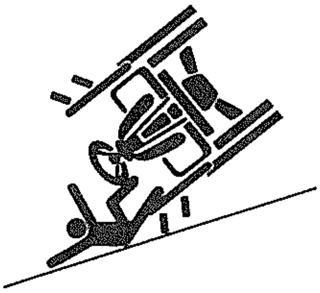
田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こします。



ブレーキペダルを踏むときは、まずアクセルレバーでエンジン回転を低速にしてから、主クラッチペダルと同時に踏み込んでください。

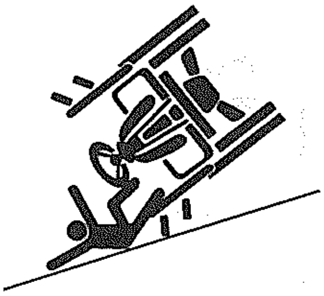
※ 守らないと、ブレーキが効かず衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

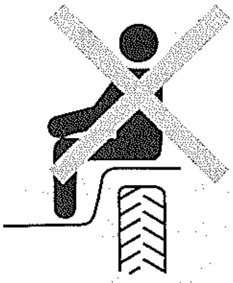
田植作業以外のときは、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。

※ 解除していないと衝突、転落事故を引き起こすおそれがあります。



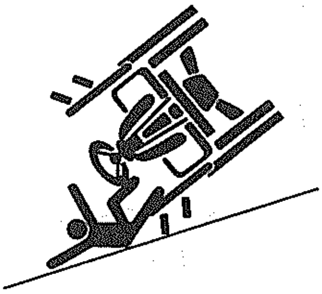
田植機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落するおそれがあります。



高速で急旋回しないでください。

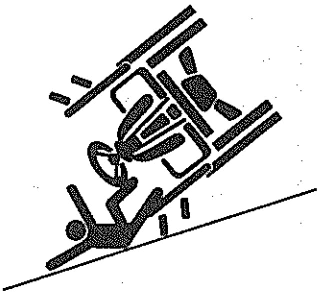
※ 急旋回すると転倒事故につながるおそれがあります。



凸凹の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転はしないでください。

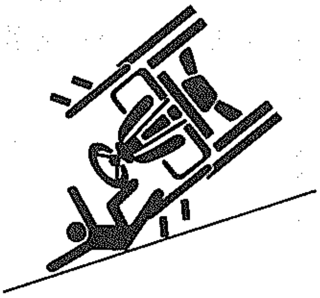
地面状況に応じた適切な速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



坂道では、急な旋回をしないでください。

※ 急旋回すると、転倒事故の原因となります。

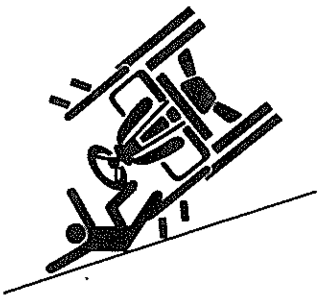


⚠警告

坂道では決して主クラッチペダルを踏み込んだり、変速レバーを「中立」状態にしないでください。

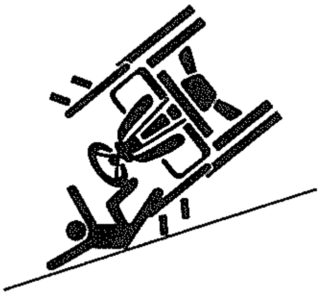
坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけてください。

※ 足ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップや転倒の原因となります。ブレーキペダルも踏み込まないようにしてください。



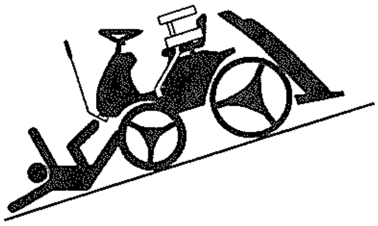
側溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落とし十分注意して走行してください。

※ 守らないと、路肩が崩れて転倒するおそれがあります。



田植機から離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチ（キー）を抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
また、止めるところは、地面の硬い広い場所を選んでください。

※ 田植機が、自然に動き出したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしないでください。

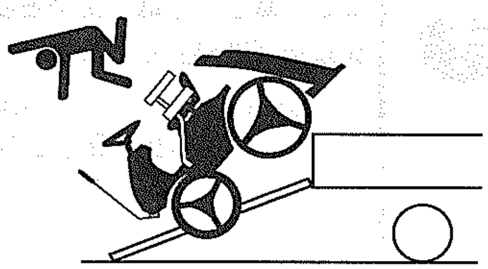
※ 排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し、火災の原因となるおそれがあります。

1.2.5 トラックへの積み・降ろし

⚠警告

積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「1 速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

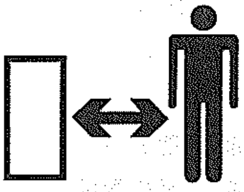


⚠注意

誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

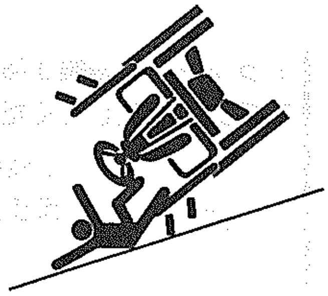


⚠警告

積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、超低速レバーを「超低速」（D 型のみ）にし、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。

（☞78 ページ）

※ 守らないと、転落事故の原因となります。

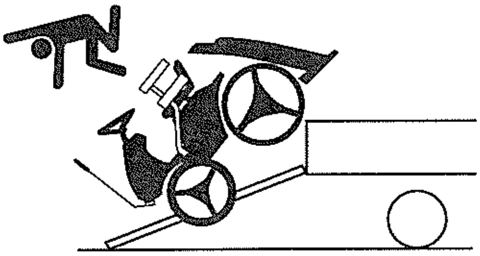


1. 使用上のポイント

⚠ 警告

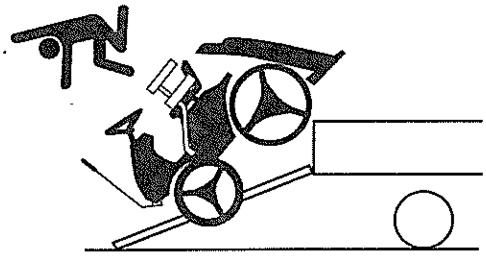
積み・降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 連結していないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。



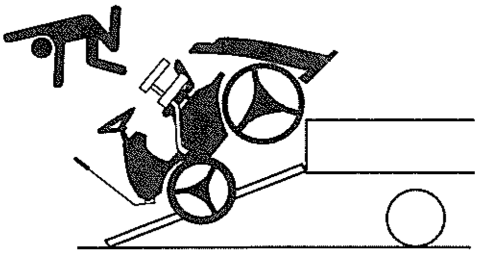
ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、主クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

※ 守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。



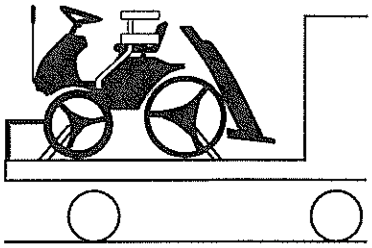
途中でエンストした場合は、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後、徐々にブレーキペダルをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してください。

※ 守らないと、転落事故の原因となります。



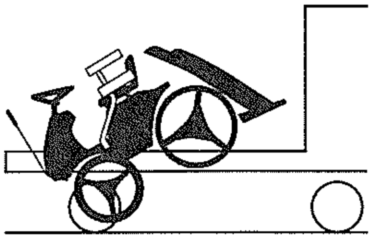
トラック等で運搬するときは必ずロープ等で荷台に固定してください。

※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ブレーキはしないでください。

※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



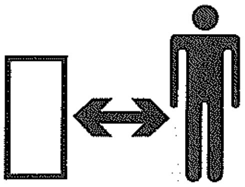
1.2.6 作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠警告

作業中は、作業者以外の人を田植機に近づけないでください（特に子供）。

※ 田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

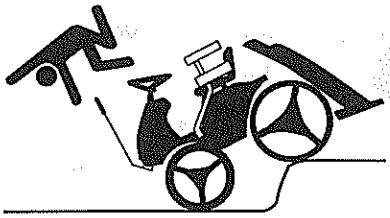


作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

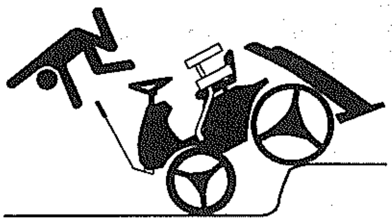
あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。

※ 斜めになると、スリップや転倒の原因となります。



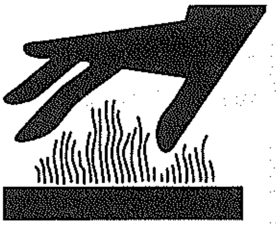
あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。

※ 使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあります。



運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等には手を触れないでください。

※ 傷害事故の原因となります。

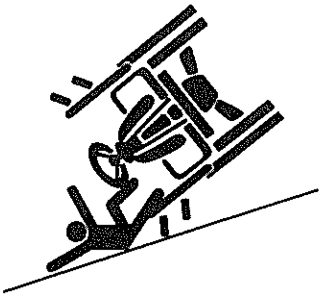


1.2.7 夜間作業の禁止について

⚠危険

夜間作業は危険なので行わないでください。

※ この田植機は、ライトを装着していますが、暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



1.2.8 点検・整備

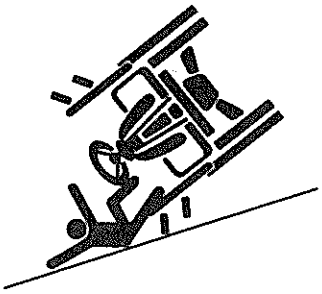
⚠警告

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 田植機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。

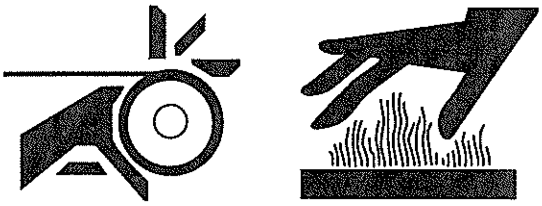
点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。

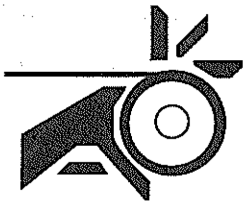
※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

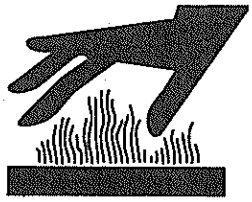


⚠警告

点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部を降ろすか植付部の油圧を下降ロックレバーで「固定」位置にしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。





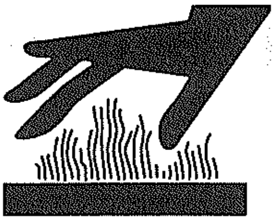
点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 間に合せの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良により傷害事故を引き起こします。

エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。

エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

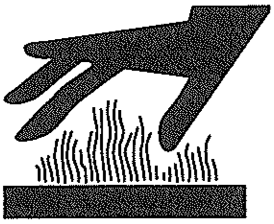
※ 守らないと、やけど等の原因となります。



ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。

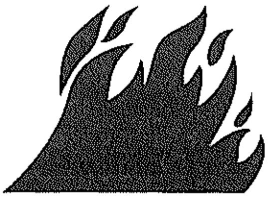
運転停止後 10 分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。



点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。

※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。

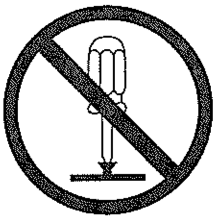


1. 使用上のポイント

⚠警告

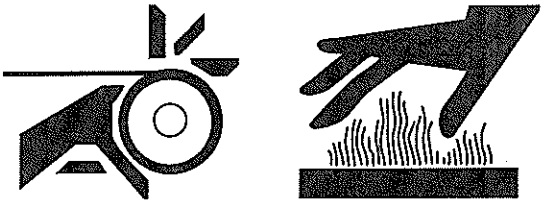
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。

※ 守らないと、故障や事故の原因となります。



点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。



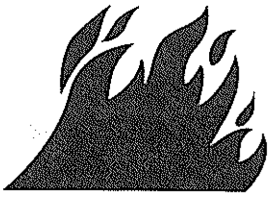
傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。

※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

1.2.9 格納・保管時は

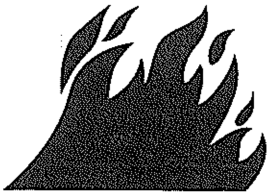
⚠危険

燃料は必ず抜きとってください。
(☞136ページ)
※ 怠ると、燃料が変質するばかりでなく引火等で火災の原因となります。



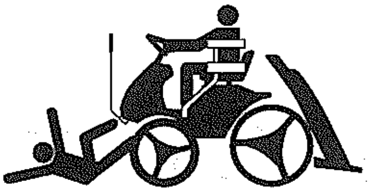
⚠警告

作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

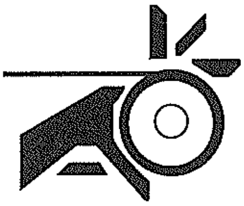


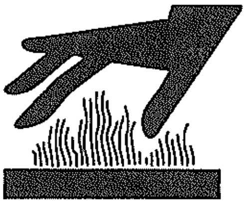
長期格納する場合は、バッテリーケーブルを外しておいてください。
※ 外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となります。

主クラッチペダルを踏み込んでクラッチを確実に切れた状態にしておいてください。
※ クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが錆付いてクラッチが切れなくなることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。
※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると傷害事故を引き起こすおそれがあります。





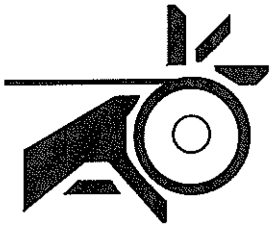
1.3 電装関係を取り扱うときは

1.3.1 電気配線点検時の注意事項

⚠警告

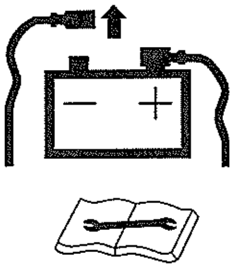
電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。

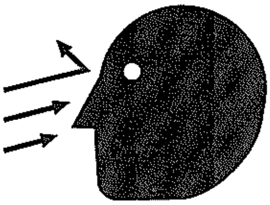
※ エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして、傷害事故の原因となります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリーの⊖コードを外して行ってください。

※ これを怠ると、火花がとんだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。





傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

※ 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。

バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。

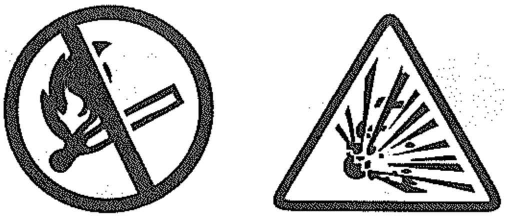
※ これを怠ると火災の原因となります。

1.3.2 バッテリー取り扱い時の注意事項

⚠危険

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行ってください。

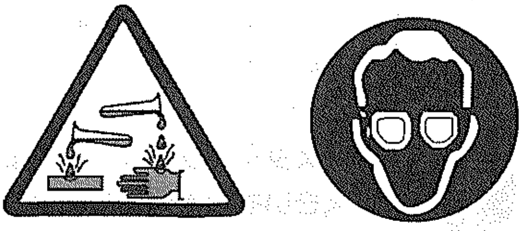
※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。

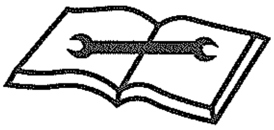
バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。

※ 失明や、やけどをするおそれがあります。
もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



バッテリーの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

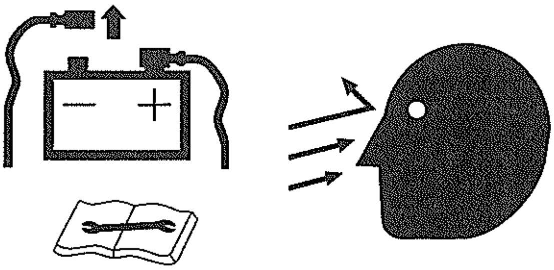
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

バッテリーコード（端子）を取り外すときは、⊖のコードを先に取り外してください。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けてください。

※ 守らないと、ショートして火花がとぶおそれがあります。



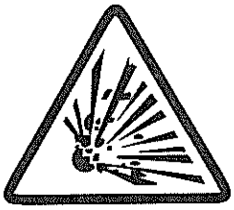
1.3.3 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

⚠警告

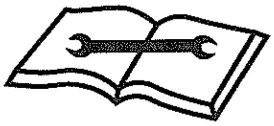
バッテリーの補水キャップを取り外してから接続してください。

※ 補水キャップが取り外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。



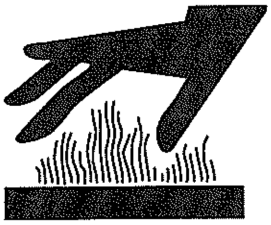
ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損するおそれがあります。



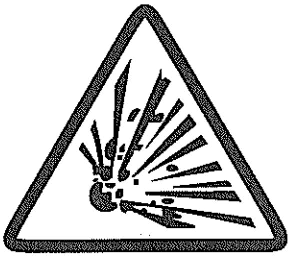
1.3.4　バッテリー液の注意事項

バッテリー液量の点検は作業前に必ず実施してください。

⚠危険

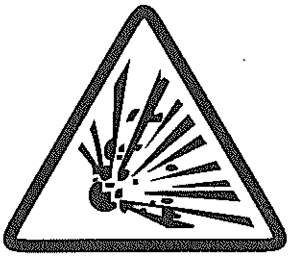
バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電しないでください。

※　バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。



バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けないでください。

※　容器内の各部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

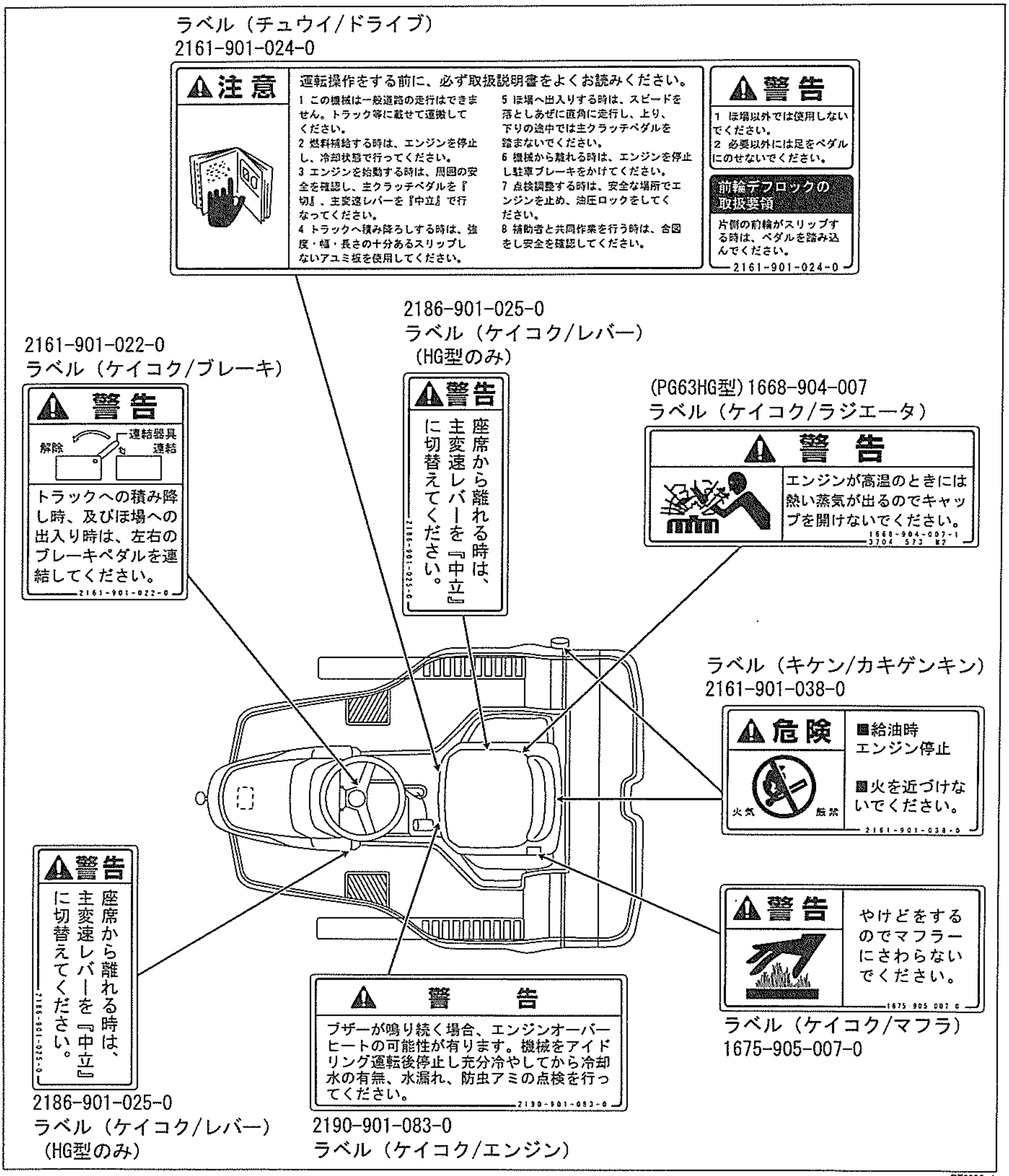


1.4 警告ラベルについて

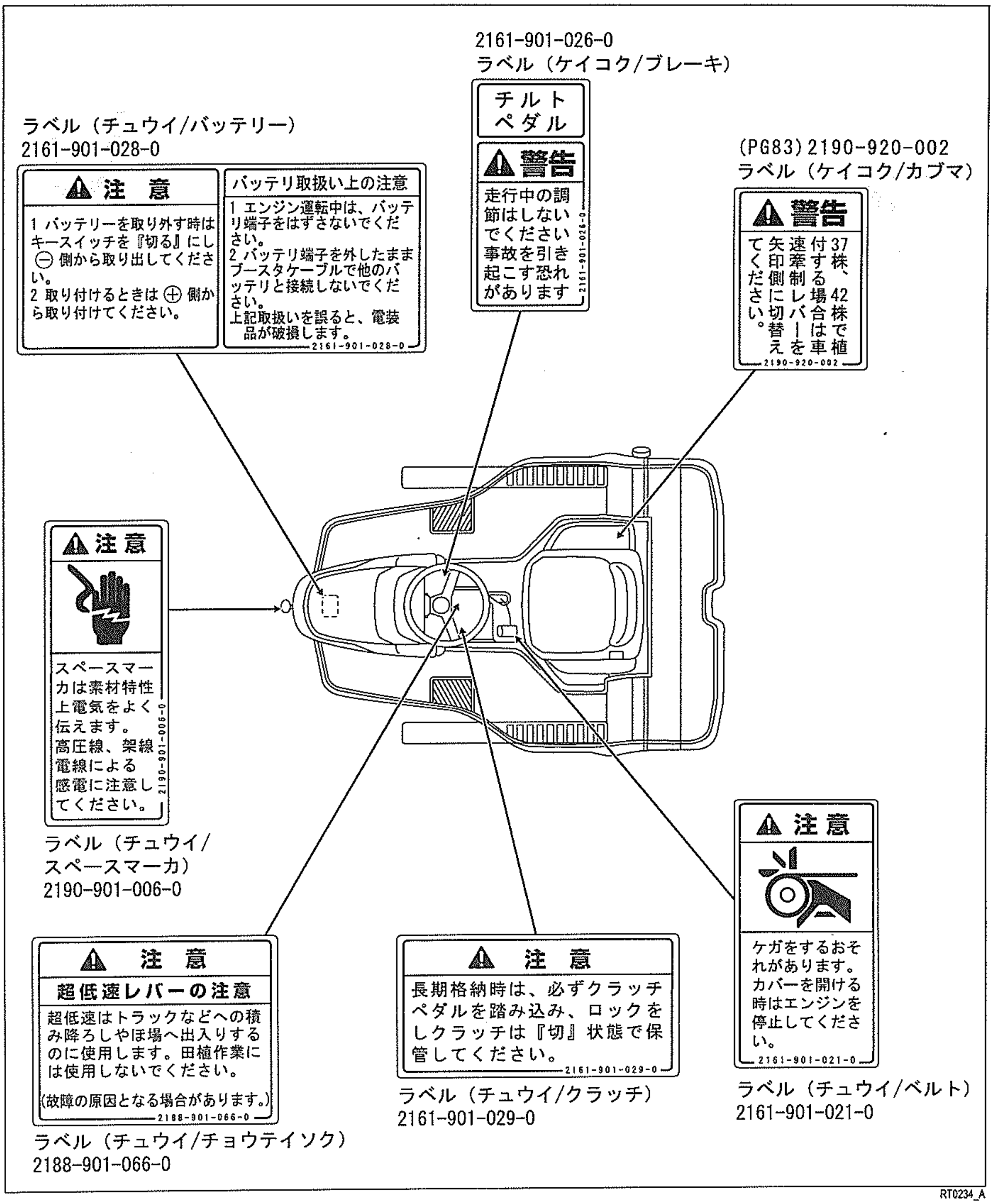
- 本田植機には、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買い上げ先へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買い上げ先へご注文ください。
- ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

1.5 警告ラベル貼付位置

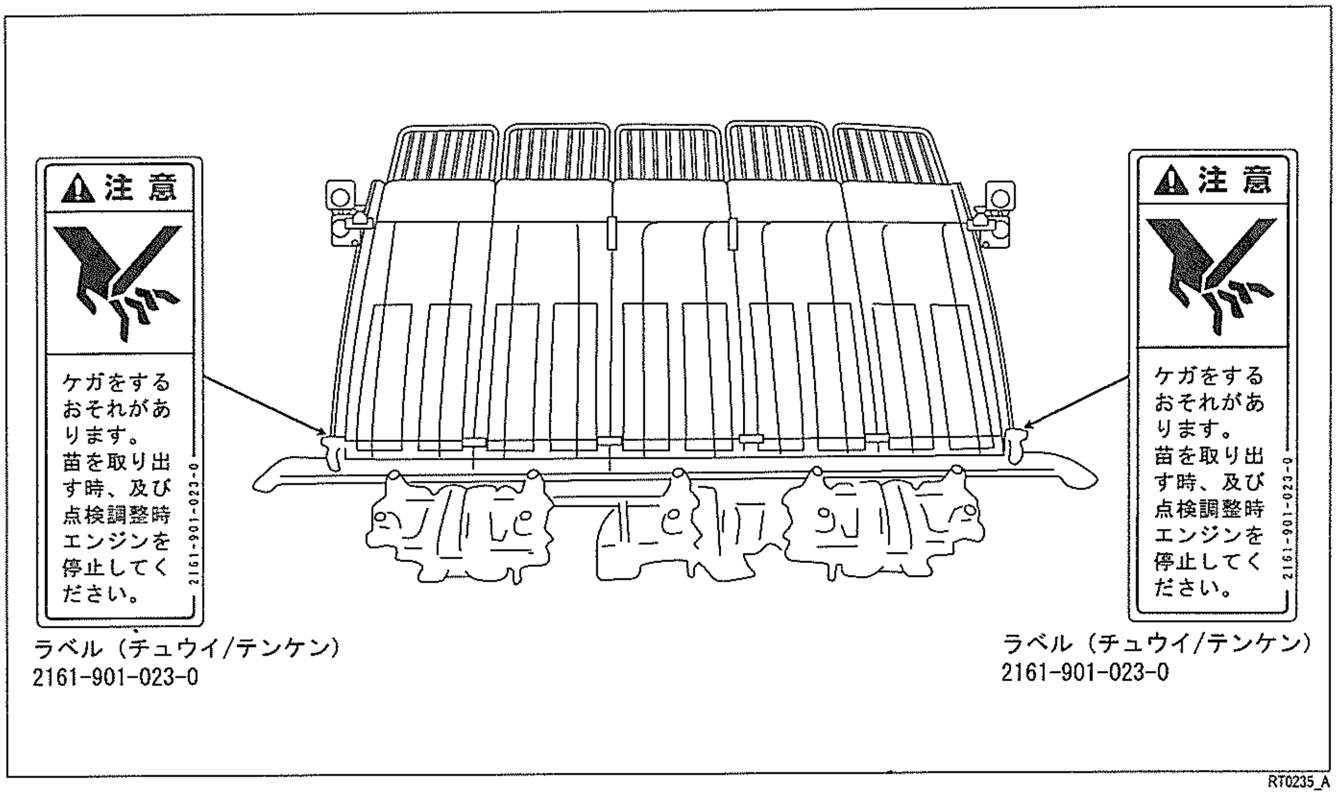
1.5.1 走行部



RT0233_A


2161-901-026-0
ラベル（ケイコク/ブレーキ）
チルト
ペダル
警告
走行中の調節はしないでください事故を引き起こす恐れがあります
2161-901-026-0
ラベル（チュウイ/バッテリー）
2161-901-028-0
注　意
1 バッテリーを取り外す時はキースイッチを『切る』にし ⊖ 側から取り出してください。
2 取り付けるときは ⊕ 側から取り付けてください。
バッテリ取扱い上の注意
1 エンジン運転中は、バッテリ端子をはずさないでください。
2 バッテリ端子を外したままブースタケーブルで他のバッテリと接続しないでください。
上記取扱いを誤ると、電装品が破損します。
2161-901-028-0
(PG83) 2190-920-002
ラベル（ケイコク/カブマ）
警告
37株、42株で植付する場合は車速牽制レバーを矢印側に切替えてください。
2190-920-002
注意
スペースマーカは素材特性上電気をよく伝えます。高圧線、架線電線による感電に注意してください。
2190-901-006-0
ラベル（チュウイ/スペースマーカ）
2190-901-006-0
注　意
超低速レバーの注意
超低速はトラックなどへの積み降ろしやほ場へ出入りするのに使用します。田植作業には使用しないでください。
(故障の原因となる場合があります。)
2188-901-066-0
ラベル（チュウイ/チョウテイソク）
2188-901-066-0
注　意
長期格納時は、必ずクラッチペダルを踏み込み、ロックをしクラッチは『切』状態で保管してください。
2161-901-029-0
ラベル（チュウイ/クラッチ）
2161-901-029-0
注意
ケガをするおそれがあります。カバーを開ける時はエンジンを停止してください。
2161-901-021-0
ラベル（チュウイ/ベルト）
2161-901-021-0
RT0234_A

1.5.2 植付部



RT0235_A

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この商品には、井セキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

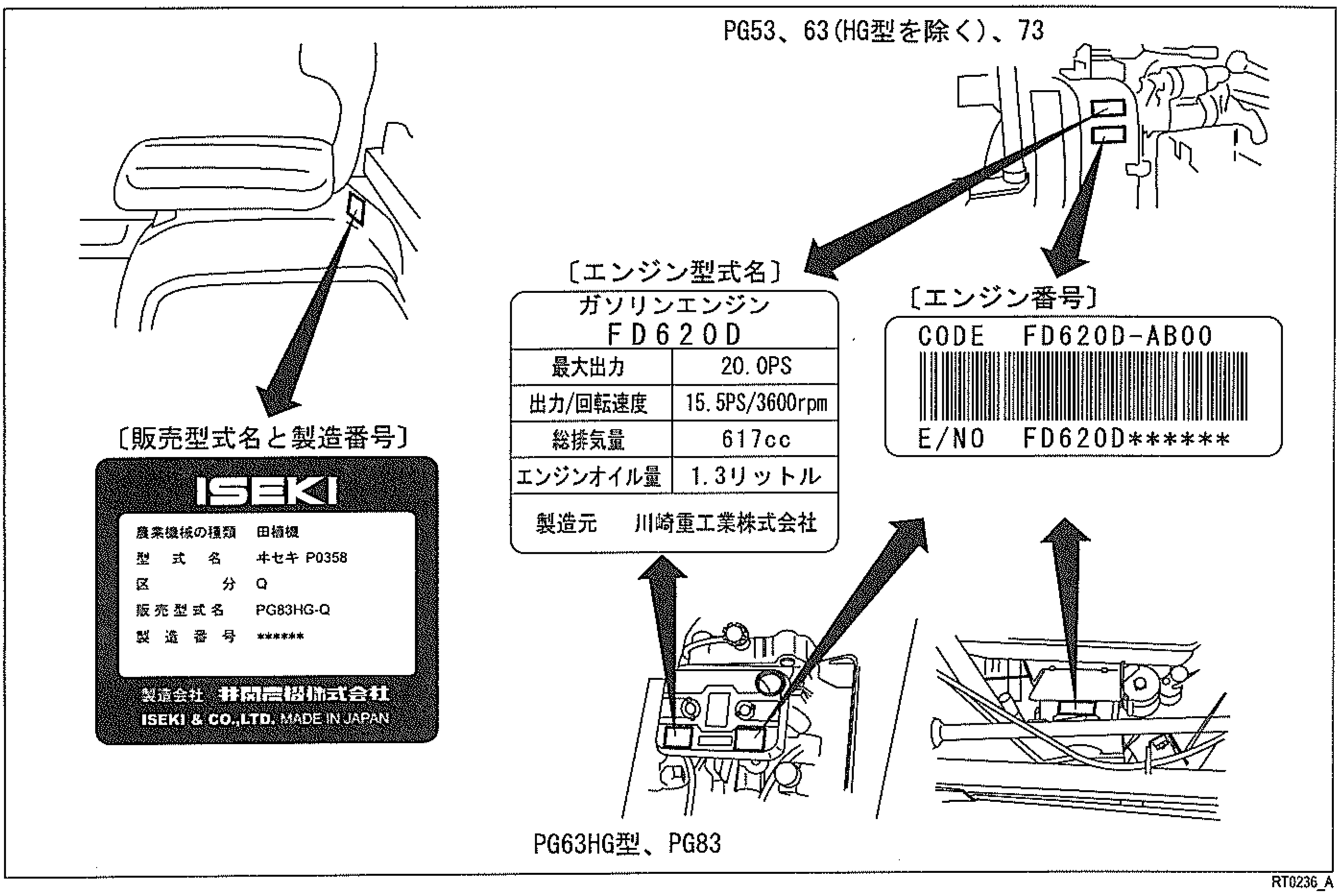
2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。その際、

(1) 販売型式名と製造番号

(2) エンジン型式名とエンジン番号

をあわせてご連絡ください。



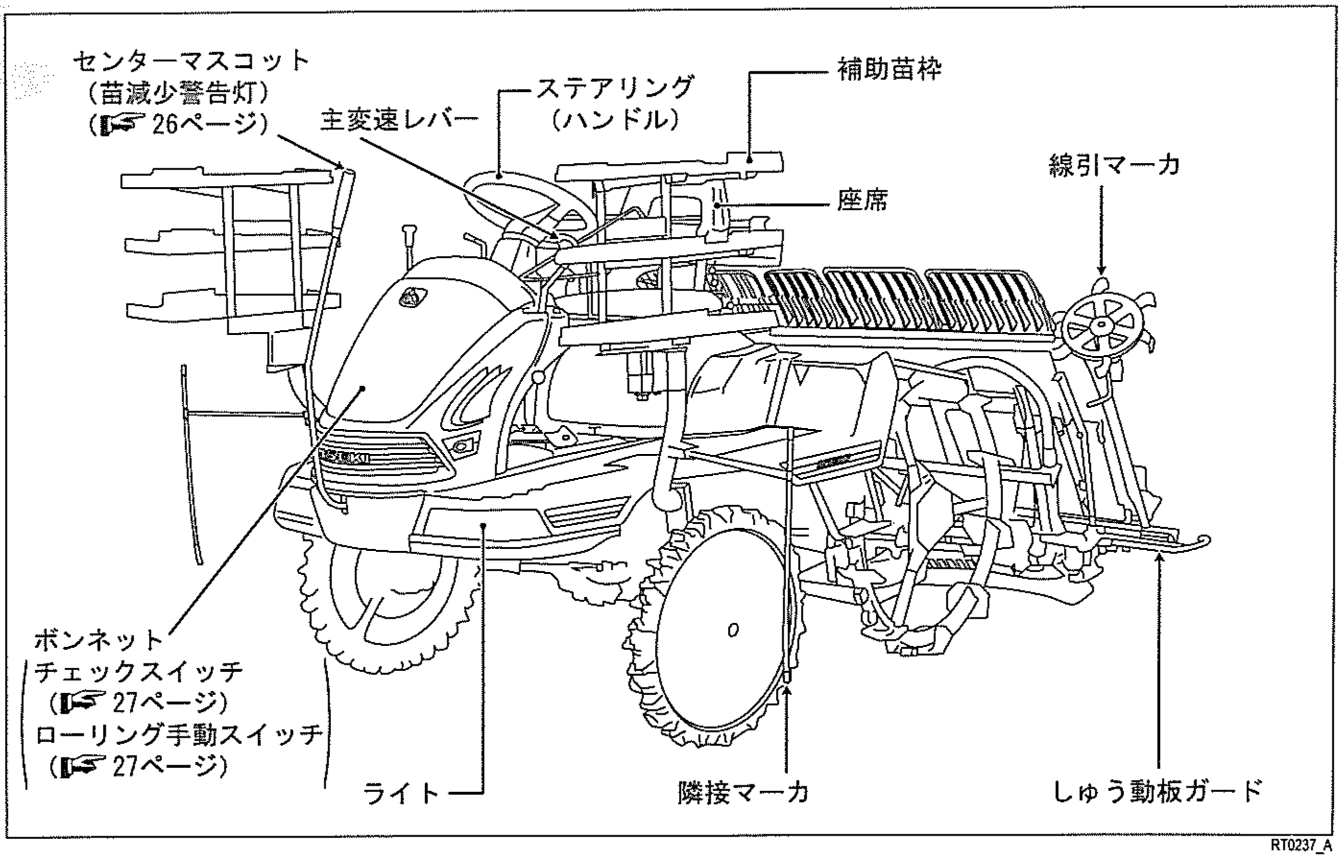
RT0236_A

2.3 補修用部品供給年限について

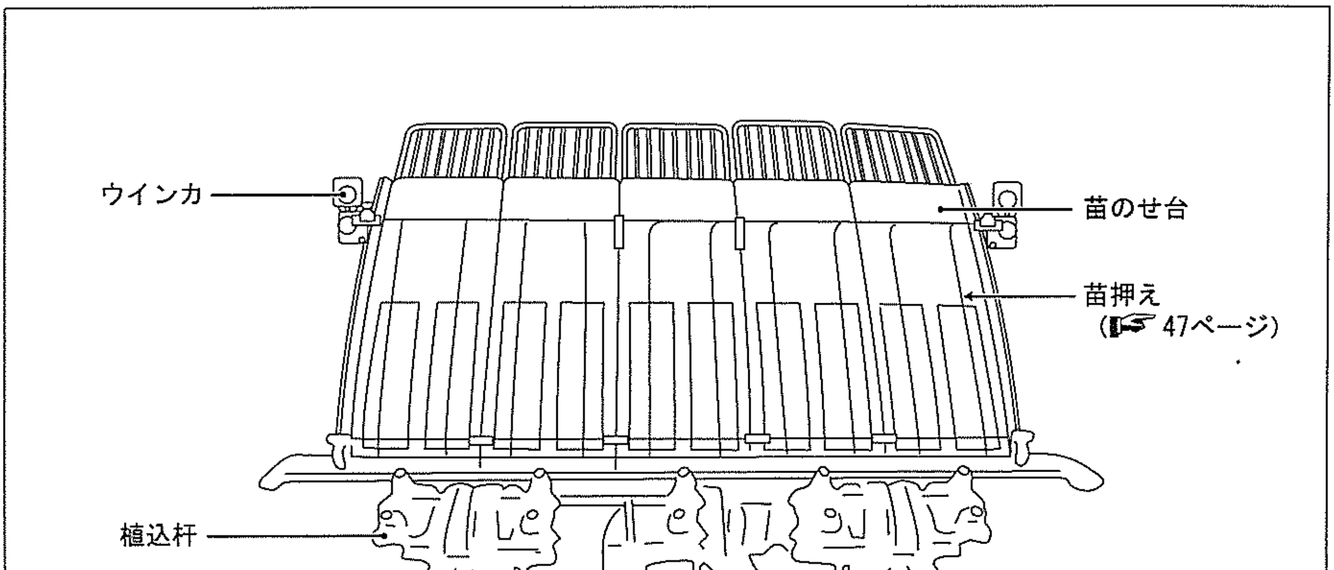
- この商品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後９年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3. 各部の名称とはたらき

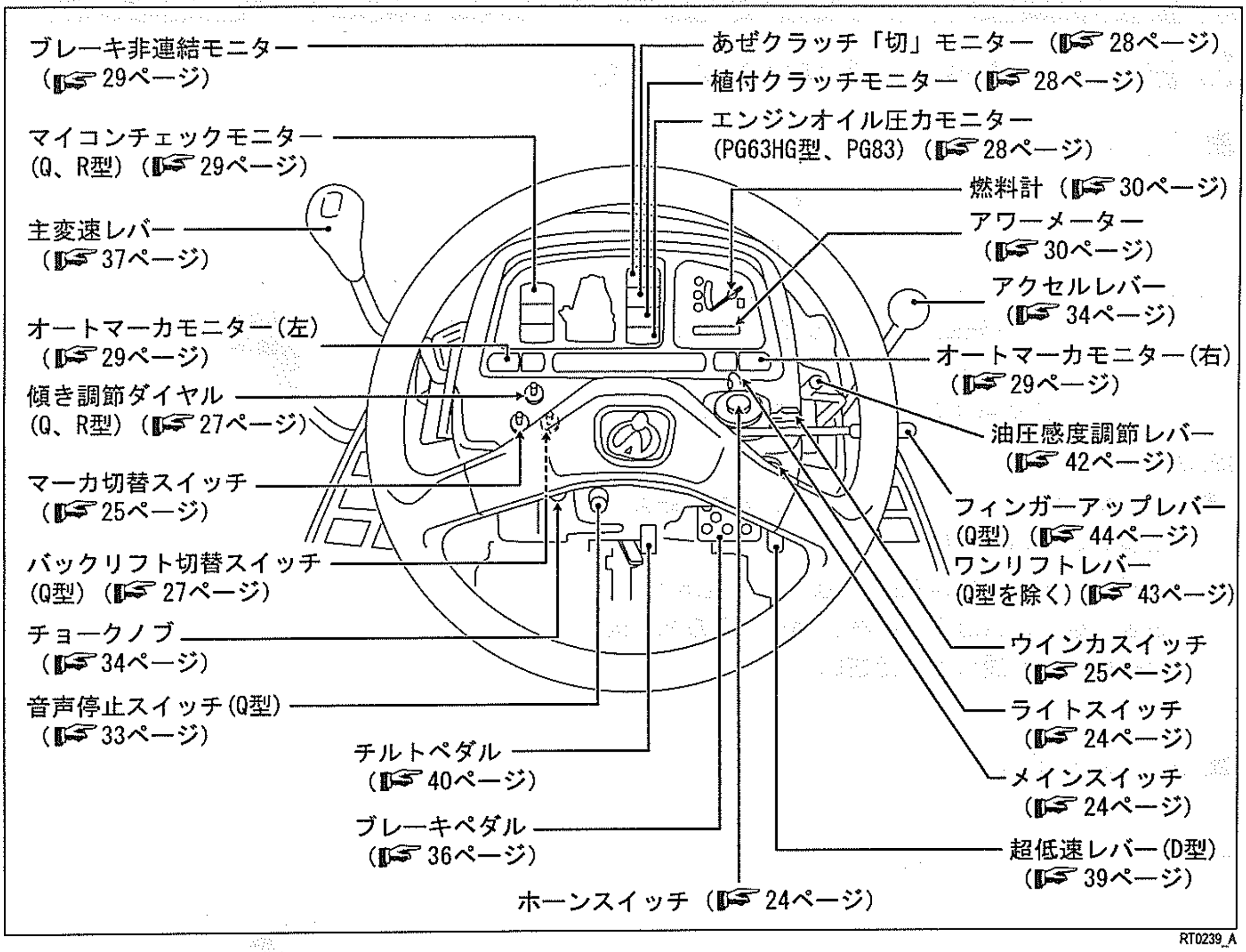
3.1 各部の名称



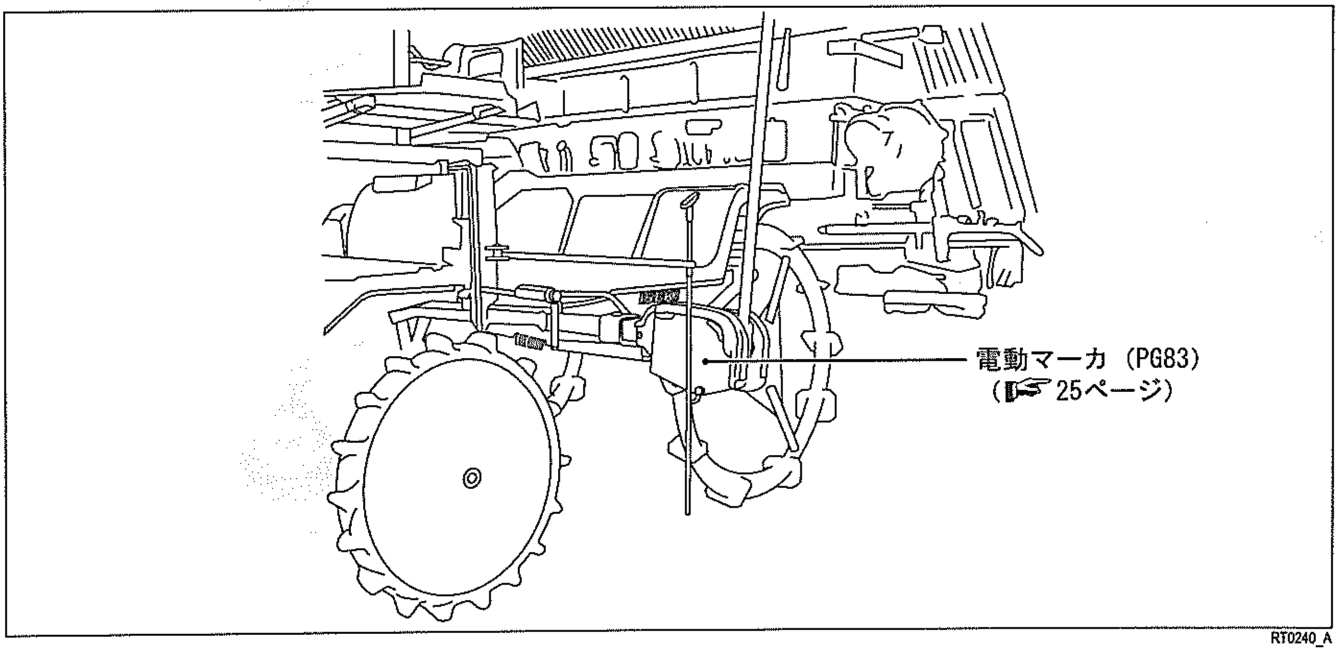
RT0237_A



RT0238_A



RT0239_A



RT0240_A

3.2 計器およびスイッチのはたらき

3.2.1 スイッチのはたらき

■メインスイッチ

RT0353_A

「切」・・・・・・エンジンが停止します。

「入」・・・・・・エンジンが回転中の位置です。

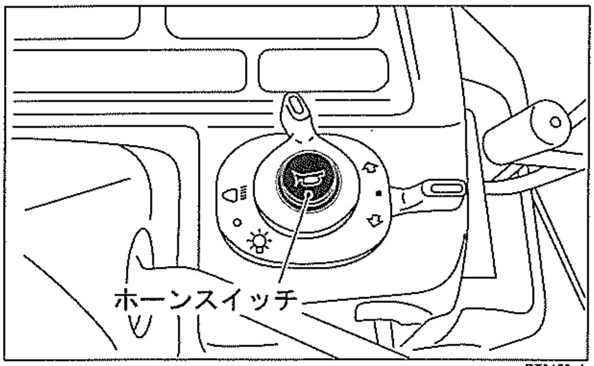
「始動」・・・・クラッチペダルをいっぱい踏み込んで、「始動」位置にするとエンジンが始動します。
手を離すと、「入」に戻ります。

補足

- エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」位置にしないでください。
- メインスイッチの作動は 1 回 10 秒程度とし、始動しないときは 30 秒程度停止してから、再び操作を繰り返してください。

■ホーンスイッチ

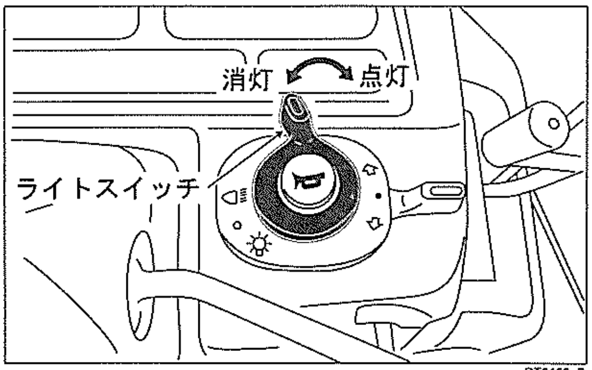
メインスイッチが「入」位置のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



RT0158_A

■ライトスイッチ

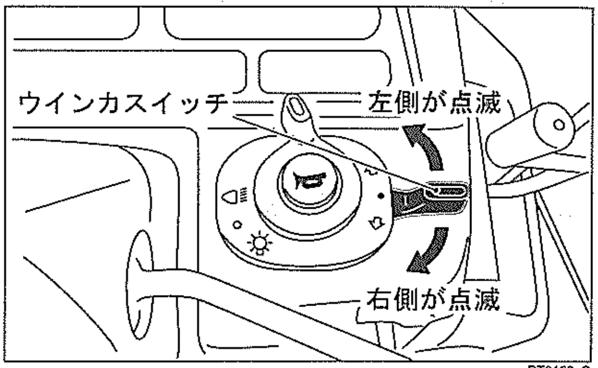
メインスイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを右方向に回すとライトが点灯します。



RT0158_B

■ウインカスイッチ

メインスイッチが「入」位置のとき、旋回する側の矢印方向にウインカスイッチを回してください。ウインカとウインカパイロットランプが点滅し、旋回方向を知らせます。



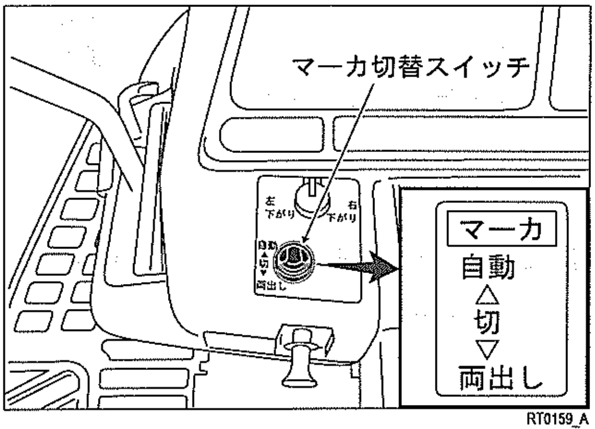
RT0158_C

■マーカ切替スイッチ

「自動」……線引マーカが交互に出るようになります。
オートマーカモニターランプが点灯している側のマーカが出ます。

「切」………線引マーカは出ません。

「両出し」…左右の線引マーカが同時に出るようになります。このとき、オートマーカモニターランプは左右とも点灯します。



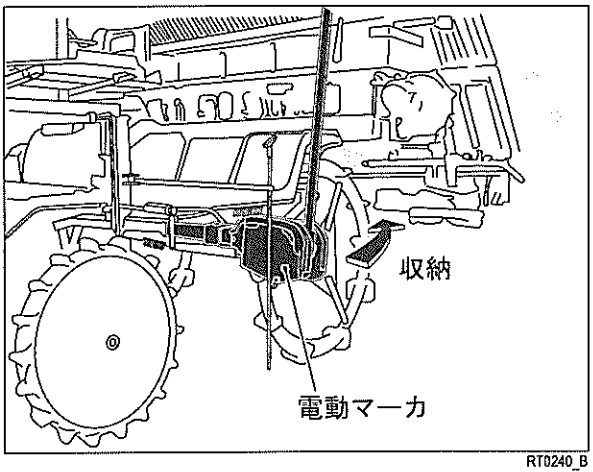
RT0159_A

■電動マーカ（PG83）

植付部に連動し、線引マーカを電動で作動させます。

補足

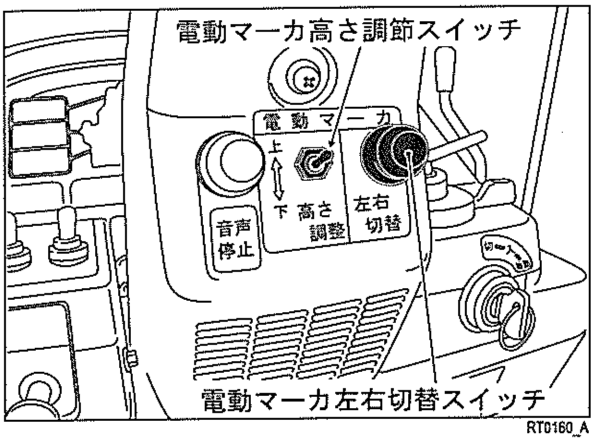
- 電動マーカ下降時、障害物等で電動マーカが降りないときは、自動で元の位置に復帰します。
- 電動マーカ上昇時、障害物等で電動マーカが上がらないときは、モーターの保護機能がはたらき、モーターが停止します。
  保護機能がはたらいたときは、障害物を取り除いてください。また復帰には30秒程度時間がかかるため、電動マーカは作動しません。



RT0240_B

■電動マーカ左右切替スイッチ（PG83）

植付部が「下」のとき、このスイッチを押すとマーカの出る方向が交互に入れ替わります。



RT0160_A

■電動マーカ高さ調節スイッチ（PG83）

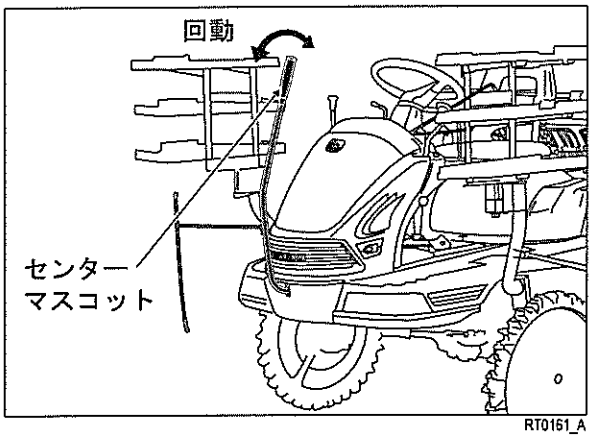
植付部が「下」のとき、このスイッチを操作するとマーカの高さを変えることができます。
ほ場の条件により、マーカが接地しないときに使用してください。

補足

- 電動マーカ高さ調節スイッチで調節したマーカの高さは、メインスイッチを「切」にするまで保持されます。再度「入」にすると工場出荷時の高さに戻ります。

■センターマスコット（苗減少警告灯）

(1) 苗のせ台の苗が一定量までなくなると点滅します。
(2) 植付クラッチが「止まる」のときは点滅しません。
(3) 線引マーカの引いた跡に合せて植付けると、適正な隣接条間が保てます。直進の目安になり楽に直進できます。



RT0161_A

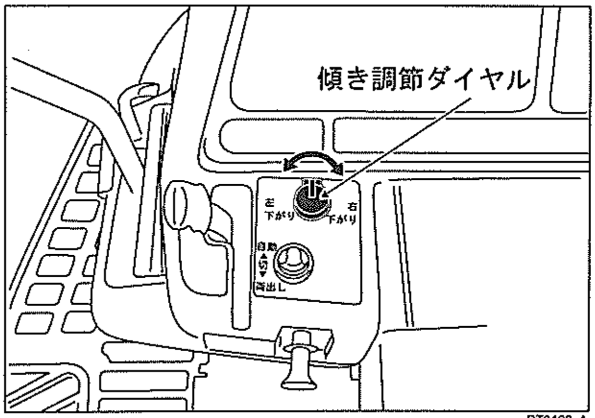
補足

- センターマスコットは、前後に回動します。見やすい位置にセットしてください。

3.2.2 スイッチのはたらき（Q、R型）

■傾き調節ダイヤル

(1) 植付中、左右どちらかが浮きぎみ、または沈みぎみ傾向のときにこのダイヤルで調整します。
(2) 「中央」位置が植付部の水平位置です。通常はこの位置で作業します。
(3) ダイヤルを右に回すと右下がりに、左に回すと左下がりに植付部の傾きを調節できます。
(4) あぜ際等で、少し傾けて植え付けたいときにも使用してください。



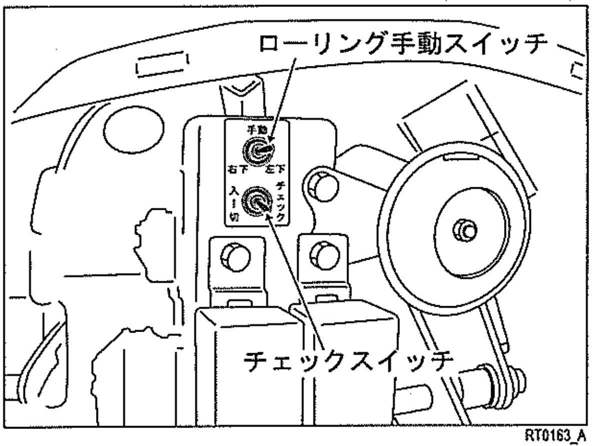
RT0162_A

■チェックスイッチ（Q、R型）

(1) 「入」にすると各センサーの故障がチェックできます。このとき、自動制御は作動しません。
(2) 通常作業中は、「切」で使用してください。

補足

- チェックスイッチはボンネット内にあります。



RT0163_A

■ローリング手動スイッチ（Q、R型）

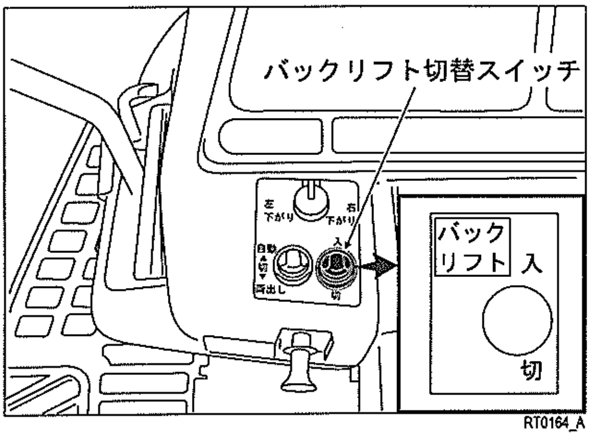
スイッチを右に操作すると、植付部が右下がり方向に動くように、左に操作すると左下がり方向に動くように油圧ローリングが作動します。

補足

- ローリング手動スイッチはボンネット内にあります。

■バックリフト切替スイッチ（Q型）

(1) 「入」にするとバックリフトが作動します。
(2) 「切」にするとバックリフトは作動しません。

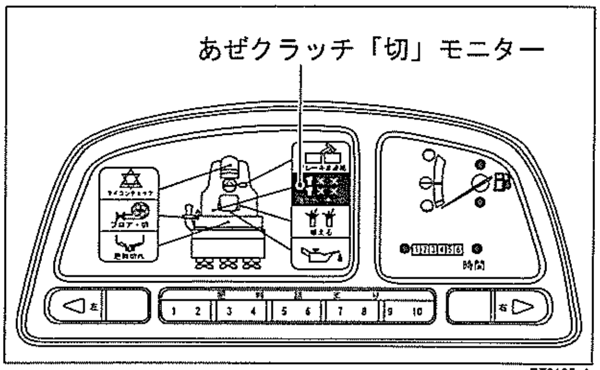


RT0164_A

3.2.3 計器のはたらき

■あぜクラッチ「切」モニター

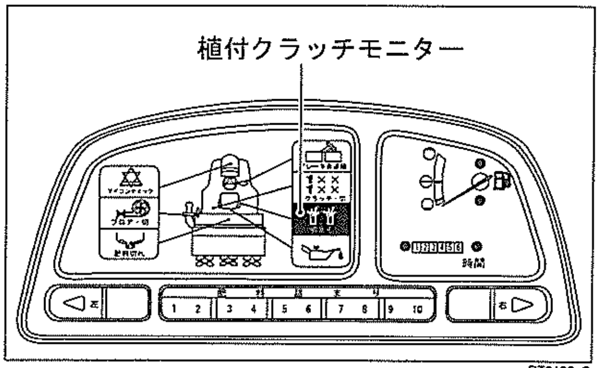
植込杆停止レバーが「切」位置のときに点灯します。



■植付クラッチモニター

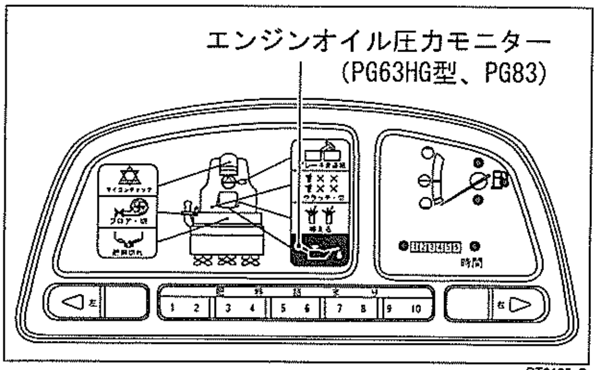
(1) 植付クラッチレバーが、「植える」位置のときに点灯します。(Q 型以外)

(2) フィンガーアップレバーで植付クラッチを「入」にしたとき点灯します。(Q 型)



■エンジンオイル圧力モニター（PG63HG 型、PG83）

エンジン回転中、オイル潤滑系統が異常のとき点灯します。点灯したままのときは、エンジンオイル量およびオイル潤滑系統を点検してください。



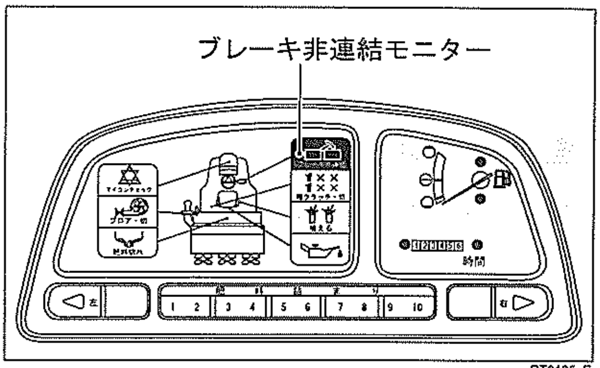
■ブレーキ非連結モニター

⚠警告

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、ブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

ブレーキペダルの連結金具が連結されていないときに点灯します。

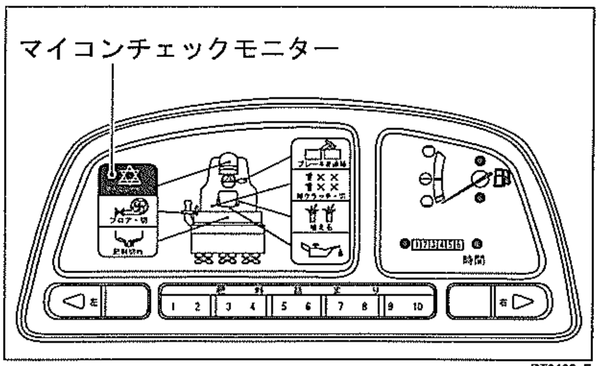


RT0165_E

■マイコンチェックモニター（Q、R型）

(1) チェックスイッチを「入」にすると点灯します。

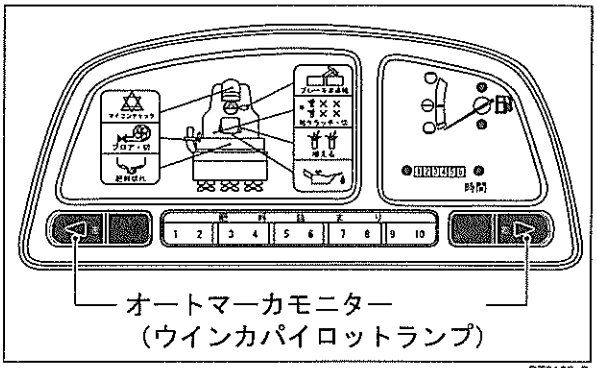
(2) 各センサーの回路が断線したときには点滅します。



RT0165_F

■オートマーカモニター（ウインカパイロットランプ）

モニターランプが点灯している側の線引マーカが出ます。
（ウインカ点滅と同時に点滅します。）

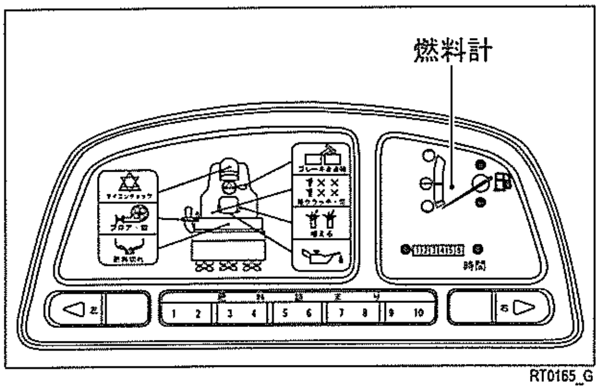


RT0165_B

■燃料計

ガソリンの残り量を表示します。

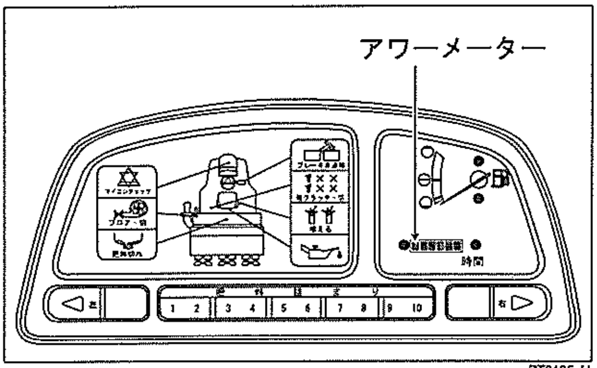
- 燃料満量
- 燃料 1/2 残量
- 燃料空（早めに補給してください。）



RT0165_G

■アワーメーター

運転時間を表示します。

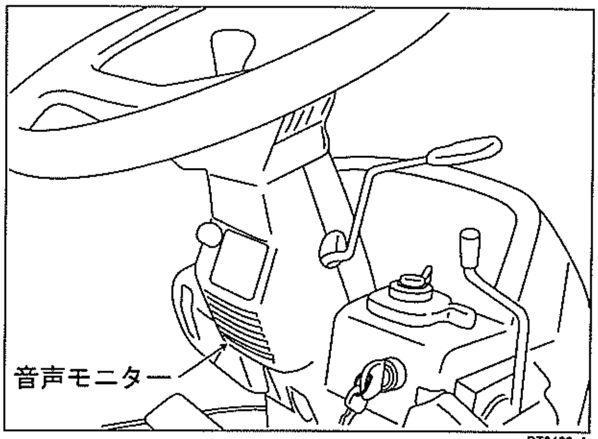


RT0165_H

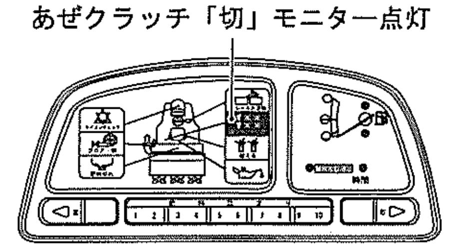
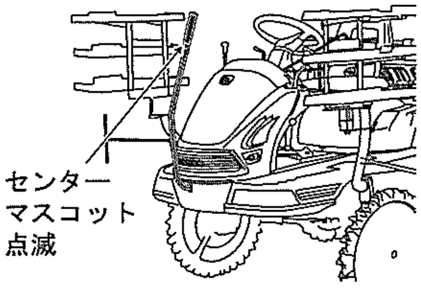
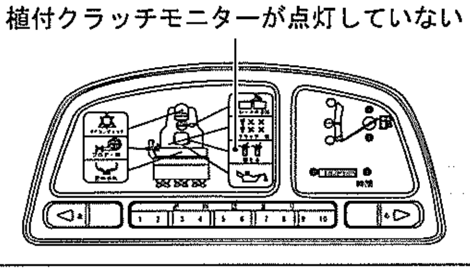
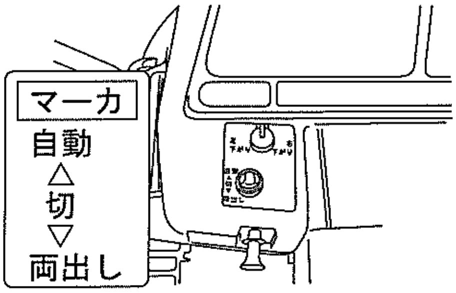
3.2.4 音声モニター（Q 型）

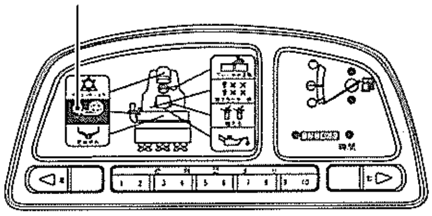
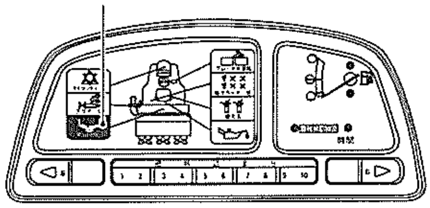
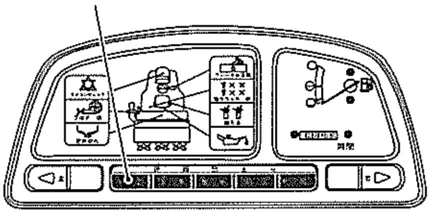
この装置は次の２つのはたらきをします。

(1) 植付作業中の注意警報
通常の植付作業での注意（確認）事項をモニターとともに、音声で知らせます。



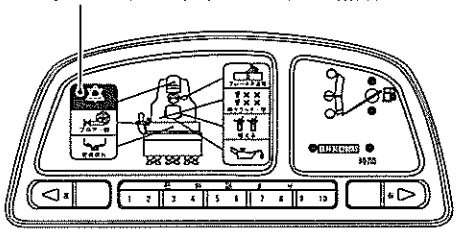
RT0166_A

	音声の内容	モニターの内容	注意（確認）事項
1	ピンポーン あぜクラッチが切れています （２回）		植込杆停止レバーの「入」「切」を確認してください。 （☞43 ページ） （F 型は取扱説明書の施肥機編を参照してください。）
2	ピンポーン 苗が少なくなりました （２回）		苗残量を確認してください。 （☞108 ページ）
3	ピンポーン 植付部が回っていません （１回）		植付クラッチの「入」「切」を確認してください。（Q 型） （☞44 ページ）
4	ピンポーン 線引マーカが出ていません （２回）		マーカ切替スイッチを確認してください。 （☞25 ページ）

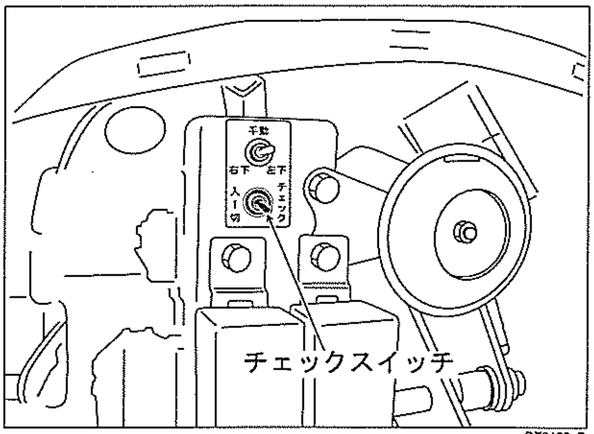
	音声の内容	モニターの内容	注意（確認）事項
5	ピンポーン ブロアーが回っていません （2 回） （F 型）	ブロア・切モニター点灯 	ブロアスイッチの「入」「切」を確認してください。（F 型） （詳細は取扱説明書の施肥機編を参照してください。）
6	ピンポーン 肥料が少なくなりました （2 回） （F 型）	肥料切れモニター点灯 	肥料残量を確認してください。 （F 型） （詳細は取扱説明書の施肥機編を参照してください。）
7	ピンポーン 肥料詰まりを確認してください （2 回） （F 型）	肥料詰まりモニター点滅 	肥料詰まりを確認し、原因を取り除いてください。 （F 型） （詳細は取扱説明書の施肥機編を参照してください。）

(2) 異常のあるセンサーの音声警報
各センサーの異常により、マイコンチェックモニターが点滅しているときにチェックスイッチを「入」にしてください。異常のあるセンサー名称を音声で知らせます。

マイコンチェックモニター点滅



RT0165_N



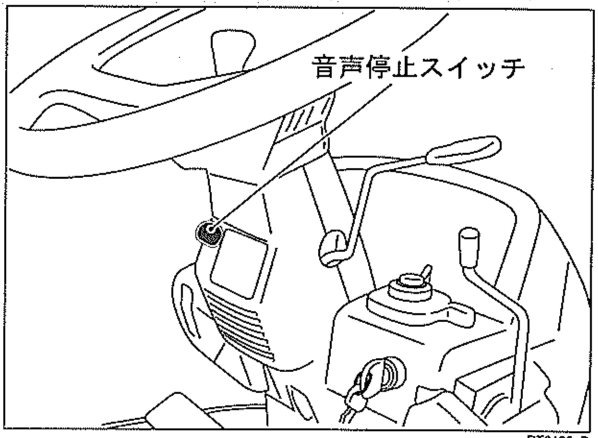
RT0163_B

	音声の内容	処置
1	ピンポーン　リンクスイッチを点検してください	センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられます。お買い上げ先にご連絡ください。
2	ピンポーン　角速度センサーを点検してください	
3	ピンポーン　傾斜センサーを点検してください	
4	ピンポーン　ローリングセンサーを点検してください	
5	ピンポーン　レバーセンサーを点検してください	

3.2.5 音声停止スイッチ

(1) スイッチを押すと再生されている音声警報が停止します。
再生する音声が複数ある場合は、音声停止スイッチを離してから 2 秒後より次の音声を再生します。
（Q 型および QF 型以外は、ブザー停止スイッチとして機能します。）

(2) スイッチを約 3 秒間押し続けることにより、すべての音声警報を一時的に停止することができます。
（メインスイッチを「切」にし、再度「入」にすることにより元の状態に戻ります。）



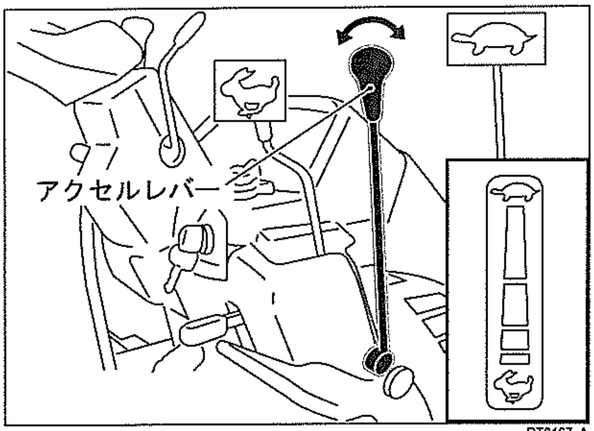
RT0166_B

3.3 レバー、ペダル、シート関係の取り扱い

3.3.1 アクセルレバーとアクセルペダル

■アクセルレバー

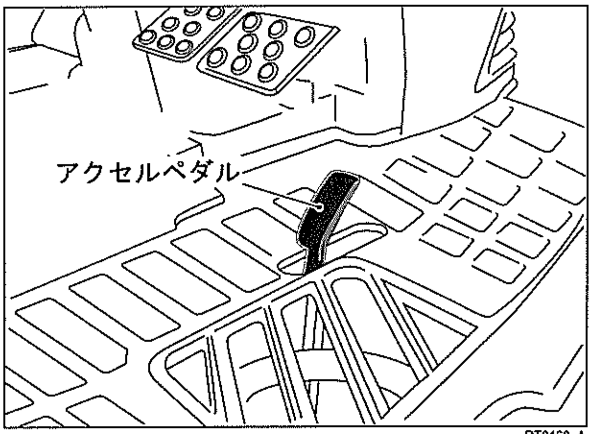
レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり、前方に押すと下がります。



RT0167_A

■アクセルペダル

ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がります。



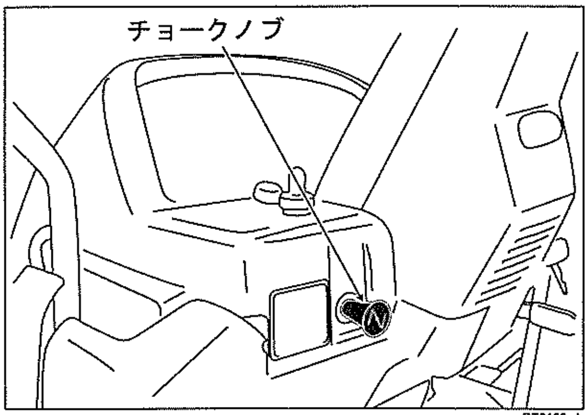
RT0168_A

3.3.2 チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。

補 足

- 始動時以外は、使用しないでください。



RT0169_A

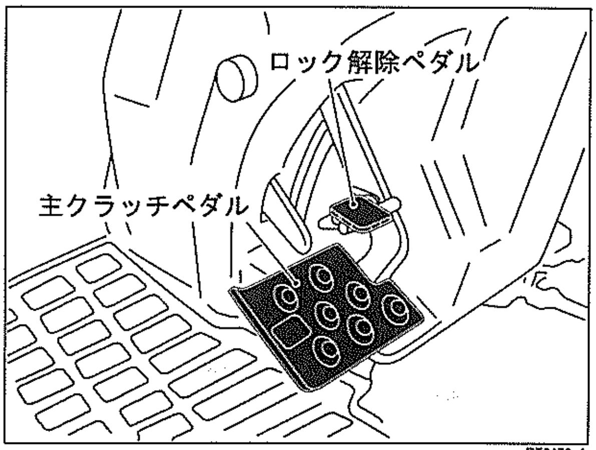
3.3.3 主クラッチペダル

⚠警告

座席から離れて作業する場合は、主クラッチペダルをいっぱい踏み込み、ロックしてください。

※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

ロック解除ペダルを踏まずに主クラッチペダルのみをいっぱい踏み込むと、クラッチが切れた状態でロックされます。主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、足を離すとクラッチがつながります。



RT0170_A

補 足

- 主クラッチペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。
- エンジン始動時は踏み込まないとエンジンが始動しません。

3.3.4 ロック解除ペダル

(1) 主クラッチペダルのロックを解除させるペダルです。

(2) 変速切り替え時等、主クラッチペダルをロックさせたくないときは、主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏んでください。

3.3.5 ブレーキペダル

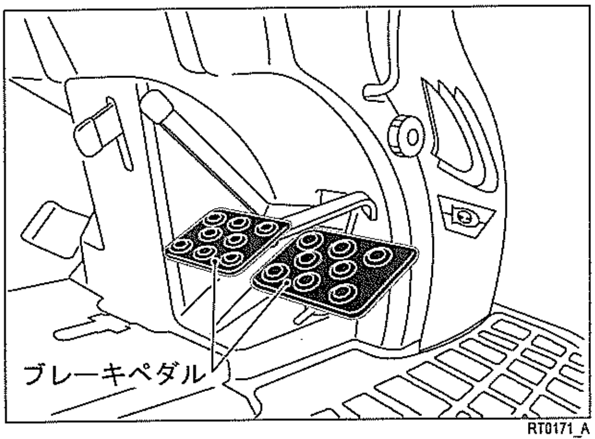
⚠警告

田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

(1) 左側のペダルを踏み込むと左後輪に、右側のペダルを踏み込むと右後輪にブレーキがかかります。

(2) 旋回する側のペダルを踏み込んでください。



3.3.6 駐車ブレーキレバー

⚠警告

駐車時、停止時には必ず駐車ブレーキを確実にかけてください。

※ 守らないと、田植機が自然に動き出し傷害事故を引き起こすおそれがあります。

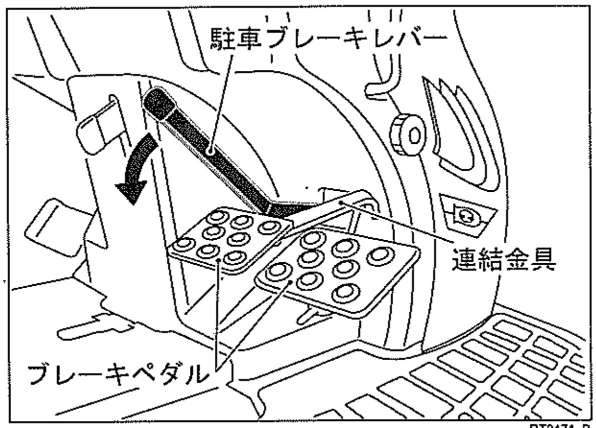
注意

駐車ブレーキレバーをかけたまま走行しないでください。

※ ブレーキを傷めます。

(1) 田植機を駐停車させておくためのレバーです。

(2) 連結金具で左右のペダルを連結させた後、操作してください。



3.3.7 主変速レバー

⚠警告

田植機から離れるときや点検のときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチ（キー）を抜いておいてください。

※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

苗を補給するときは、主クラッチペダルをロックし、主変速レバーを「中立（PTO）」、植付クラッチを「切」にしてください。

※ 守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

注意

主変速レバーは、主クラッチペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。

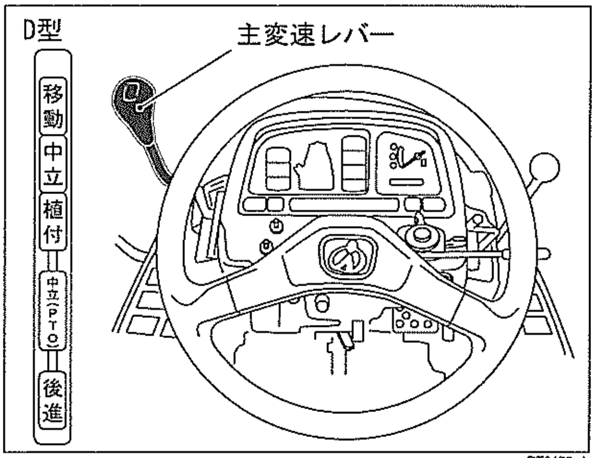
※ 走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

(1) 変速を行うレバーです。

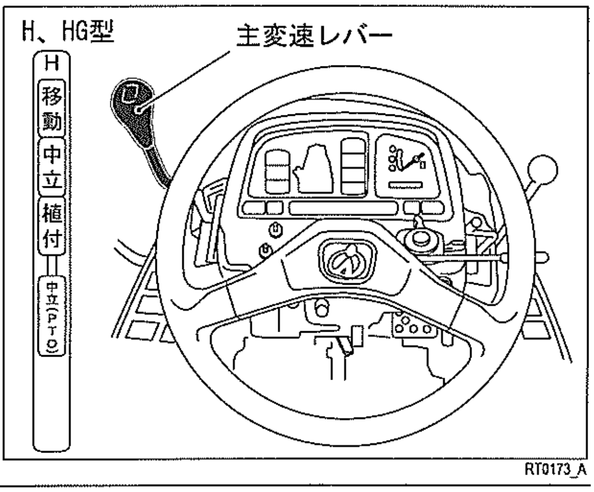
(2) 「後進」位置にすると植付部が上昇します。(D型)

補足

- バックリフト切替スイッチ（Q 型）が「切」位置のとき、バックリフト切替レバー（Q 型以外）が「解除」位置のときには上昇しません。
  （Q 型 ☞27 ページ）、（Q 型以外 ☞43 ページ）



RT0172_A

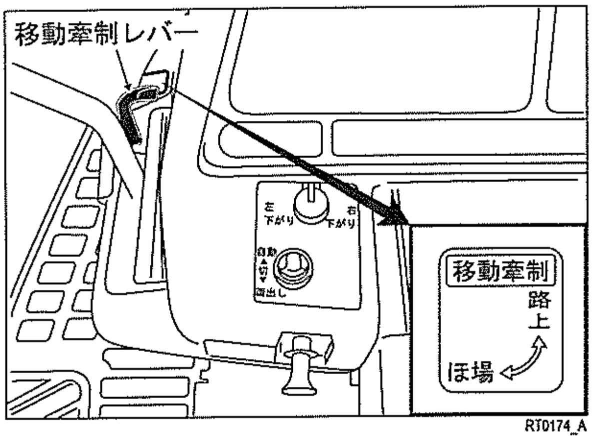


RT0173_A

3.3.8　移動牽制レバー（D 型）

(1) 移動牽制レバーを「ほ場」位置にすることにより、主変速レバーが「植付」⇔「後進」のみの操作になり、植付作業時の変速が容易になります。

(2) 主変速レバーを「移動」および「中立（PTO）」位置にする場合は、移動牽制レバーを「路上」位置にしてください。



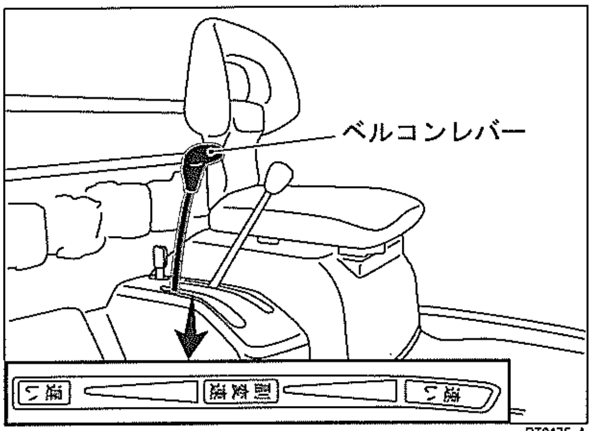
RT0174_A

3.3.9　副変速レバー

■ベルコンレバー（D 型）

(1) 車速を変更するレバーです。

(2) レバーを前方に押すと増速、後方に引くと減速します。（変速は 5 段階です。）



RT0175_A

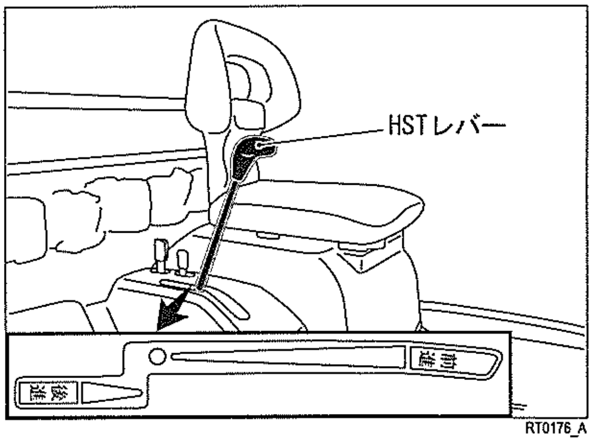
■HST レバー（H、HG 型）

(1) 前進、後進および車速を無段変速できるレバーです。

(2) 「後進」位置にすると植付部が上昇します。

補足

- バックリフト切替スイッチ「切」のときには植付部は上昇しません。（☞27 ページ）

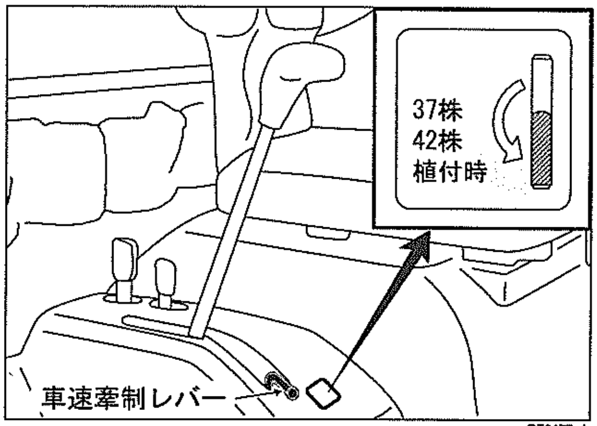


RT0176_A

3.3.10 車速牽制レバー（J、A 型を除く PG83）

(1) 37 株、42 株で植付する場合は、車速牽制レバーを矢印側（後側）に切り替えてください。

(2) 37 株、42 株以外で植付する場合は、車速牽制レバーを矢印と反対側（前側）に切り替えてください。



RT0177_A

3.3.11 超低速レバー（D 型）

注意

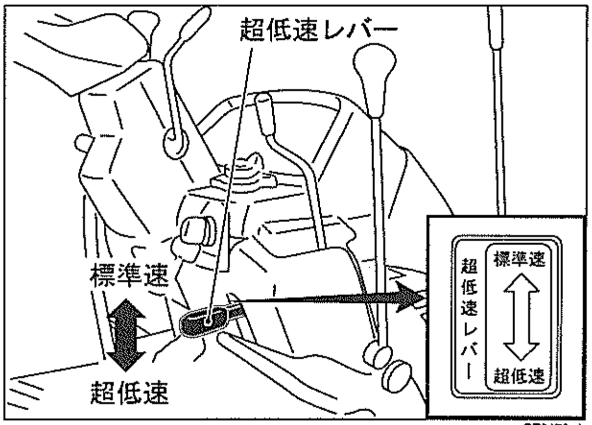
田植作業には使用しないでください。

※ 守らないと、ミッションの損傷につながるおそれがあります。

超低速レバーは、主クラッチペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。

※ 走行中に切り替えるとミッションの損傷につながります。

トラック等への積み降ろしや、ほ場へ出入りするとき等、超低速が必要なときに使用するレバーです。



RT0178_A

3.3.12 前輪デフロックペダル

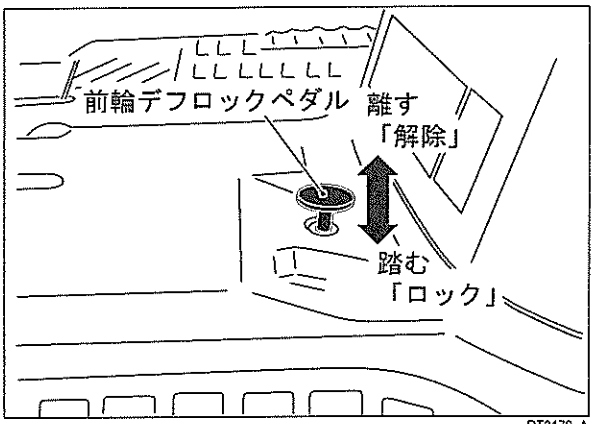
⚠警告

田植作業以外のときは、必ず前輪デフロックペダルが解除してあるか確認してください。

※ 守らないと、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

(1) ペダルを踏み込むと左右前輪の回転が同じになります。

(2) あぜごえ時や旋回時に前輪がスリップする場合に使用します。



RT0179_A

3.3.13 チルトペダル

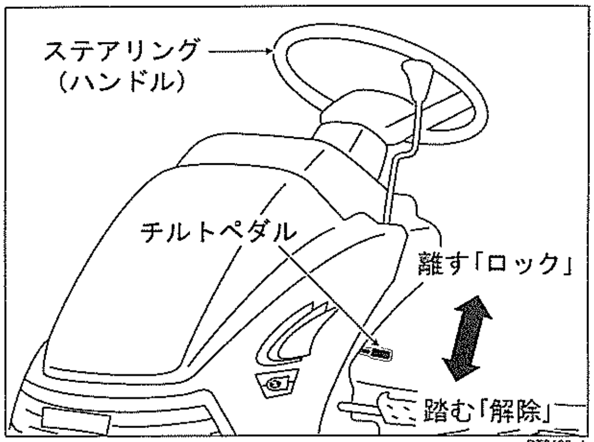
⚠警告

チルトペダルの調節は停止中に行い、走行中は調節しないでください。

※ 走行中に調節すると正常な運転ができなくなり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) ステアリング角度を変更するときに使用するペダルです。

(2) ステアリング角度は 3 段階選べます。



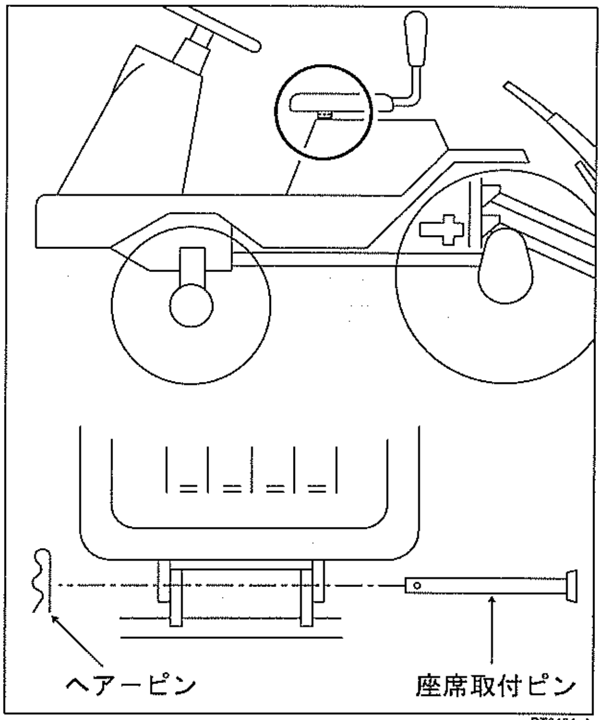
RT0180_A

下記の要領で作業しやすい位置に調節してください。

1. チルトペダルを踏み込んだままステアリング（ハンドル）を前後に動かして、運転しやすい位置にステアリング（ハンドル）を合せます。
2. チルトペダルから足を放し、ステアリング（ハンドル）を少し前後に動かすとステアリング（ハンドル）が固定されます。

3.3.14 座席の調節

作業しやすい位置になるように、座席のピン差し込み位置を変更してください。



RT0181_A

3.3.15 スーパーくるっとターン

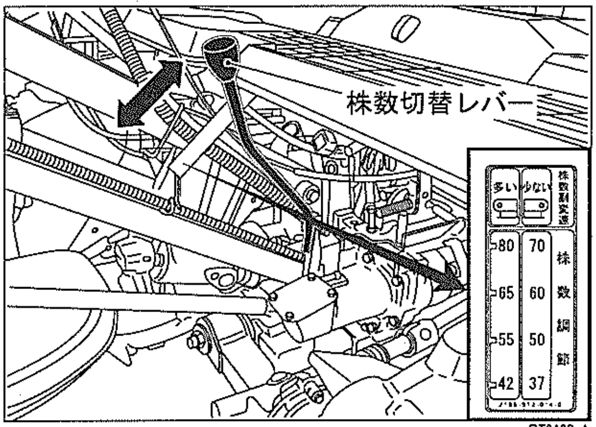
(1) ステアリング（ハンドル）をいっぱい回すことにより、旋回する内側の後輪の駆動力を自動的に切り、旋回しやすくします。

(2) 旋回する側のブレーキペダルを踏むことにより、さらに小さく旋回することができます。

3.3.16 株数切替レバー

(1) 植付株数の切り替えをするレバーです。

(2) レバーの左右操作により植付株数が変わります。



RT0182_A

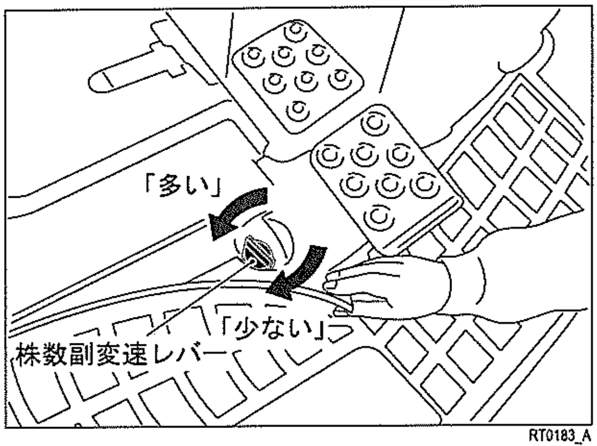
3.3.17　株数副変速レバー

(1)　植付株数の切り替えをするレバーです。

(2)　レバーを回すことにより植付株数が変わります。

補足

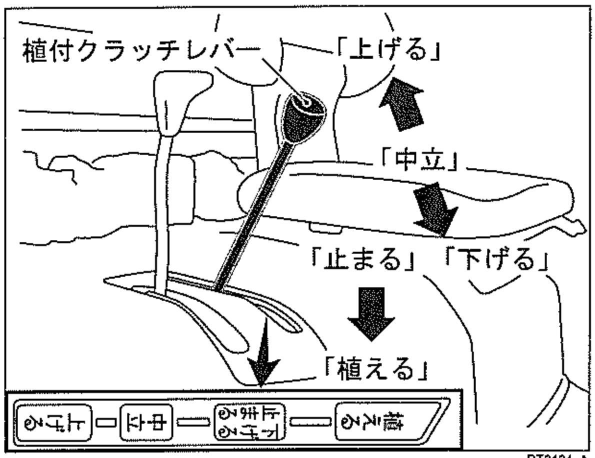
- 希望の植付株数になるように、株数切替レバーおよび株数副変速レバーを、表示ラベルの株数の位置に合せてください。



RT0183_A

3.3.18　植付クラッチレバー（Q 型を除く）

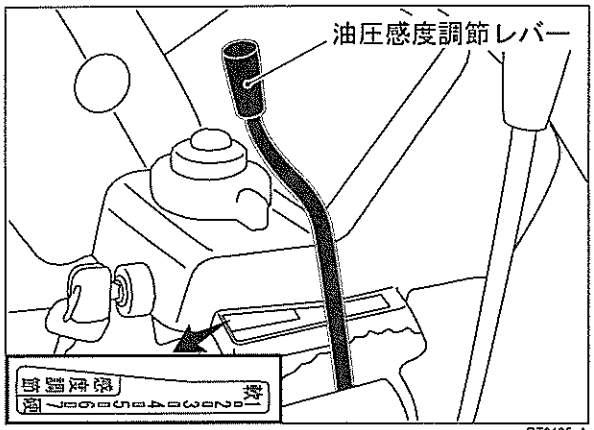
このレバー1 本で、植付部の上昇、下降と植付部への動力の伝達を断続できます。



RT0184_A

3.3.19　油圧感度調節レバー

ほ場の硬軟に応じて油圧感度を変更することができます。



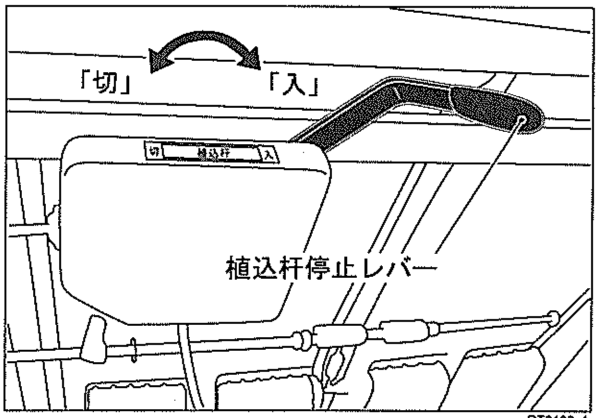
RT0185_A

3.3.20 植込杆停止レバー（F 型を除く）

(1) 2 条ごと（5 条植の場合は中央は 1 条）の植付を停止させるレバーです。

(2) 植えじまいの植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。

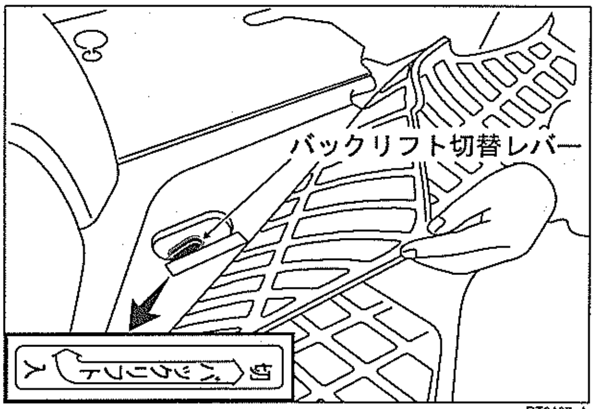
(3) レバーが「切」状態の場合、あぜクラッチ「切」モニターが点灯します。
（F 型については、取扱説明書の施肥機編を参照してください。）



RT0186_A

3.3.21 バックリフト切替レバー（Q 型を除く）

レバーを「入」にするとバックリフトが作動し、「切」にするとバックリフトは作動しません。



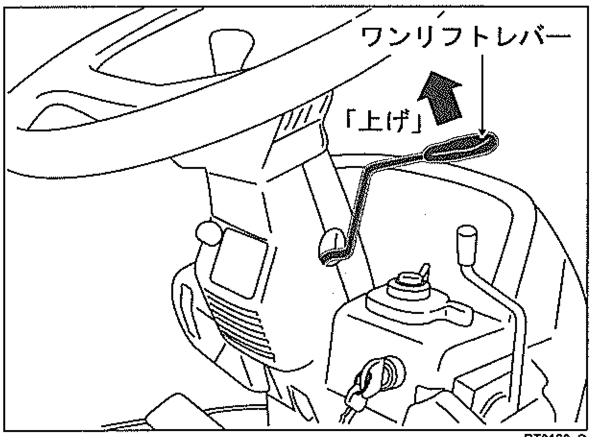
RT0187_A

3.3.22 ワンリフトレバー（DVE、HVE、Q 型を除く）

植付部が下降しているとき、ワンリフトレバーを上に操作すると植付部が上昇します。

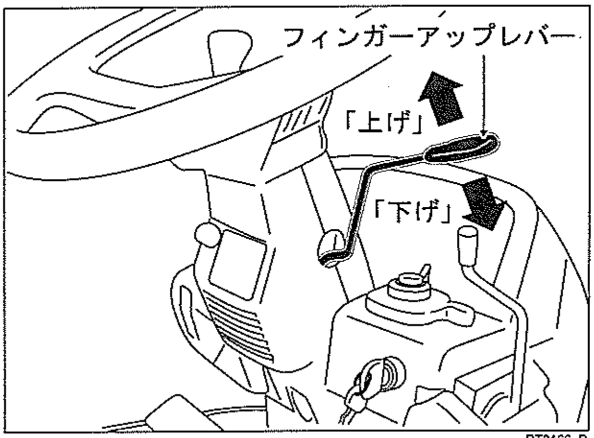
補 足

- ワンリフトレバーは上方向専用です。下方向には操作できません。



RT0166_C

3.3.23 フィンガーアップレバー(Q 型、PG83J 型)



RT0166_D

このレバーは次の 3 つのはたらきをします。

(1) 植付部の昇降

(a) フィンガーアップレバーを上に操作すると、植付部が上昇します。
このとき、植付クラッチは「切」となります。

(b) フィンガーアップレバーを下に操作すると、植付部が下降します。

(2) 植付クラッチの「入」、「切」

植付部が下降しているとき、フィンガーアップレバーを下に操作する度に、植付クラッチは「入」、「切」を交互に繰り返します。

(3) 線引マーカの左右セット方向切り替え

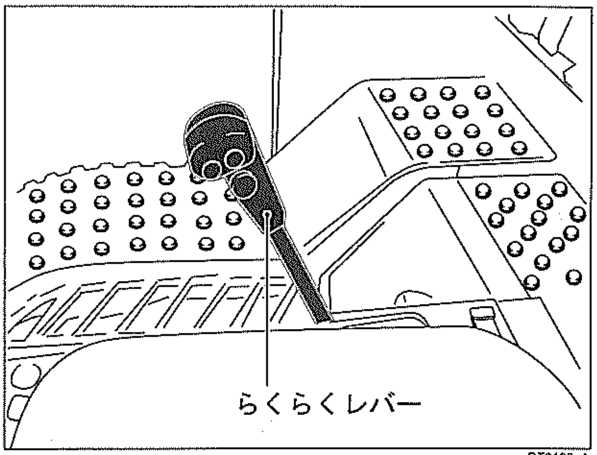
オートマーカスイッチが「入」のとき、フィンガーアップレバーを上に操作する度に、線引マーカのセット方向が左右交互に切り替ります。

補 足

- フィンガーアップレバー操作時、植付ポジションレバーも連動し、植付状態を表示します。

<table>
<tr><td>操　作</td><td colspan="6">はたらき</td></tr>
<tr><td>フィンガーアップレバー</td><td colspan="2">植付部</td><td colspan="2">植付クラッチ</td><td colspan="2">オートマーカ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">「上げ」
 </td><td rowspan="2">上昇しているとき</td><td rowspan="2">上昇のまま</td><td colspan="2" rowspan="2">「切」のまま</td><td>(L)のとき</td><td>(R)セット</td></tr>
<tr><td>(R)のとき</td><td>(L)セット</td></tr>
<tr><td rowspan="2">下降しているとき</td><td rowspan="2">上昇する</td><td>(入)のとき</td><td>切れる</td><td>(L)のとき</td><td>(R)セット</td></tr>
<tr><td>(切)のとき</td><td>「切」のまま</td><td>(R)のとき</td><td>(L)セット</td></tr>
<tr><td rowspan="4">
「下げ」</td><td rowspan="2">上昇しているとき</td><td rowspan="2">下降する</td><td colspan="2" rowspan="2">「切」のまま</td><td>(L)のとき</td><td>(L)マーカ出る</td></tr>
<tr><td>(R)のとき</td><td>(R)マーカ出る</td></tr>
<tr><td rowspan="2">下降しているとき</td><td rowspan="2">下降のまま</td><td>(入)のとき</td><td>切れる</td><td colspan="2" rowspan="2">そのまま</td></tr>
<tr><td>(切)のとき</td><td>入る</td></tr>
</table>

3.3.24 らくらくレバー（J 型を除く PG83）



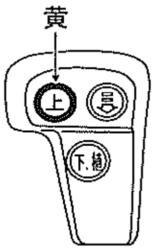
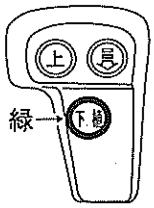
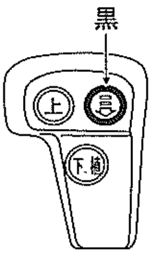
RT0188_A

このレバーは次の 3 つのはたらきをします。

(1) 「上」、「下. 植」のスイッチが、フィンガーアップレバーのそれぞれ「上げ」、「下げ」の操作に相当し、フィンガーアップレバーでの操作がレバーを握ったまま行えます。

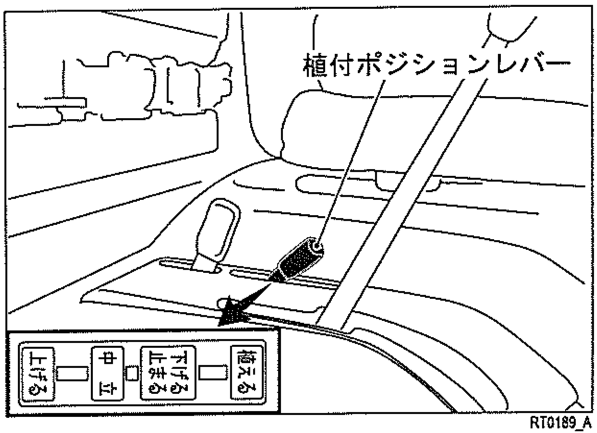
(2) 「降」のスイッチを押している間のみ、植付部が下降します。バックであぜ等に寄せるとき楽に行えます。

(3) 植付部が上昇中に「上」スイッチを押すと、その位置で植付部を止めることができます。再度「上」スイッチを押すと植付部が上昇します。

<table>
<tr><th colspan="2">操　作</th><th colspan="6">はたらき</th></tr>
<tr><th>らくらくレバー</th><th>フィンガーアップレバー</th><th colspan="2">植付部</th><th colspan="2">植付クラッチ</th><th colspan="2">オートマーカ</th></tr>
<tr><td rowspan="5"></td><td rowspan="5">「上げ」 </td><td rowspan="2">上昇しているとき</td><td rowspan="2">上昇のまま</td><td colspan="2" rowspan="2">「切」のまま</td><td>(L)のとき</td><td>(R)セット</td></tr>
<tr><td>(R)のとき</td><td>(L)セット</td></tr>
<tr><td>上昇中</td><td>上昇停止</td><td colspan="2">「切」のまま</td><td colspan="2">そのまま</td></tr>
<tr><td rowspan="2">下降しているとき</td><td rowspan="2">上昇する</td><td>(入)のとき</td><td>切れる</td><td>(L)のとき</td><td>(R)セット</td></tr>
<tr><td>(切)のとき</td><td>「切」のまま</td><td>(R)のとき</td><td>(L)セット</td></tr>
<tr><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"> 「下げ」</td><td rowspan="2">上昇しているとき</td><td rowspan="2">下降する</td><td colspan="2" rowspan="2">「切」のまま</td><td>(L)のとき</td><td>(L)マーカ出る</td></tr>
<tr><td>(R)のとき</td><td>(R)マーカ出る</td></tr>
<tr><td rowspan="2">下降しているとき</td><td rowspan="2">下降のまま</td><td>(入)のとき</td><td>切れる</td><td colspan="2" rowspan="2">そのまま</td></tr>
<tr><td>(切)のとき</td><td>入る</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">—</td><td>上昇しているとき</td><td>下降する</td><td colspan="2">「切」のまま</td><td colspan="2" rowspan="3">そのまま</td></tr>
<tr><td rowspan="2">下降しているとき</td><td rowspan="2">下降のまま</td><td>(入)のとき</td><td>「入」のまま</td></tr>
<tr><td>(切)のとき</td><td>「切」のまま</td></tr>
</table>

3.3.25 植付ポジションレバー（Q 型）

植付ポジションレバーはフィンガーアップレバーと連動し、モーターの力で自動的に動いて、植付状態を表示します。



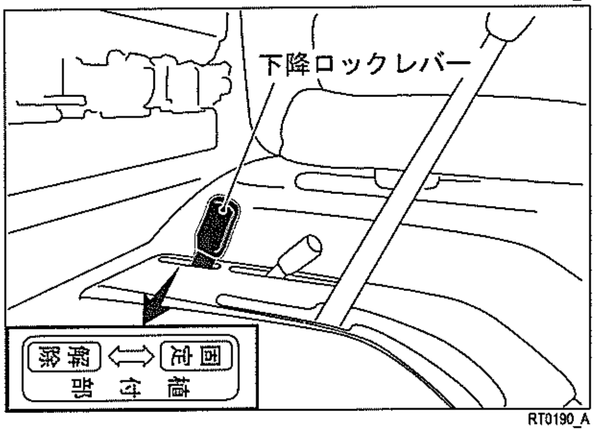
RT0189_A

補 足

- 非常時には手動に切り替えることができます。（☞140 ページ）

3.3.26 下降ロックレバー

このレバーを「固定」位置にすると、フィンガーアップレバーを「下げ」にしても植付部は下降しません。



RT0190_A

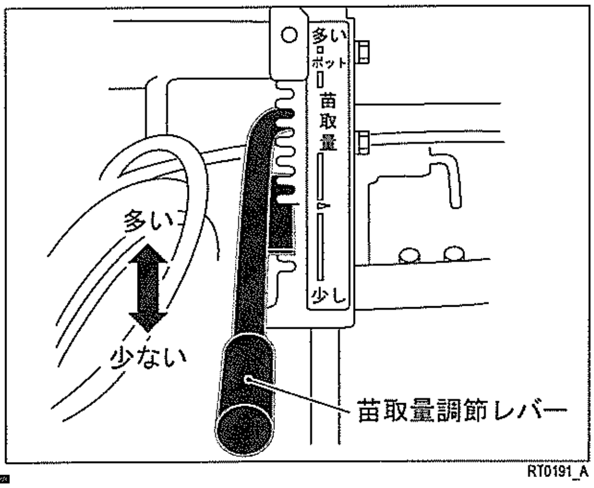
補 足

- 植付作業中は、「解除」位置で使用してください。

3.3.27 苗取量調節レバー

(1) 全条の苗取量を一度に調節するレバーです。

(2) レバーを上の溝にセットすると苗取量は多くなり、下の溝にセットすると苗取量は少なくなります。

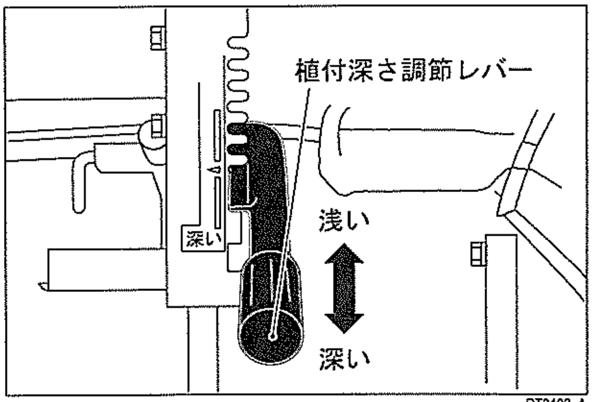


RT0191_A

3.3.28 植付深さ調節レバー

(1) 植付深さを調節するレバーです。

(2) レバーを上の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。



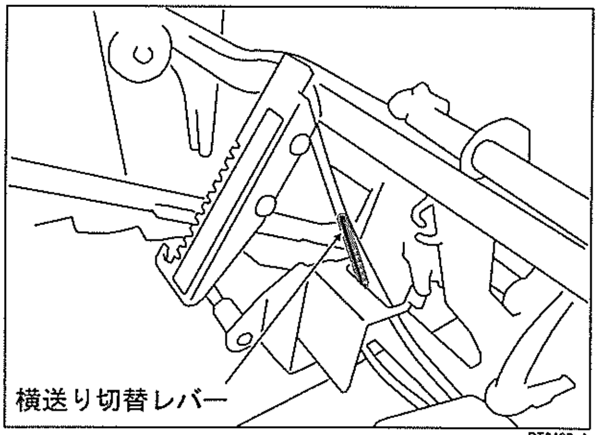
RT0192_A

3.3.29 横送り切替レバー

⚠注意

切り替えはエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因となります。

横送り量の切り替えを行うレバーです。



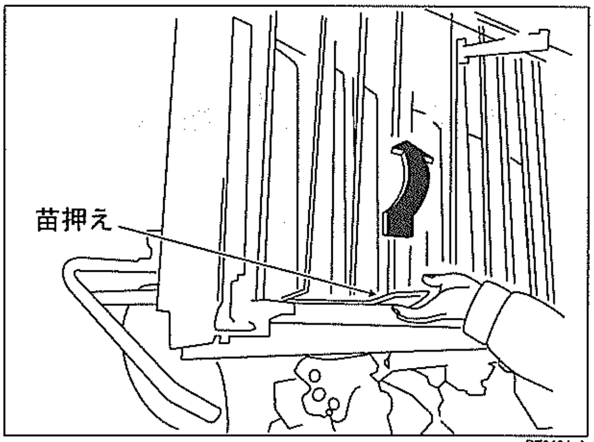
RT0193_A

3.3.30 苗押え

⚠注意

苗の取り出しは、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

残り苗を取り出すときに、苗押えを上に引き抜き上側に回すと苗が取り出しやすくなります。



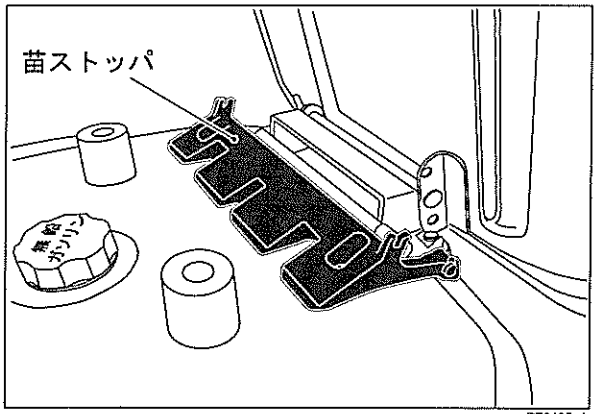
RT0194_A

3.3.31 苗ストッパ

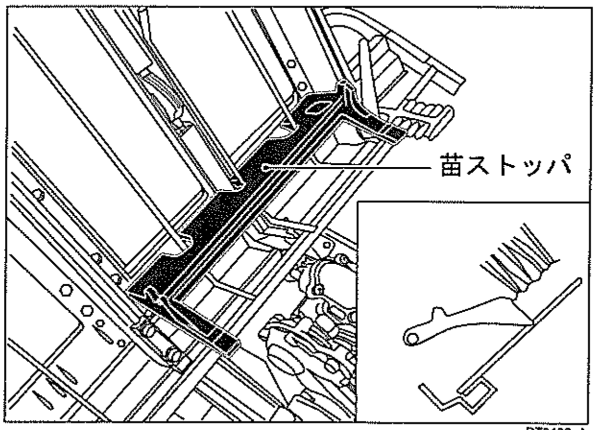
注意

苗ストッパを使用した後は、必ず苗押えから取り外し、座席下に収納してください。
※ 守らないと、苗ストッパが後方に倒れて植込杆と接触し、部品を破損するおそれがあります。

(1) 1条ごとに植付を停止したいときに使用します。植込杆停止レバーと組み合せて使用してください。
(2) 苗ストッパは右図のようにシートに取り付けてあります。使用の際に取り外して苗押えに装着してください。



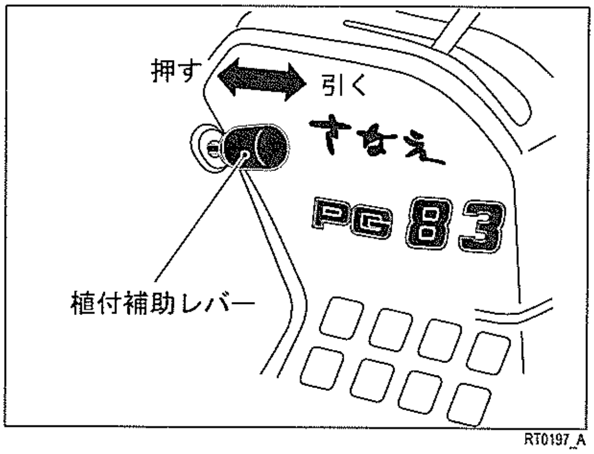
RT0195_A



RT0196_A

3.3.32 植付補助レバー(PG83型)

(1) ほ場から出るときに、このレバーを引くと植付部をリフトしても植込杆が回ります。植付しながらほ場から出ることができます。
(2) レバーを押すと植込杆は止まります。



RT0197_A

4. 作業前の点検

故障を未然に防ぐには、田植機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠危険

給油、注油および点検整備は、エンジン等の過熱部分が十分冷えてから行ってください。
※ 守らないと、やけど等の原因となります。

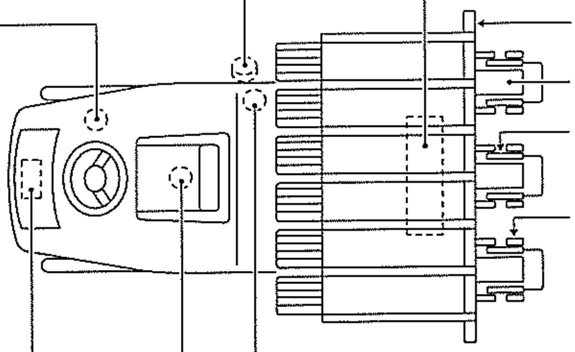
給油、注油および点検整備するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

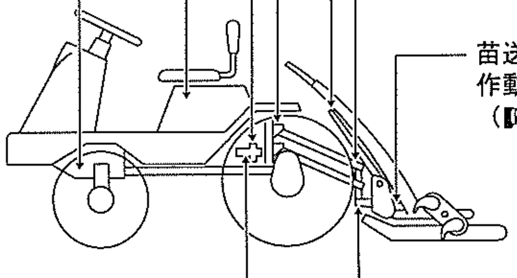
⚠警告

給油、注油および点検整備するときは、田植機を平たんな広い場所に置いてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

給油、注油および点検整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部を降ろすか、下降ロックレバーを「固定」位置にし植付部の油圧を固定してから行ってください。
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1 給油、注油箇所の点検と補給





RT0198_A

4.1.1 燃料

⚠危険

燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行ってください。
※ 燃料のつぎこぼし等により、火災の原因となります。

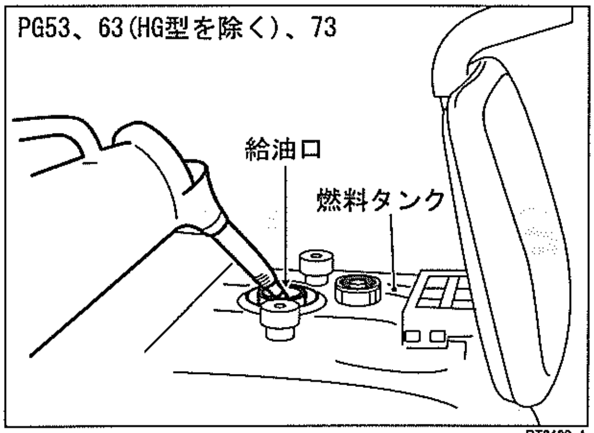
燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。
※ こぼしたままエンジンを始動すると引火し、火災の原因となります。

タンクキャップを開け、給油口より給油してください。
燃料は、自動車用無鉛ガソリンを使用してください。

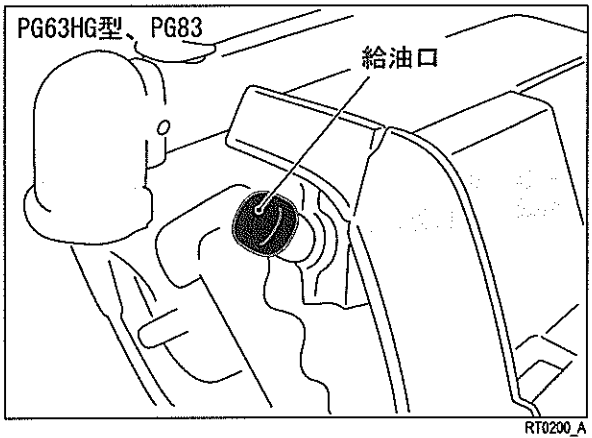
補足

- 燃料タンクの容量は143～147ページを参照してください。

給油後はタンクキャップを閉めてください。



RT0199_A



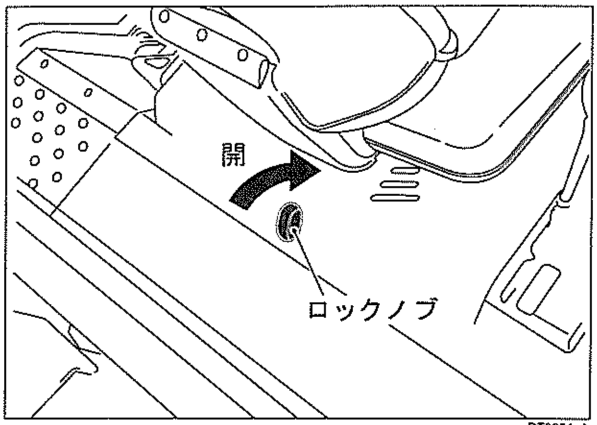
RT0200_A

4.1.2 エンジンオイル

⚠注意

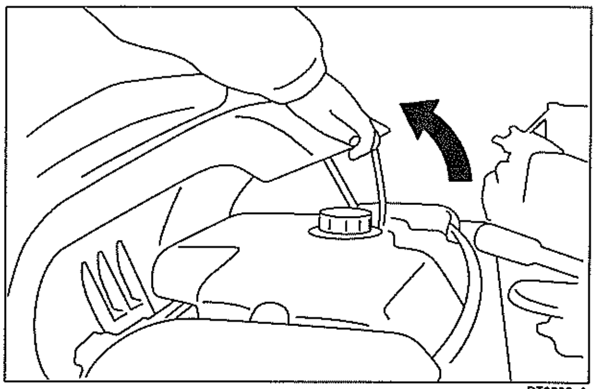
エンジンオイルの点検・補給は、必ずメインスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。
※ これを怠ると、やけどをするおそれがあります。

1 ロックノブを回してください。



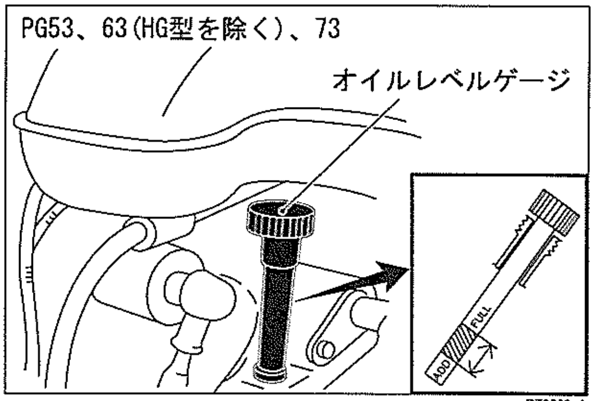
RT0201_A

2 エンジンカバーを開けてください。



RT0202_A

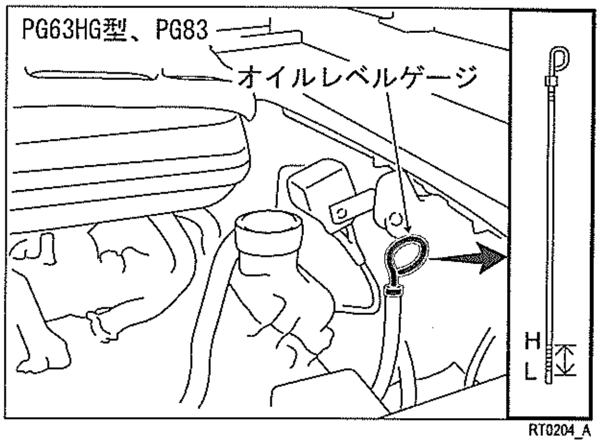
3 オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。



RT0203_A

4 「下限」以下の場合はヰセキ純正オイル10W30#または 30#、SE 級以上を補給してください。

機種	搭載エンジン	オイル量
PG53 PG63 (HG 型除く) PG73	FE400D	1.1 ℓ (オイルフィルタ交換時 1.3 ℓ)
PG63HG 型	FD501D	1.2 ℓ (オイルフィルタ交換時 1.5 ℓ)
PG83	FD620D	1.2 ℓ (オイルフィルタ交換時 1.5 ℓ)



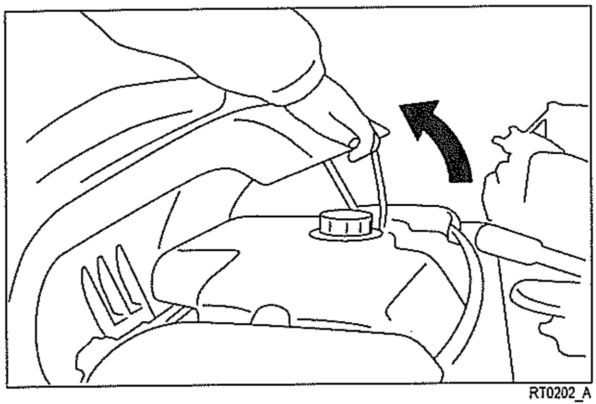
5 エンジンカバーを閉めてください。

4.1.3 冷却水（PG63HG型、PG83）

⚠警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

1 ロックノブを回し、エンジンカバーを開けてください。

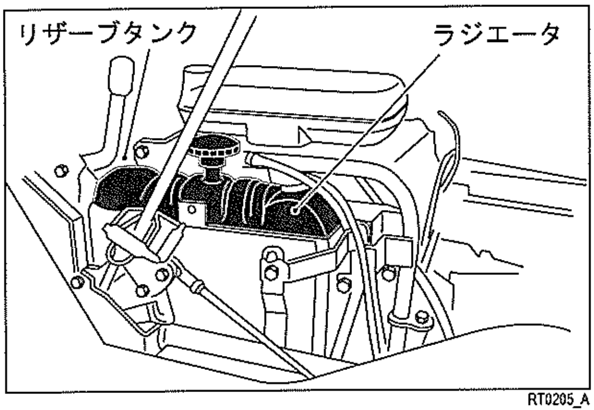


RT0202_A

2 エンジン後部にあるリザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（H↔L）にあるかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

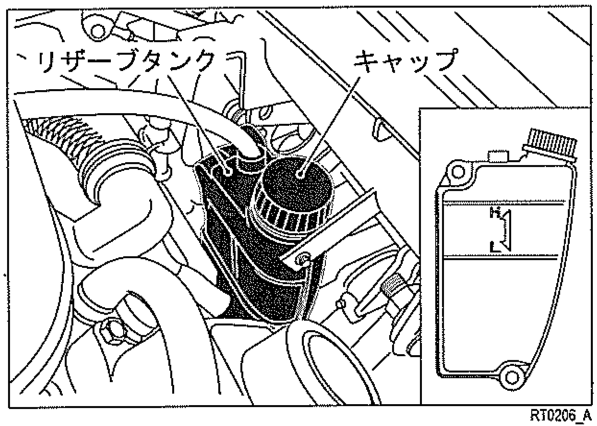
補足

- 冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。



RT0205_A

3 点検後はリザーブタンクのキャップを確実に閉め、エンジンカバーを閉じてください。



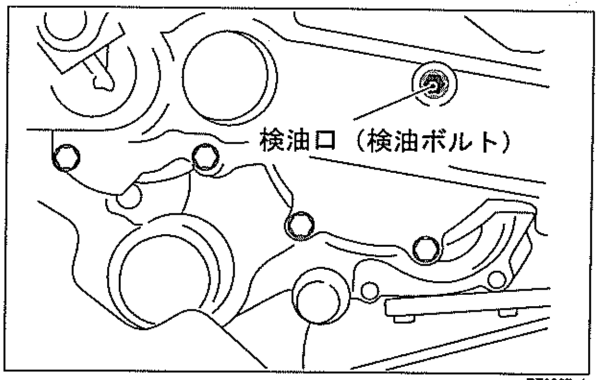
RT0206_A

4.1.4 チェンジミッションオイル（全型式）

■点検

1 検油ボルトを外し、検油口からオイルが出るか確認してください。

2 確認が終わったら、検油ボルトを元どおりにしてください。

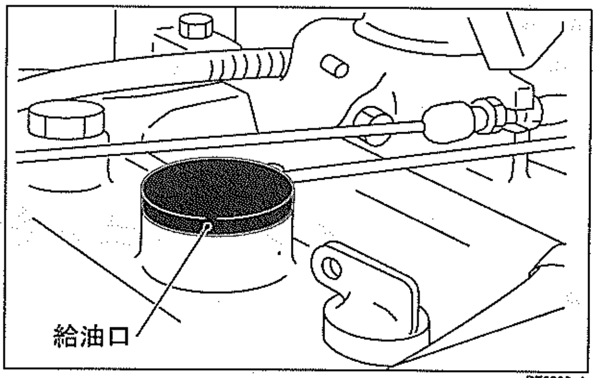


RT0207_A

■補給

1 油量が少ない場合は、給油口のキャップを外し、検油口からオイル（ヰセキハイポイドギヤーオイル 80#）が流れ出すまで、給油口から補給してください。

2 給油が終わったら、キャップを元どおりにしてください。



RT0208_A

補 足

- 給油時・検油時は、植付部を最大リフトしてください。

4.1.5 オイルタンク（PG83、PG63H、PG53H）

■点検

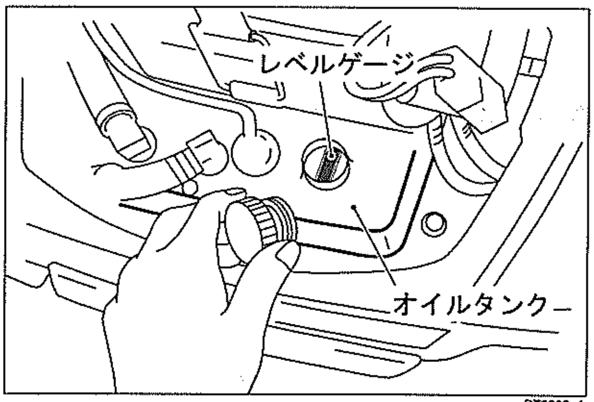
植付部を最大リフトした状態のとき、注油口から中をのぞき、レベルゲージの底面までオイルがあるかどうか確認してください。

■補給

油量が少ない場合は、給油口からゲージにオイル（ヰセキU·T·Hオイル）が届くまで給油してください。

補 足

- 給油時・検油時は、植付部を最大リフトしてください。

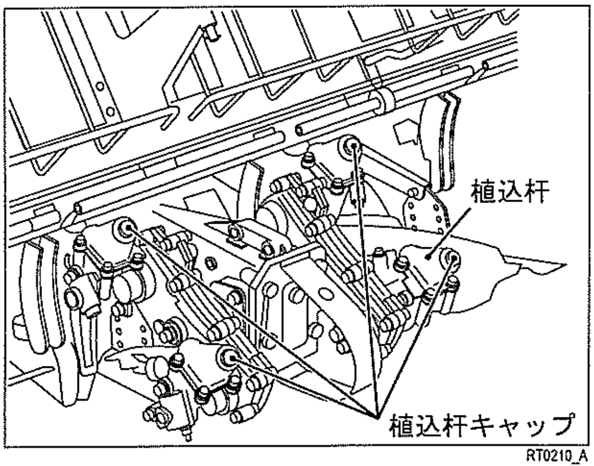


RT0209_A

4.1.6 植込杆

■点検

植込杆キャップを取り外し、植込杆の中にグリースがあるか確認してください。
確認後は植込杆キャップを取り付けてください。



RT0210_A

■補給

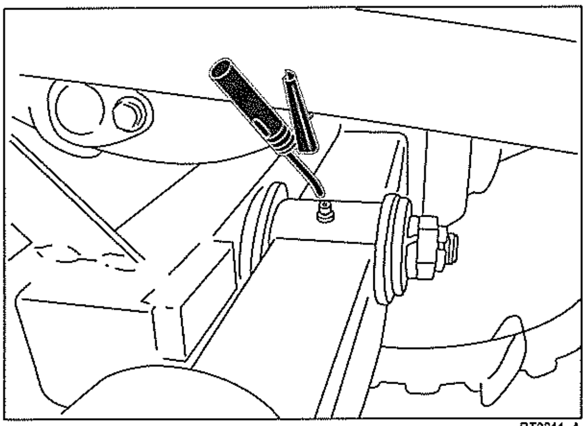
油量が少ない場合は、グリースを適量補給してください。
補給後は植込杆キャップを取り付けてください。

補 足

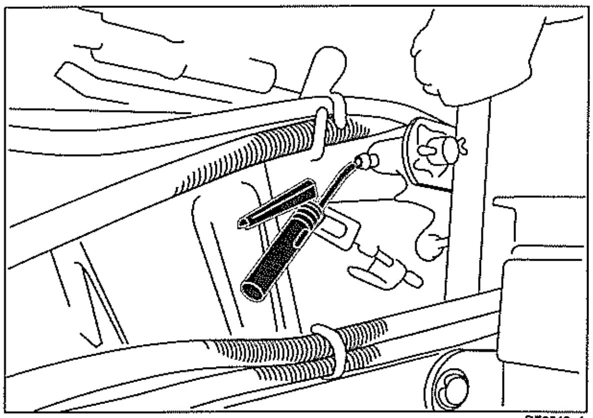
- グリースがほとんどない場合は 20 cc 程度補給してください。

4.1.7 グリース注入箇所（グリースニップル）

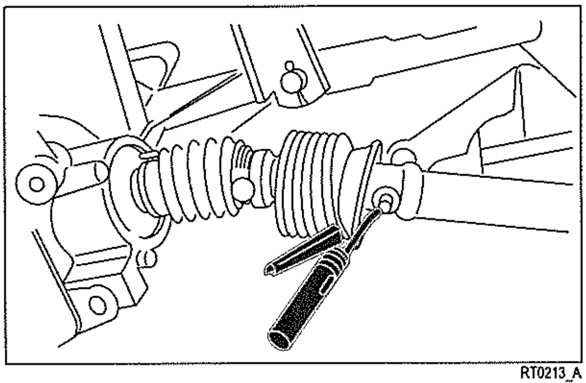
■後輪ローリングフレーム支点部


RT0211_A

■アッパーリンク支点部

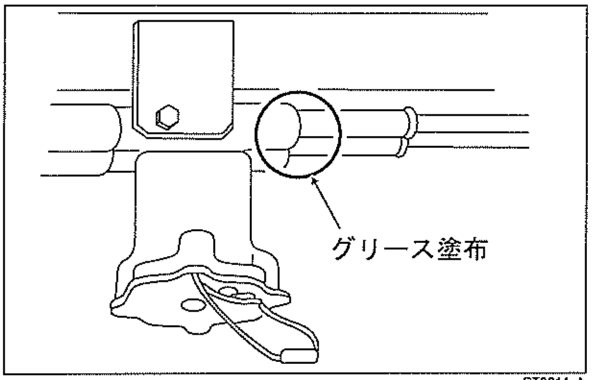

RT0212_A

■植付伝導軸六角シャフト部


RT0213_A

4.1.8 グリース塗布箇所

■オートマーカソレノイドピン部



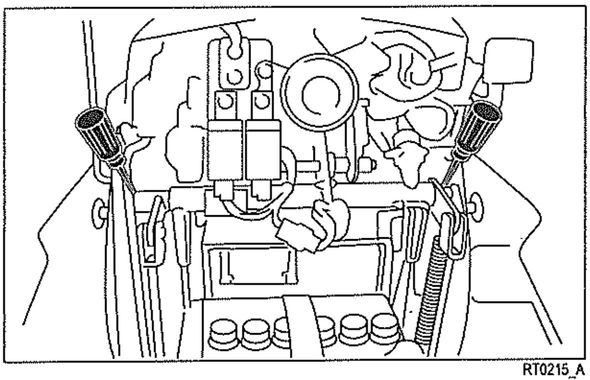
RT0214_A

4.1.9 オイル注油箇所

補 足

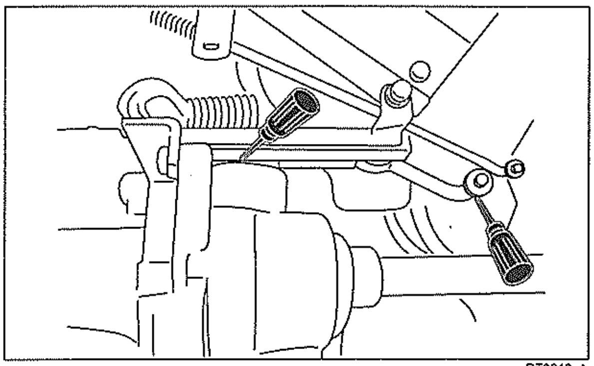
● 注油箇所には目印として黄色の塗料が塗ってあります。

■ブレーキペダル、クラッチペダル支点部



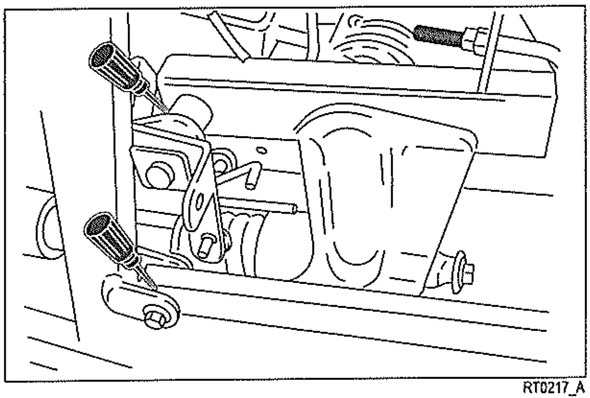
RT0215_A

■植付クラッチピン作動支点部



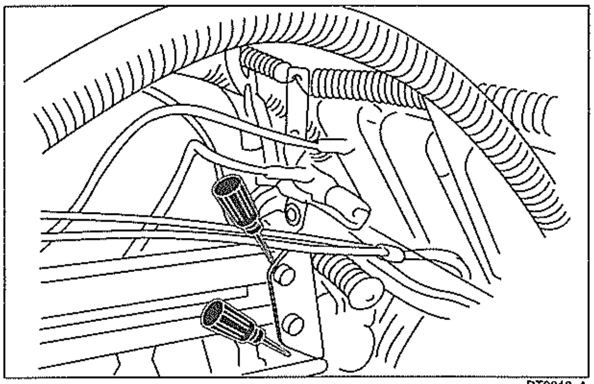
RT0216_A

■リンク支点部（前方）



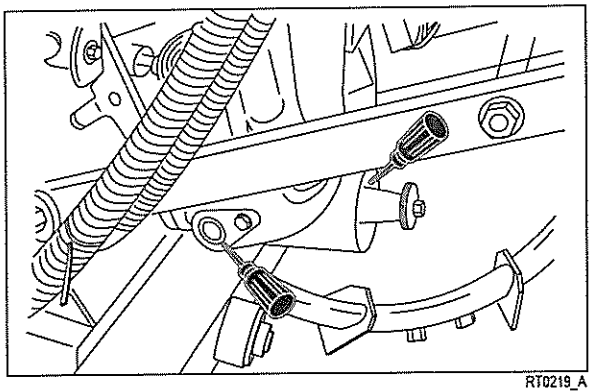
RT0217_A

■リンク支点部（後方）



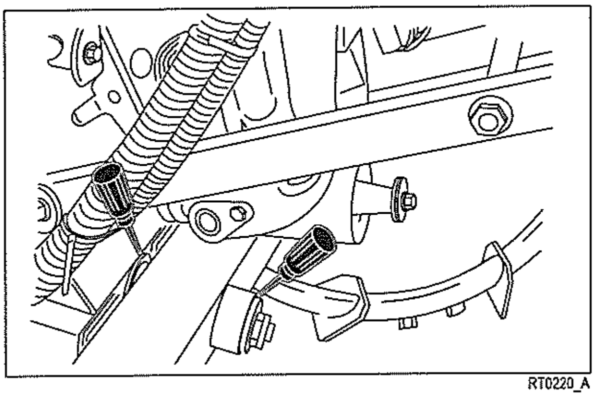
RT0218_A

■スプリングケース（ピン部、ピストンしゅう動部）



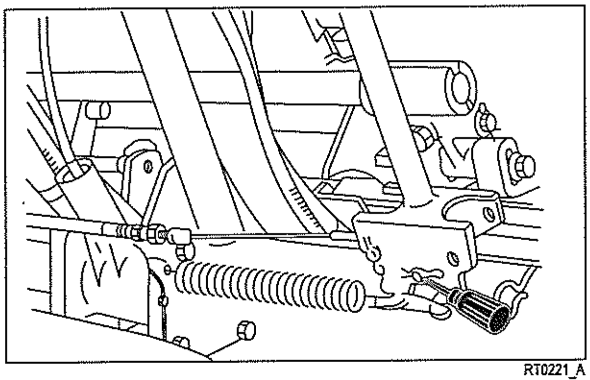
RT0219_A

■後輪ローリングフレーム支点部



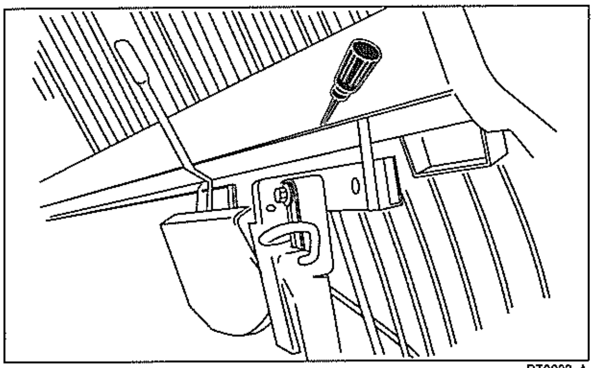
RT0220_A

■線引マーカ作動支点部



RT0221_A

■苗のせ台ローラ部

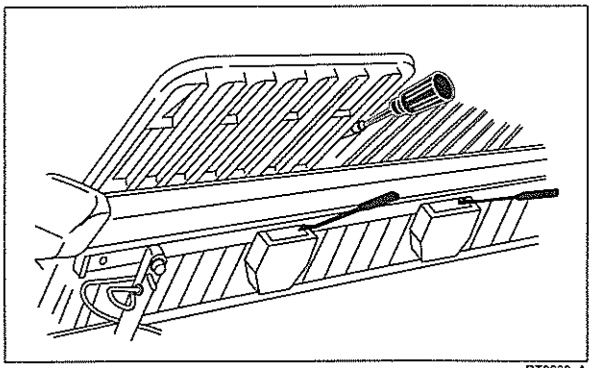


RT0222_A

4.1.10 オイル注油箇所（毎日）

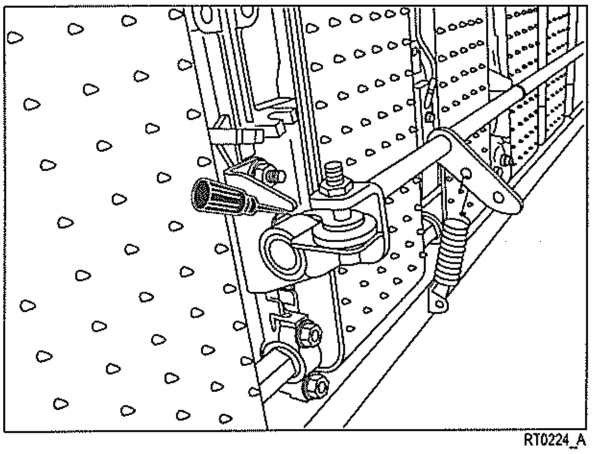
■しゅう動板（注油ホース付き）

黄色キャップを開き油差しでカップ内に 1～2 杯注油してください。

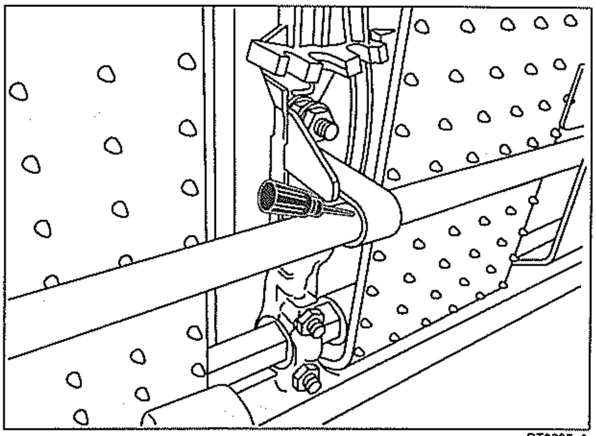


RT0223_A

■カウンタシャフト軸受け部



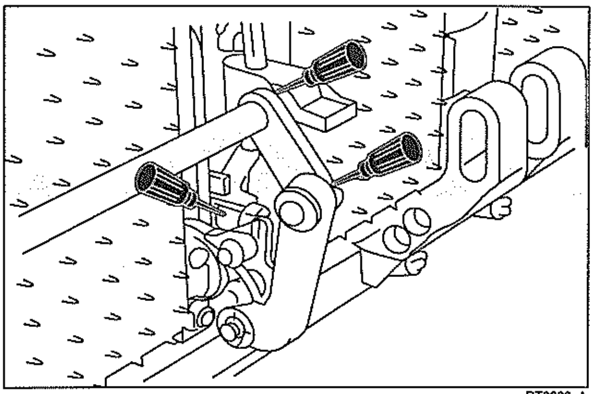
RT0224_A



RT0225_A

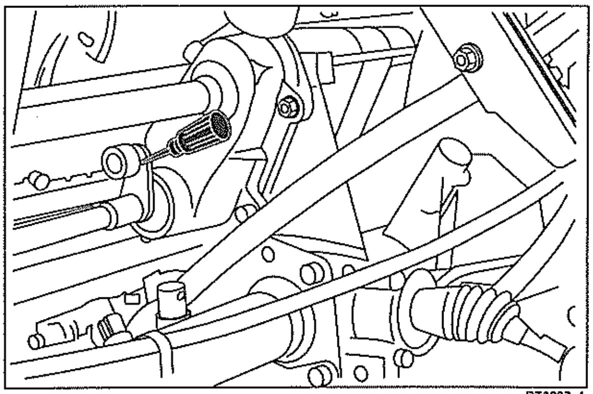
■苗送りアーム、カム関係

ラチェットホイールおよび回動部に十分注油してください。（左右各１箇所ずつ）



RT0226_A

ローラの注油穴に十分注油してください。
（左右各２箇所ずつ）



RT0227_A

5. 運転のしかた

⚠警告

始動する前に保護カバー類が取り付けてあるか確認してください。

※ カバー類を取り付けていないと、田植機に巻きこまれ傷害事故の原因となります。

室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。

※ 換気が悪いと排気ガスによる中毒の原因となります。

エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 確認を怠ると、急発進したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

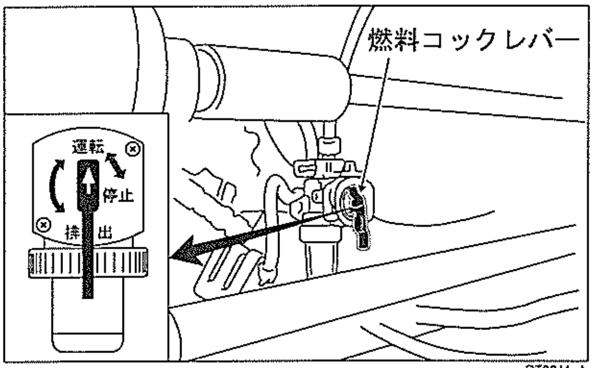
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

5.1 エンジンの始動と停止のしかた

5.1.1 エンジンの始動

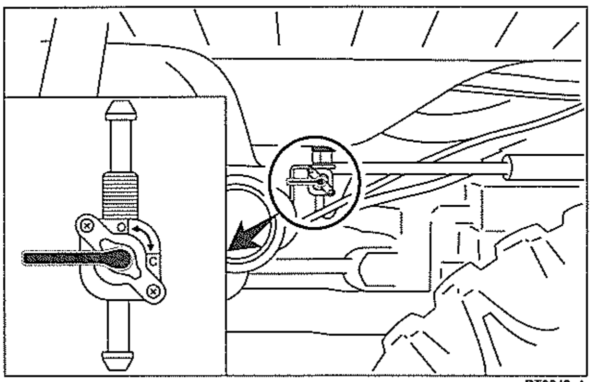
1 該当する型式の操作を行ってください。

- PG53、63（HG型を除く）、73は燃料コックレバーを「運転」位置にしてください。



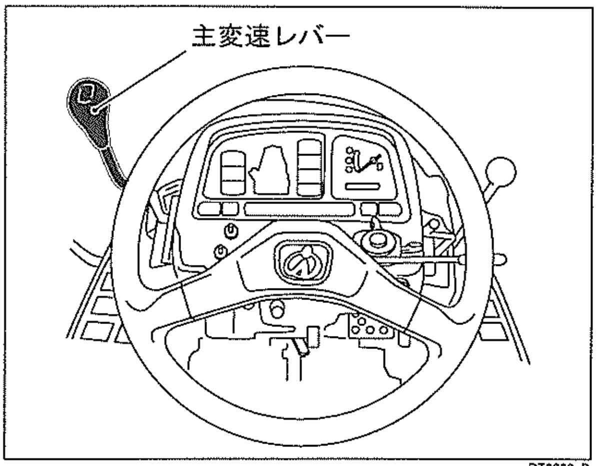
RT0241_A

- PG63HG型、PG83はワンタッチドレンコックを「C」（運転）位置にしてください。



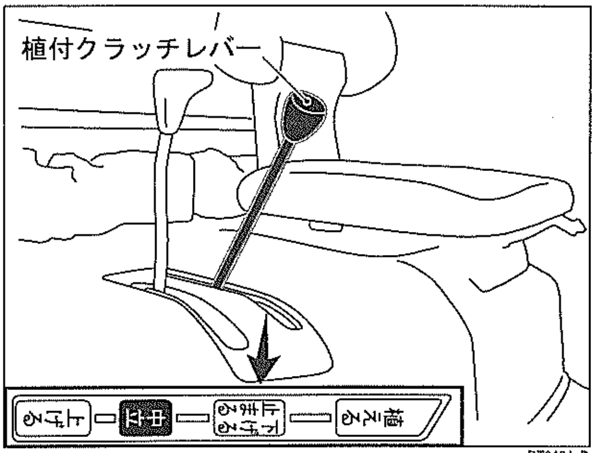
RT0242_A

2 主変速レバーを「中立」位置にします。



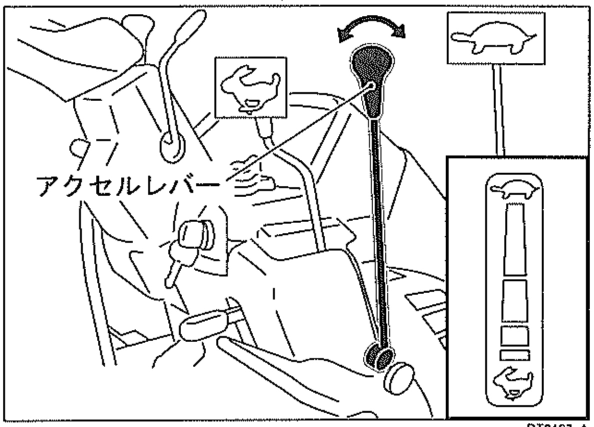
RT0239_B

3 植付クラッチレバーを「中立」位置にします。



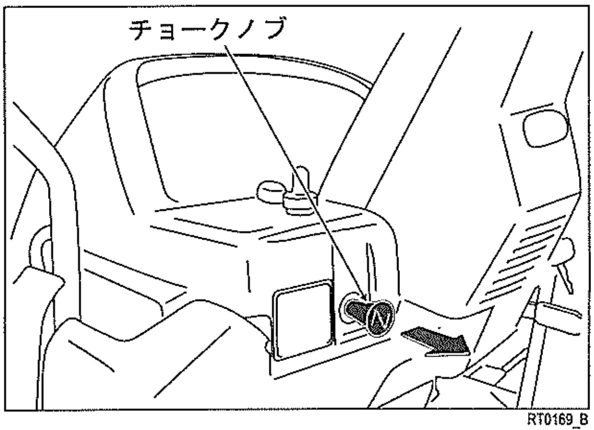
RT0184_B

4 アクセルレバーを「中程」にセットします。



RT0167_A

5 エンジンが冷えている状態で始動するときは、チョークノブをいっぱい引いてください。

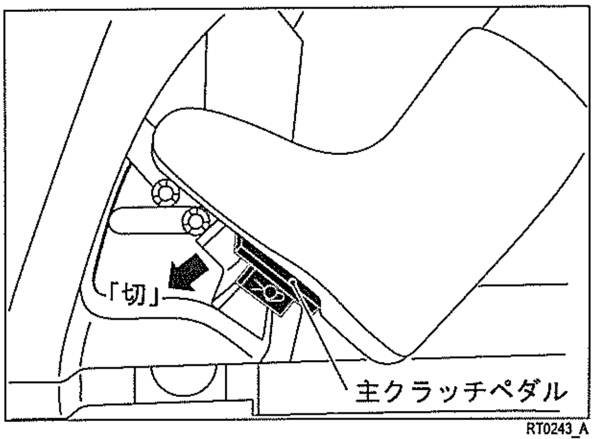


RT0169_B

6 主クラッチペダルを踏み込んでクラッチを「切」にし、ロック状態にしてください。

補 足

- 主クラッチペダルを踏み込みクラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。



RT0243_A

7 メインスイッチを「始動」位置に回します。

8 エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチから手を離してください。

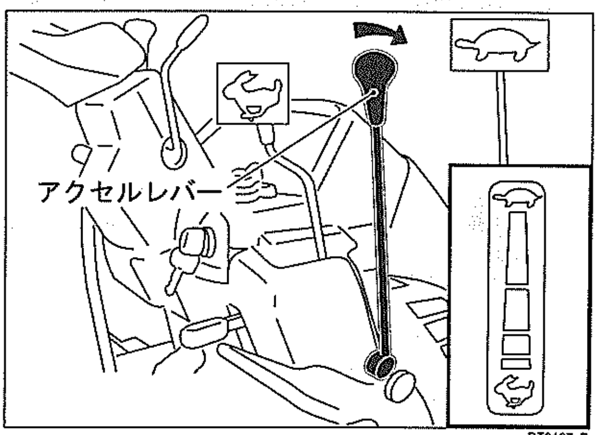
補 足

- 10 秒以内に始動しなかった場合は、メインスイッチをいったん「切」位置に戻して、30 秒程度休止してから再び同じ操作を繰り返してください。
- エンジンが始動しているにもかかわらず、メインスイッチを回し続けたり運転中にメインスイッチを回さないようにしてください。

RT0353_A

5.1.2 エンジンの停止

1 アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。

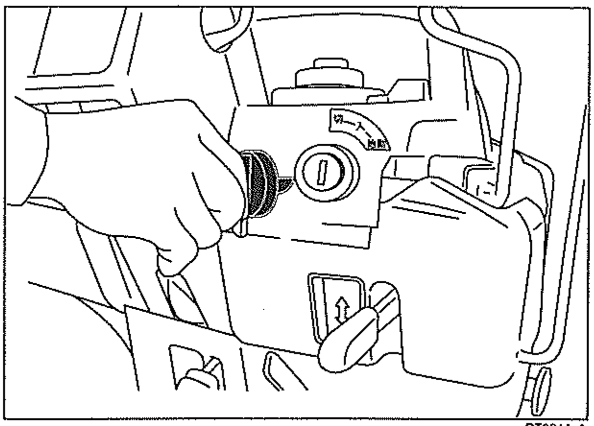


RT0167_B

2 メインスイッチを「切」位置にするとエンジンは停止します。

補足

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- メインスイッチを「入」位置のまま放置するとバッテリーを放電させてしまいます。エンジン停止後はメインスイッチ（キー）を外す習慣をつけてください。

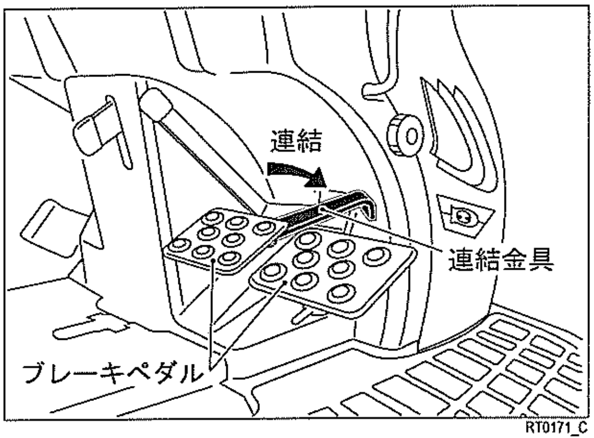

RT0244_A

5.2 発進、停止、駐車のしかた

⚠警告

ほ場以外を走行する場合は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。



RT0171_C

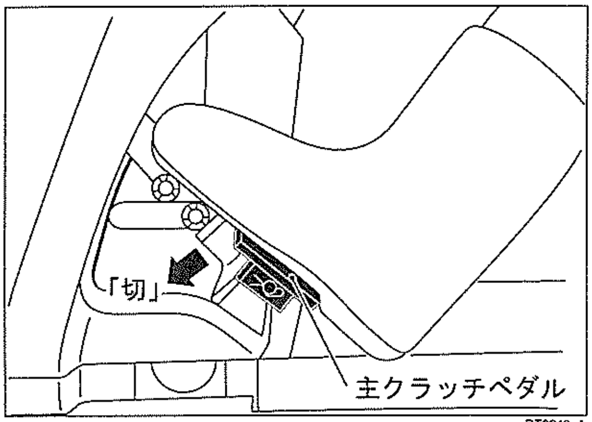
5.2.1 発進のしかた

⚠注意

主クラッチペダルを急に離さないでください。

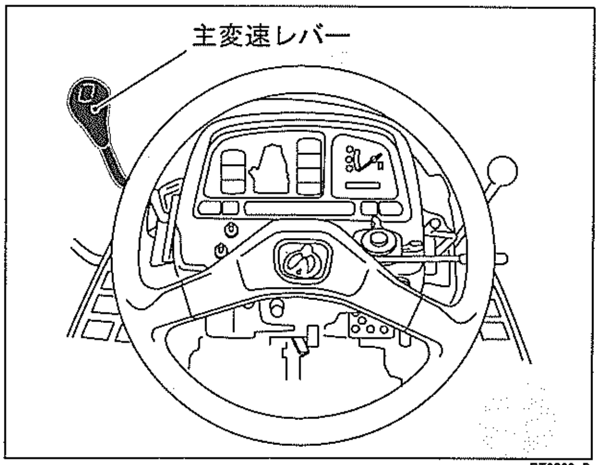
※ 急に離すと、急発進するおそれがあり、傷害事故の原因となります。

1. 主クラッチペダルを踏み込んでクラッチを切ってください。



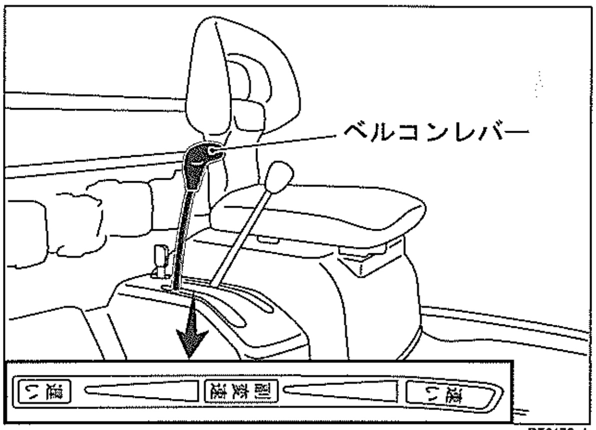
RT0243_A

2 主変速レバーを作業に合った位置にしてください。

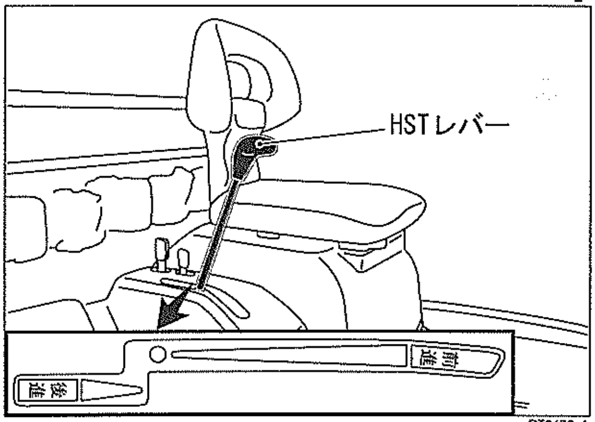


RT0239_B

3 副変速レバー（ベルコンレバー、またはHSTレバー）を作業に合った位置にしてください。

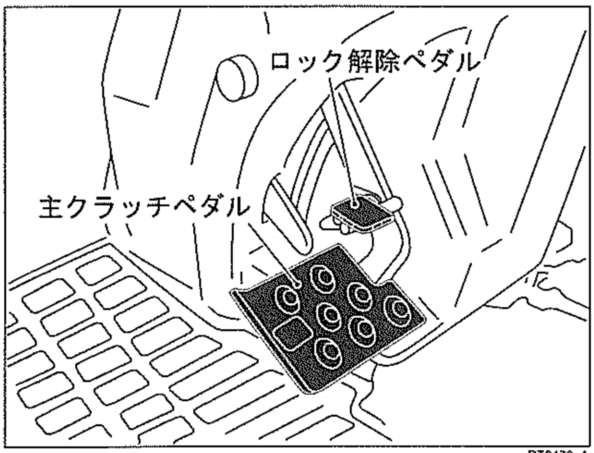


RT0175_A



RT0176_A

4 主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、徐々に離して発進してください。



RT0170_A

5.2.2 停止のしかた

⚠警告

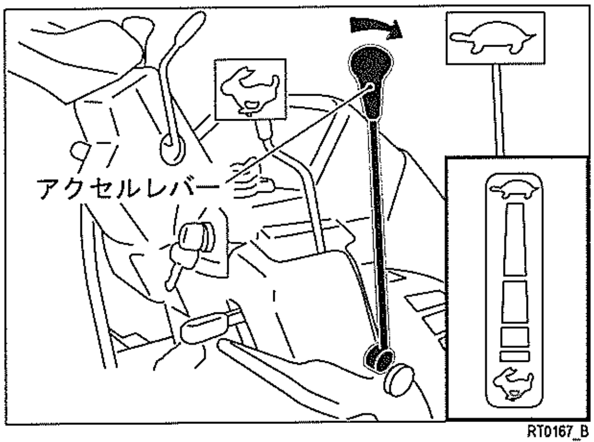
急ブレーキは、緊急時以外はさけてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

副変速レバー（ベルコンレバー、または HST レバー）はゆっくり減速してください。

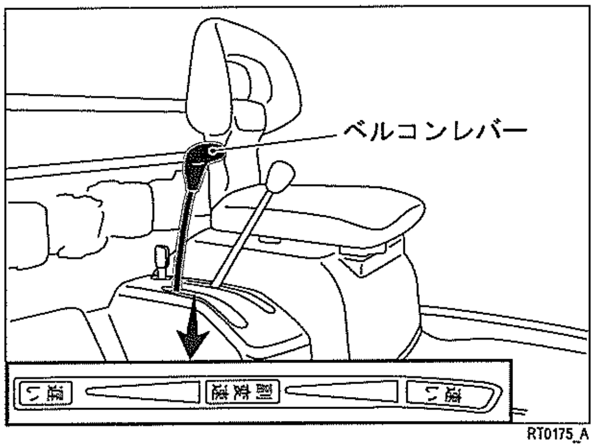
※ 急減速すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。

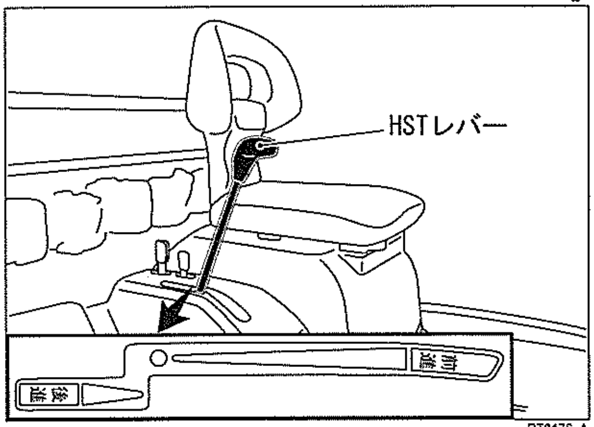


RT0167_B

2 副変速レバー（ベルコンレバー、または HST レバー）をゆっくり後方に引いて減速してください。



RT0175_A

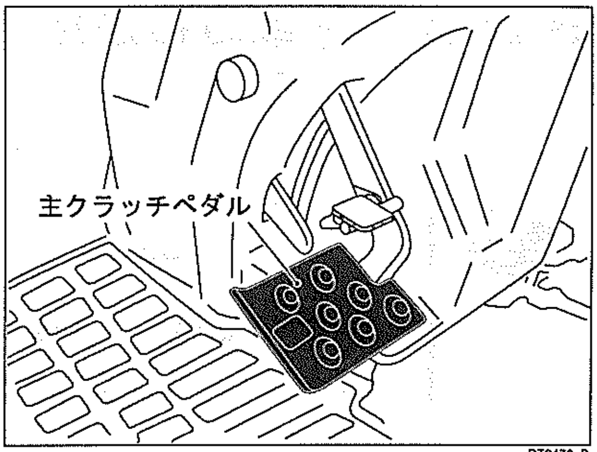


RT0176_A

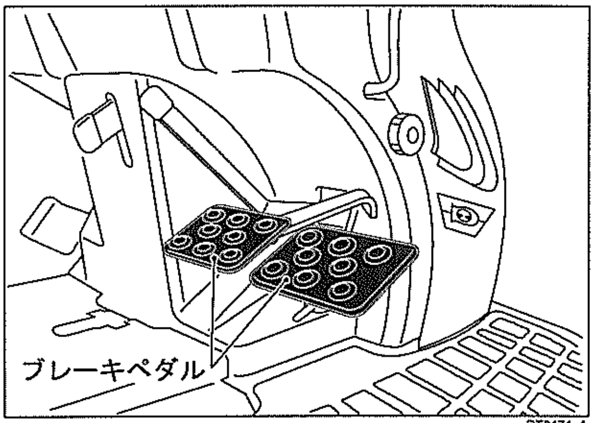
3 主クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏み込みます。

補足

- ほ場内で停止する場合は、主クラッチペダルを踏み込こんでください。



RT0170_B



RT0171_A

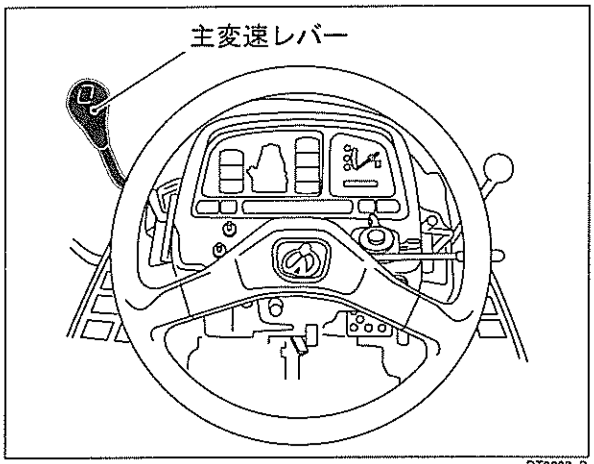
5.2.3 駐車のしかた

⚠警告

駐車時、植付部は下げておいてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

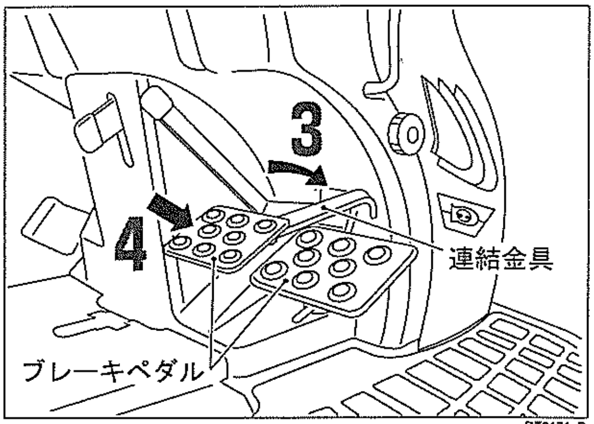
坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。
※ 守らないと、田植機が自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. エンジンを停止してください。
2. 主変速レバーは「中立」位置にしてください。



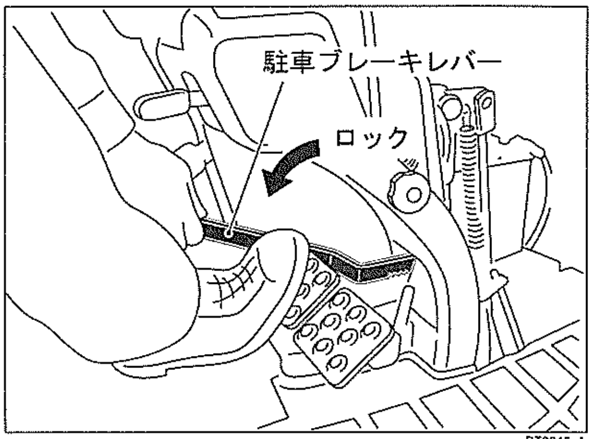
RT0239_B

3. ブレーキペダルを連結金具で連結してください。
4. ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。



RT0171_D

5. 駐車ブレーキレバーをかけてください。



RT0245_A

5.3 移動、運搬のしかた

5.3.1 走行のしかた

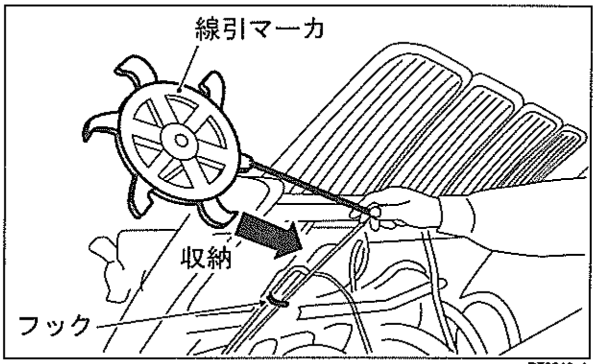
■PG53、63、73、83T型

⚠注意

走行するときは、エンジン回転を落とし副変速レバー（ベルコンレバー、またはHSTレバー）は低速にしてください。

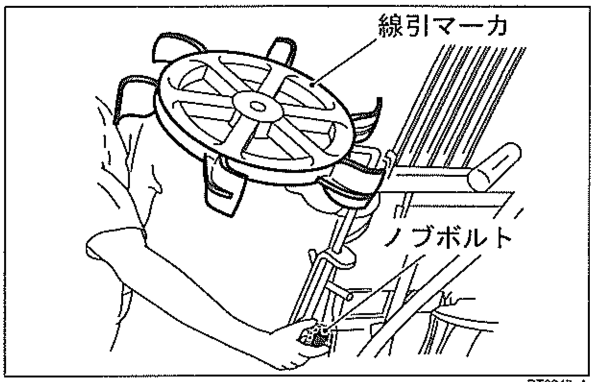
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 線引マーカはフックに掛けて収納してください。

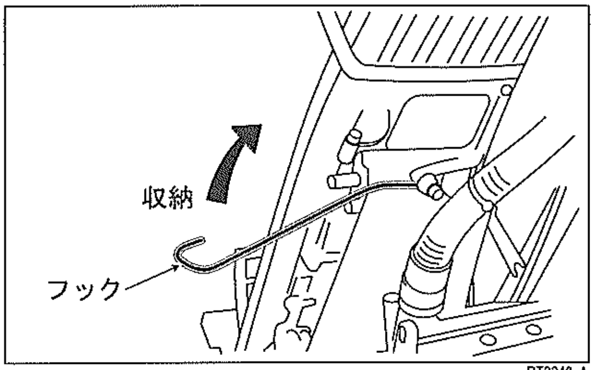


RT0246_A

2 ノブボルトをゆるめ、線引マーカを取り外してください。

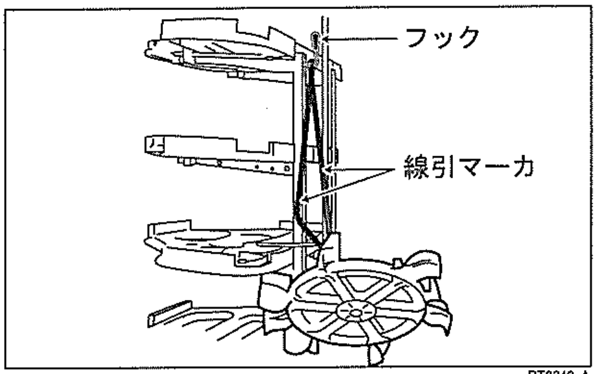


RT0247_A



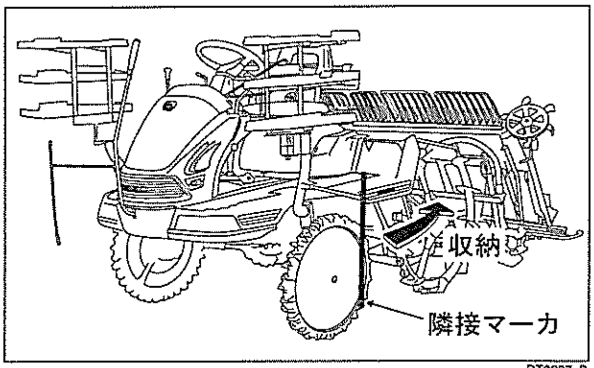
RT0248_A

3 取り外した線引マーカを補助苗枠のフックに掛けてください。



RT0249_A

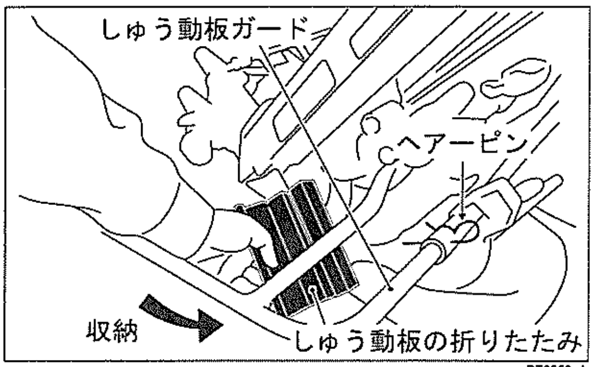
4 隣接マーカを収納してください。



RT0237_B

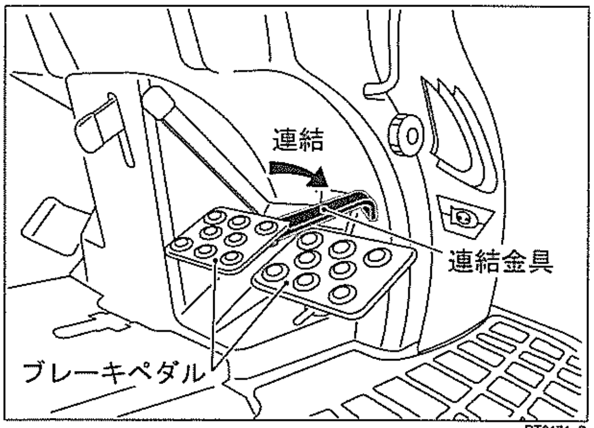
5 しゅう動板を引き抜き、下に折ってください。

6 しゅう動板ガードを固定しているヘアーピンを外し、最も押込んだ位置でしゅう動板ガードをヘアーピンで固定してください。



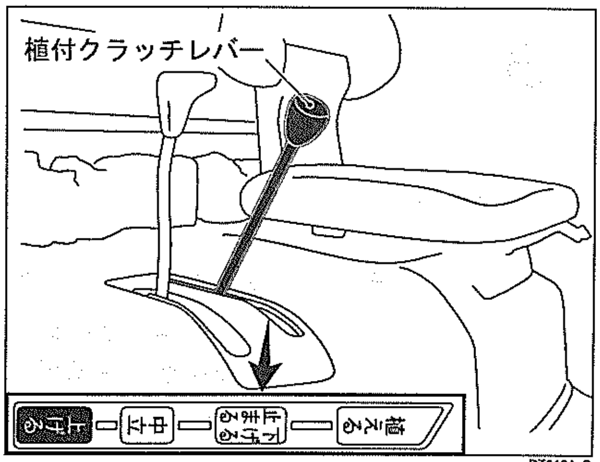
RT0250_A

7 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。



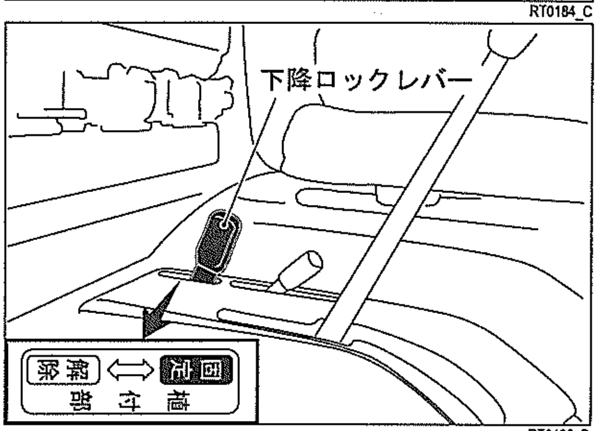
RT0171_C

8 植付クラッチレバーを「上げる」位置（Q型はフィンガーアップレバーで「上」（☞44ページ））にして植付部をいっぱいまで上げてください。



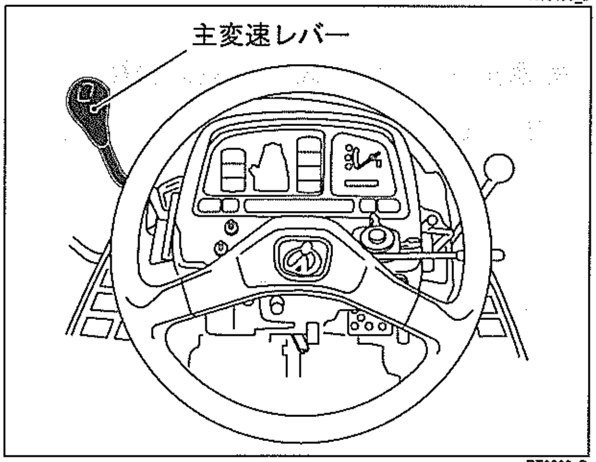
RT0184_C

9 下降ロックレバーを「固定」位置にしてください。



RT0190_B

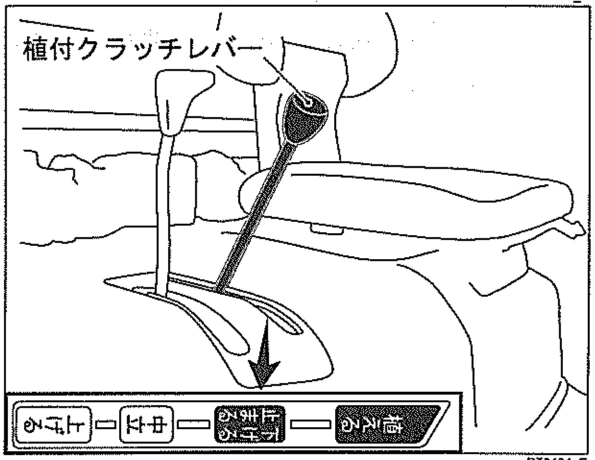
10 主変速レバーを「中立（PTO）」位置にしてください。



RT0239_B

11 植付クラッチレバーを「植える」位置（Q型はフィンガーアップレバーで植付「入」（☞44ページ））にしてください。

12 苗のせ台が機体中央にきたら、植付クラッチレバーを「止まる」位置（Q型はフィンガーアップレバーで植付「切」（☞44ページ））にしてください。

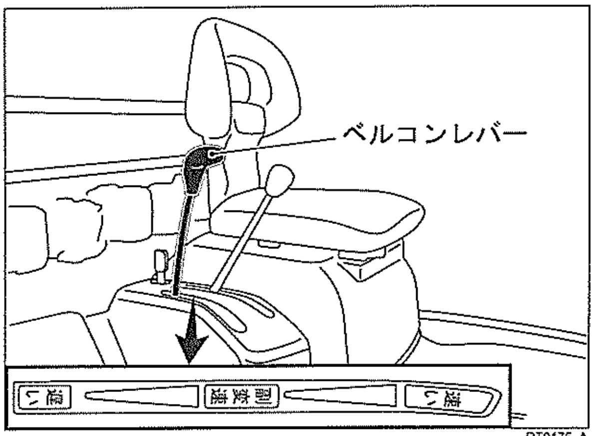


RT0184_F

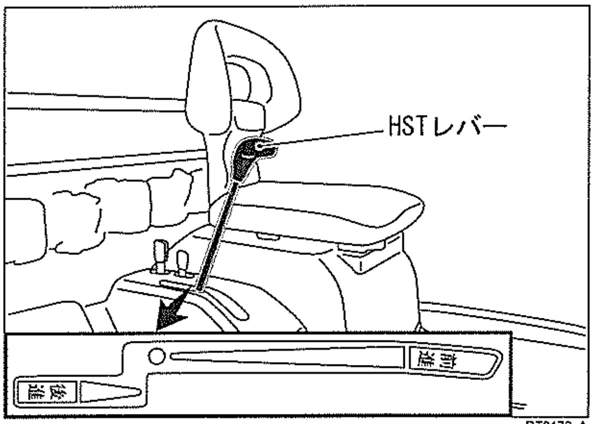
13 走行場所に合せて、主変速レバーと副変速レバー（ベルコンレバー、またはHSTレバー）をセットしてください。

補足

- 走行中は主クラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- クラッチの寿命を伸ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。速度調節をクラッチで行わないようにしてください。



RT0175_A



RT0176_A

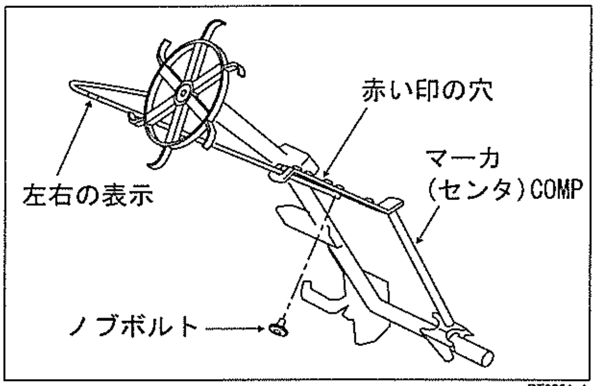
■線引マーカの取り付けかた

1 補助苗枠に収納した線引マーカを取り外します。

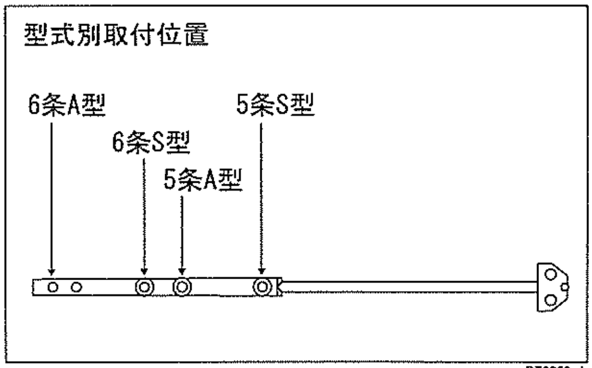
2 左右の表示を確認し、元の位置（赤い印の穴）にノブボルトで固定してください。

補足

- ノブボルトの取付位置は、型式によって異なります。取り付けの際には必ず元の位置に取り付けてください。



RT0251_A



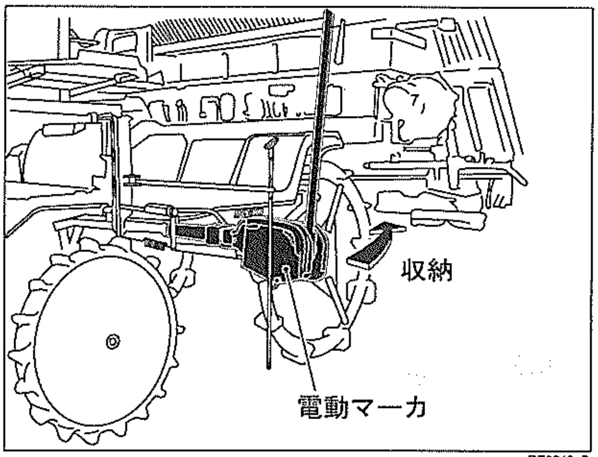
RT0252_A

■PG83（PG83T型を除く）

⚠注意

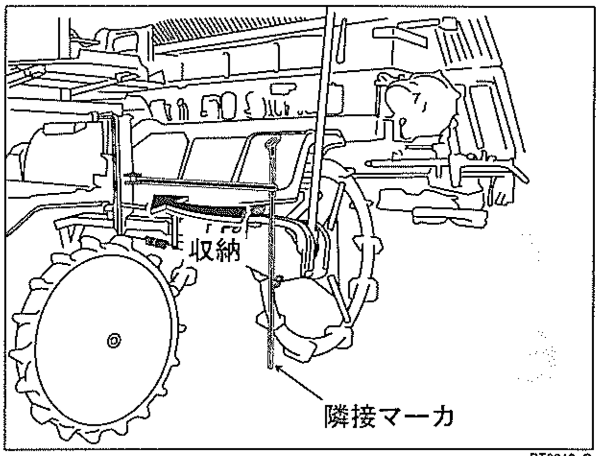
走行するときは、エンジン回転を落とし副変速レバーは低速にしてください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 電動マーカを収納してください。



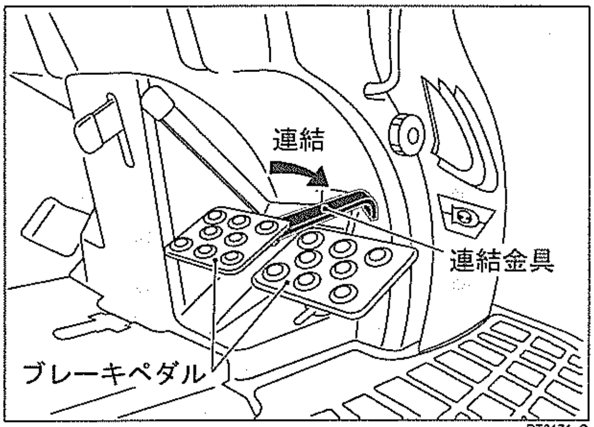
RT0240_B

2 隣接マーカを収納してください。



RT0240_C

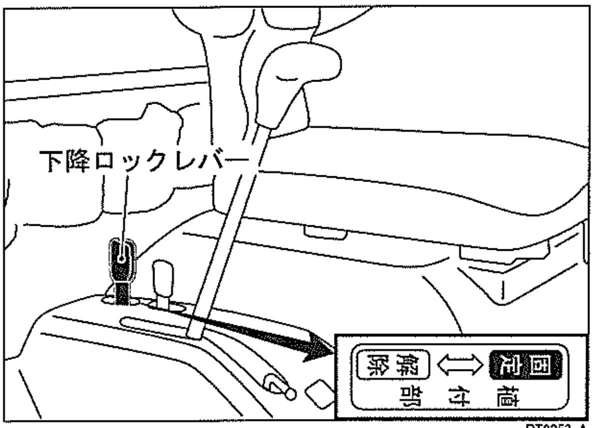
3 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。



RT0171_C

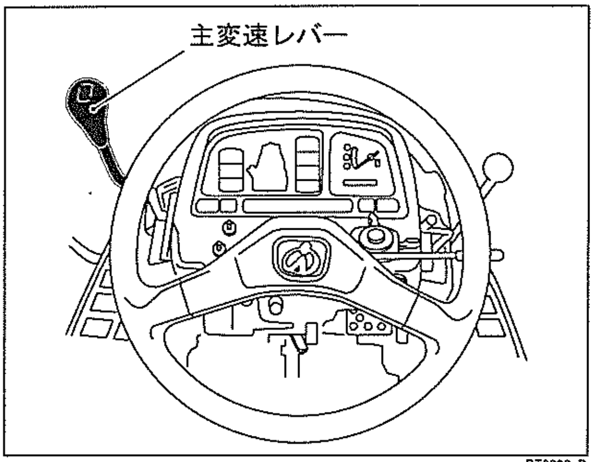
4 らくらくレバーまたはフィンガーアップレバーを上に操作して、植付部をいっぱいまで上げてください。

5 下降ロックレバーを「固定」位置にしてください。



RT0253_A

6 主変速レバーを「中立（PTO）」位置、にしてください。



RT0239_B

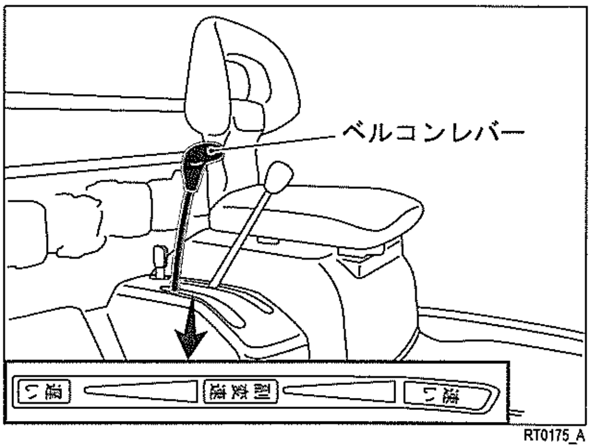
7 らくらくレバーまたはフィンガーアップレバーで植付「入」にしてください。

8 苗のせ台が機体中央にきたら、らくらくレバーまたはフィンガーアップレバーで植付「切」にしてください。

9 走行場所に合せて、主変速レバーと副変速レバー（ベルコンレバー、HST レバー）をセットしてください。

補足

- 走行中は主クラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- クラッチの寿命を伸ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。速度調節をクラッチで行わないようにしてください。



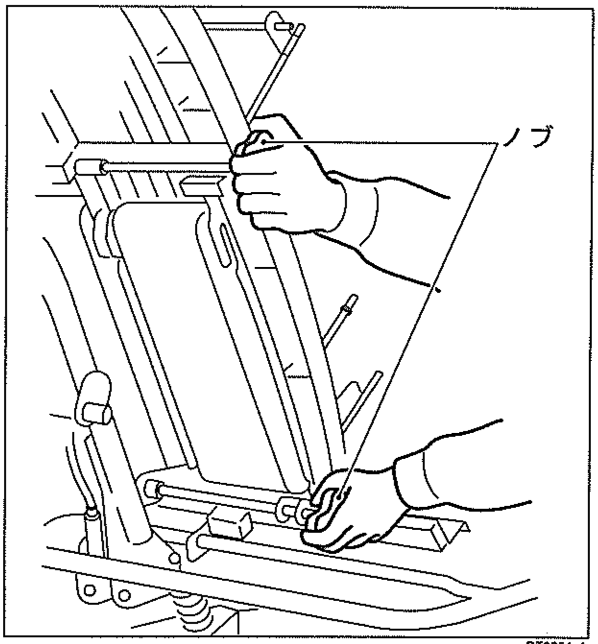
RT0175_A

5.3.2 苗のせ台の収納（PG73、83）

PG73、83 は、苗のせ台をコンパクトに折りたたむことができます。（PG73 は左側のみ）
次の要領で行ってください。

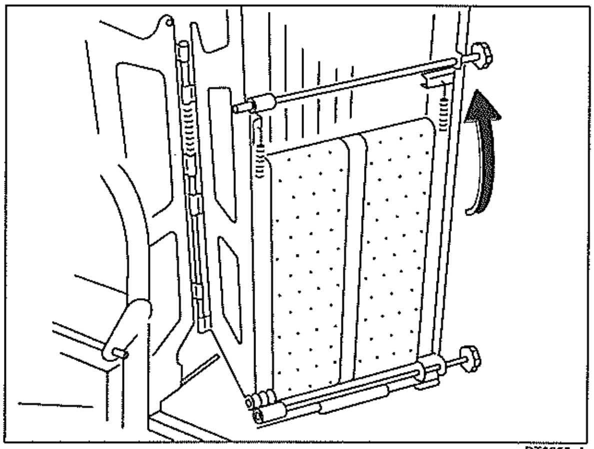
1 植込杆を回して、苗のせ台を PG83 は機体の中央位置に、PG73 は機体の左側に移動させてください。

2 苗のせ台両端のノブをゆるめてください。（PG83 は左右 4 箇所、PG73 は左側 2 箇所）



RT0254_A

3 両端の苗のせ台を上側に引き上げ、反転させてください。

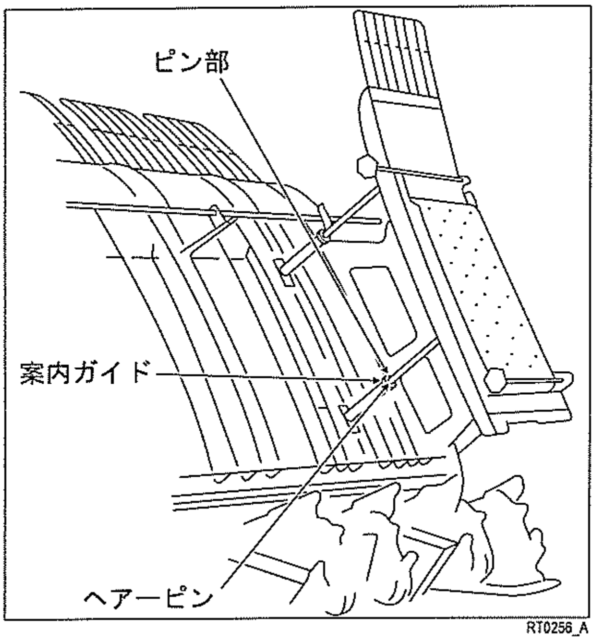


RT0255_A

4 両端の苗のせ台は、案内ガイド内にピン部を差し込み、ヘアーピンで固定してください。

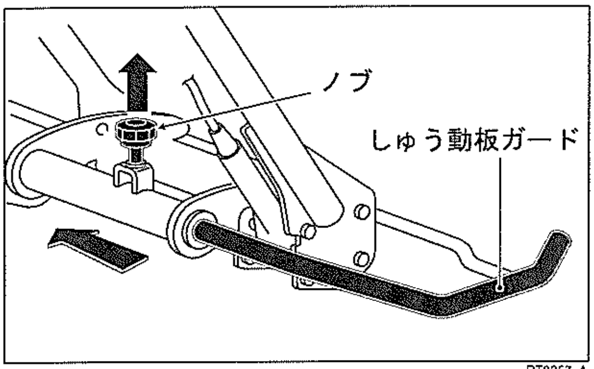
補 足

- 苗のせ台収納時には、必ず苗のせ台をヘアーピンで固定してください。



RT0256_A

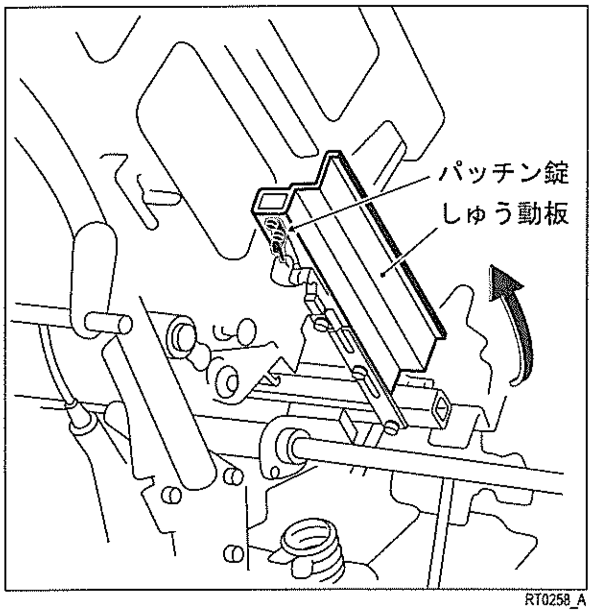
5 ノブを回して引き上げ、しゅう動板ガードを押し込んでください。



RT0257_A

6

(1) PG83 は、パッチン錠を外し、しゅう動板を引き抜いて上に折ってください。

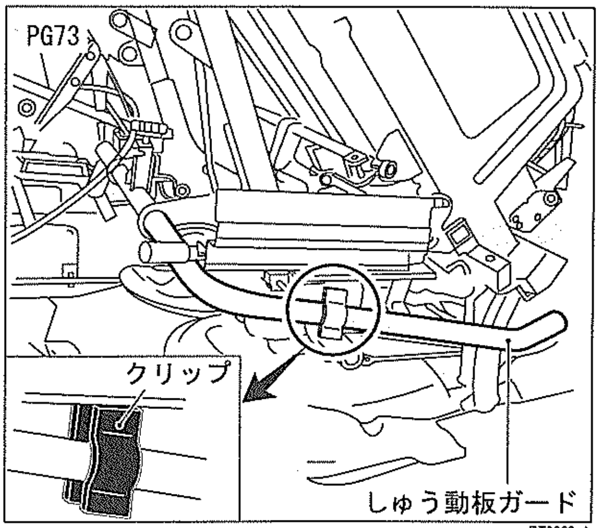


RT0258_A

(2) PG73 は、パッチン錠を外し、しゅう動板を引き抜き、しゅう動板のクリップをしゅう動板ガードに押し込んで固定してください。

補 足

- 苗のせ台収納時には、植込杆を回さないでください。
- 苗のせ台を作業状態にセットするときは、逆の手順で行ってください。
- このとき、各ノブはしっかりとセットしてください。



RT0259_A

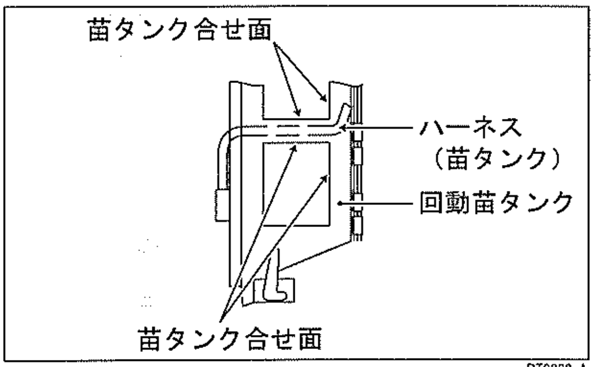
■回動苗タンク

⚠注意

回動苗タンクを作業状態にするときは、回動苗タンクを下記取り扱いに注意してセットしてください。

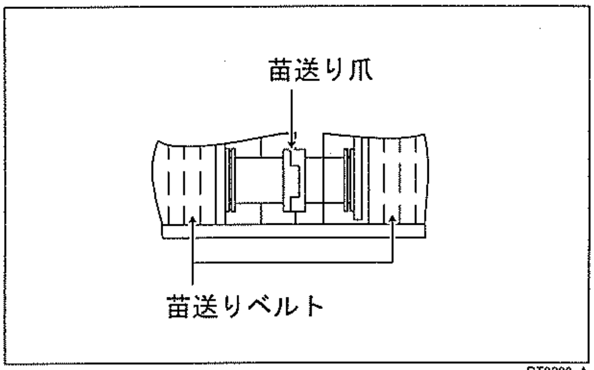
※ 故障や苗送り不良の原因となります。

(1) ハーネス（苗タンク）は、苗タンク合せ面で挟み込まないようにしてください。



RT0288_A

(2) 苗送り爪は、山と谷を噛み合せてください。苗送りベルトを回転させると噛み合います。



RT0289_A

5.3.3 トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠警告

平たんで広い地面の硬い場所を選んでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「1 速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。

※ 守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、超低速レバーを「超低速」(D 型のみ) にし、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。

※ 守らないと、転落事故の原因となります。

アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。

必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 連結していないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。

途中でエンストした場合は、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後、徐々にブレーキペダルをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してください。

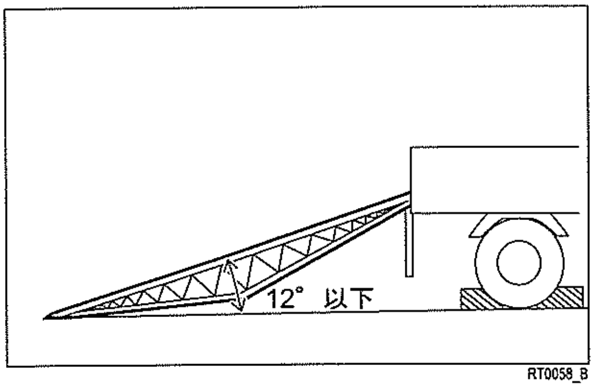
※ 守らないと、転落事故の原因となります。

ステアリング (ハンドル) を左右に大きくきったり、主クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

※ 守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。

補 足

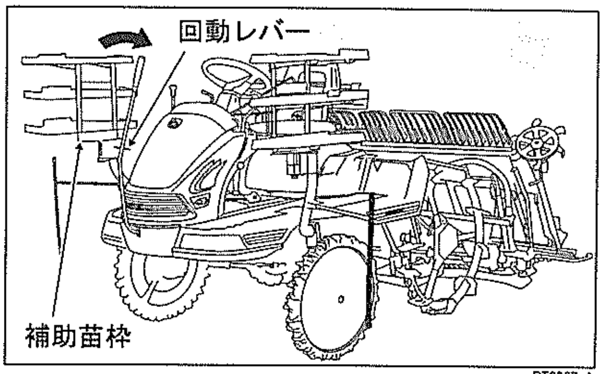
● アユミ板の条件
長さ……車の荷台高さの 4.8 倍以上
幅………30 cm 以上
数量……2 枚
強度……1 枚の強度が 1000 kg 以上
すべり止めのあるもの



RT0058_B

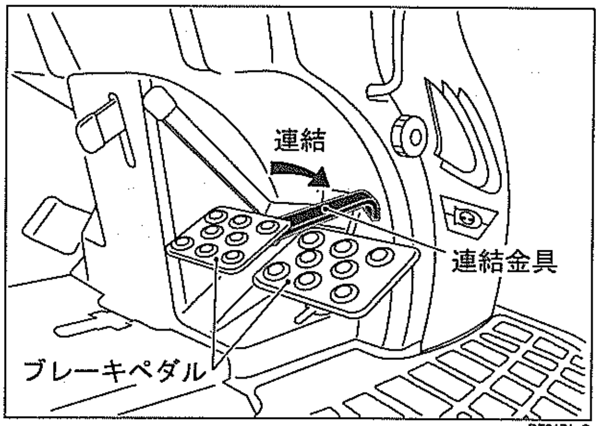
1 線引マーカ、隣接マーカ、しゅう動板、しゅう動板ガードを収納してください。
（☞69 ページ）

2 補助苗枠を収納してください。



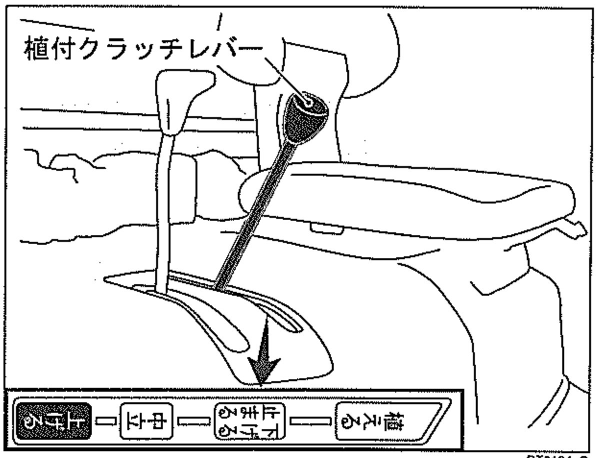
RT0357_A

3 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。



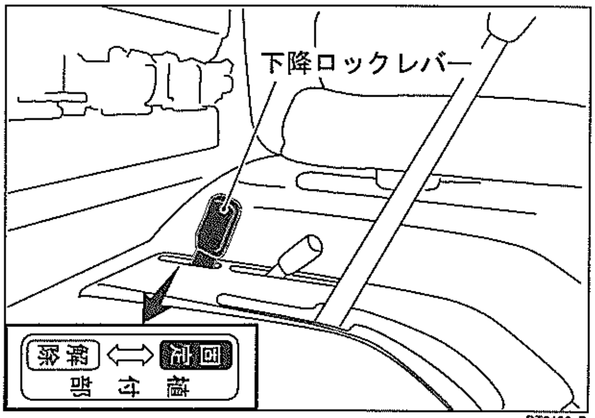
RT0171_C

4 植付クラッチレバーを「上げる」位置（Q 型はフィンガーアップレバーで「上」（☞44 ページ））にして植付部をいっぱいまで上げてください。



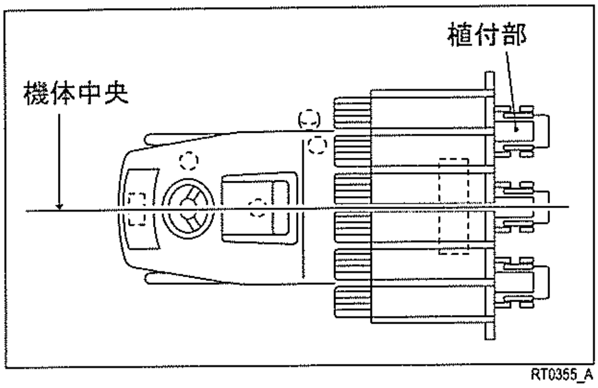
RT0184_C

5 下降ロックレバーを「固定」位置にしてください。



RT0190_B

6 植付部を機体の中央にしてください。



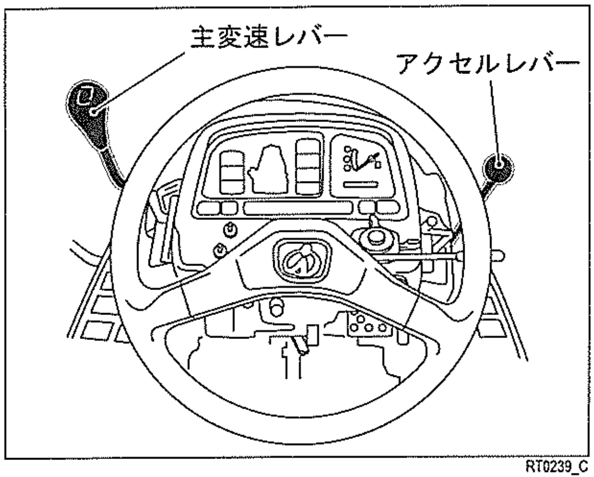
RT0355_A

7 該当する型式の操作を行ってください。

● PG53、63（D型）、73の場合

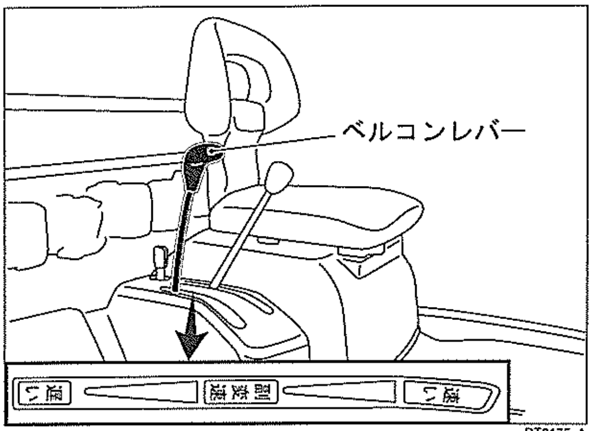
(1) アクセルレバーを前方へいっぱい押して（エンジン回転は最低速）ください。

(2) 超低速レバーを「超低速」にしてください。



RT0239_C

(3) トラックに載せるときは、主変速レバーを「後進」位置にして、副変速レバー（ベルコンレバー）を「低速」で行ってください。
また、トラックより降ろすときは、主変速レバーを「植付」、副変速レバー（ベルコンレバー）を「低速」で行ってください。

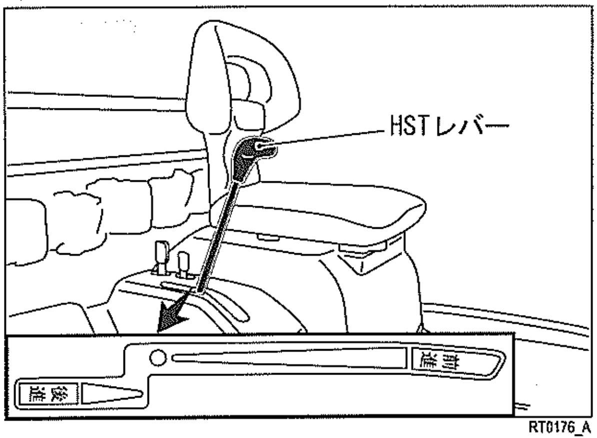


RT0175_A

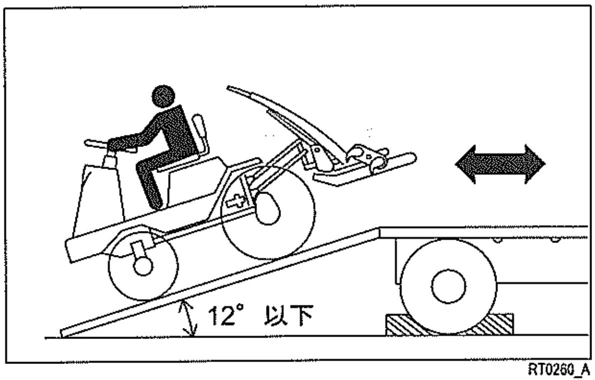
● PG53、63（H・HG型）、83の場合

(1) 主変速レバーを「植付」位置にしてください。

(2) トラックに載せるときは、副変速レバー（HSTレバー）を「後進」にして最低速で行ってください。
また、トラックより降ろすときは、副変速レバー（HSTレバー）を「前進」にして最低速で行ってください。



RT0176_A

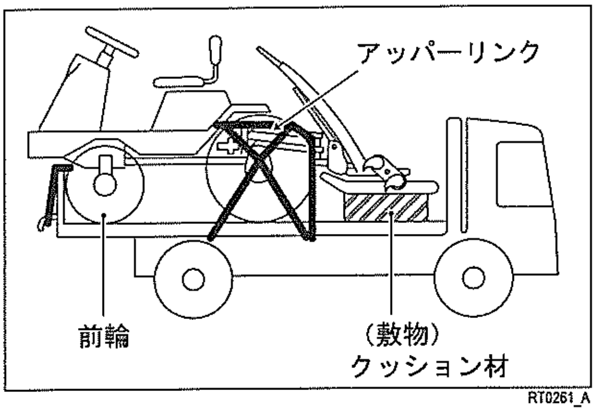


RT0260_A

5.3.4 運搬中の固定方法

1 前輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定してください。

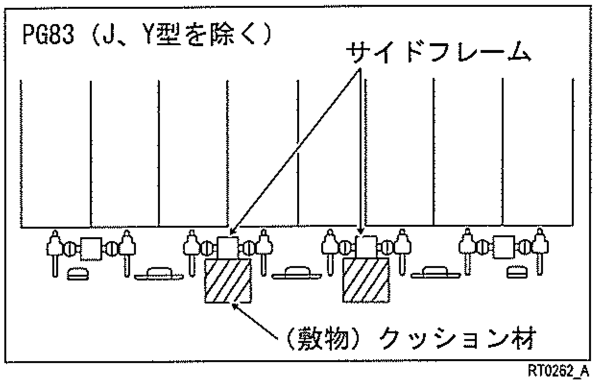
2 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。



RT0261_A

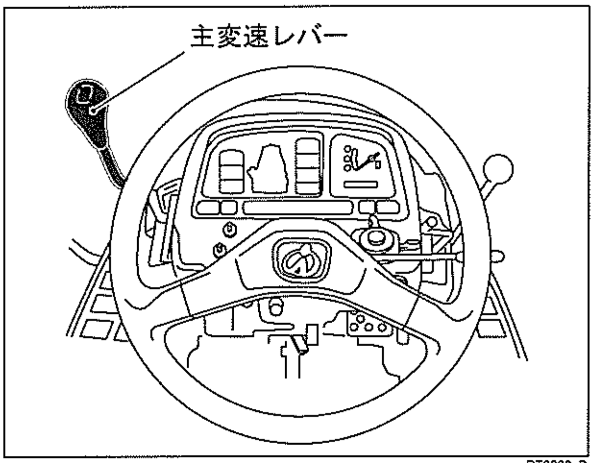
3 PG53、63、73、83（J、Y型）は、フロートの下に敷物を置いて、植付部を降ろし、アッパーリンクをロープで軽く押えてください。

PG83（J、Y型を除く）は、サイドフレームの下に敷物を置いて、植付部を降ろし、アッパーリンクをロープで軽く押えてください。



RT0262_A

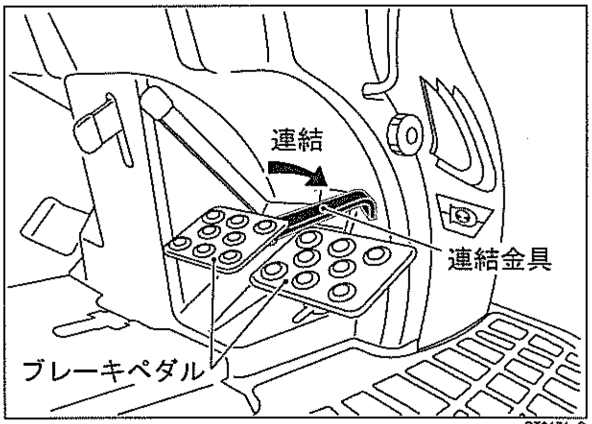
4 主変速レバーを「植付」か「後進」位置にしてください。



RT0239_B

5 左右のブレーキペダルを連結してください。

6 ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーをかけてください。（☞68 ページ）



RT0171_C

5.4 ほ場への出入のしかた

⚠警告

ブレーキペダルは、左右連結してください。

※ 連結していないと、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こすおそれがあります。

ほ場との高低差が大きいときは、アユミ板を使用してください。

※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

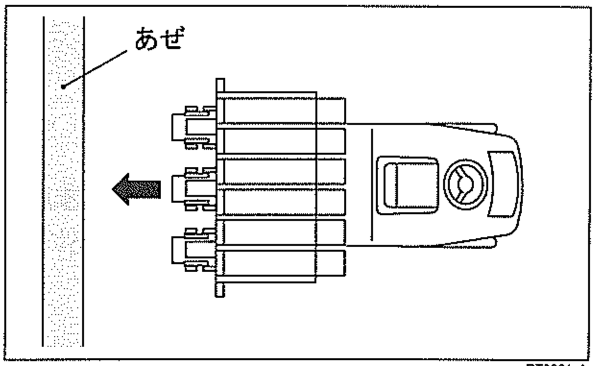
補助苗枠および苗のせ台には、苗を乗せないでください。また田植機に荷物を積まないでください。

※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、超低速レバーを「超低速」にし、エンジン回転を低速回転にして、必ずあぜに直角に進んでください。

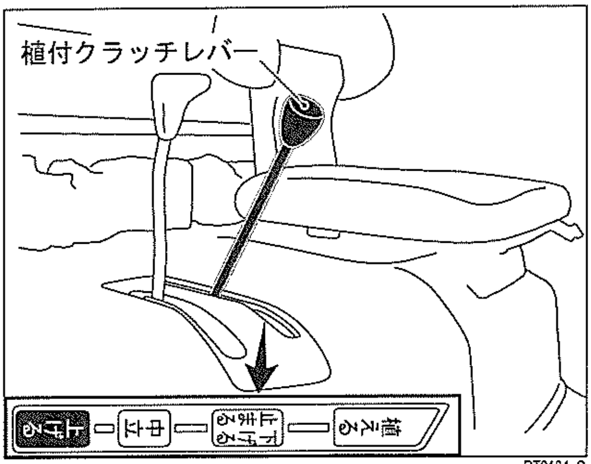
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。



RT0264_A

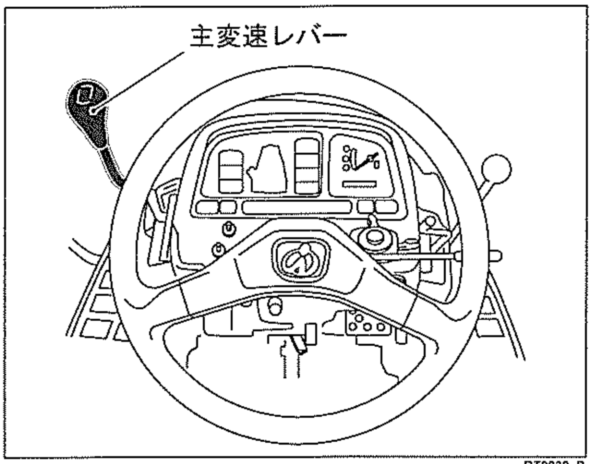
5.4.1 ほ場への入りかた

1 植付クラッチレバーを「上げる」位置（Q型はフィンガーアップレバーで「上」（☞44ページ））にして植付部をいっぱいまで上げてください。



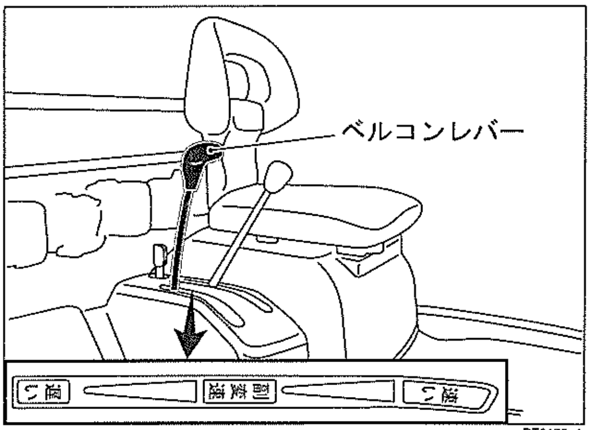
RT0184_C

2 主変速レバーを「植付」位置にしてください。

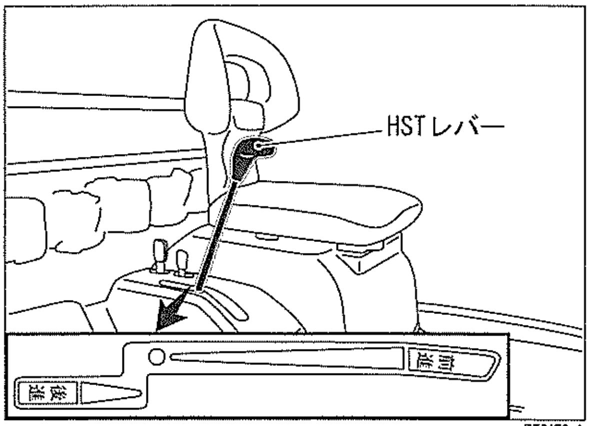


RT0239_B

3 副変速レバー（ベルコンレバー、またはHSTレバー）で速度を調整してください。

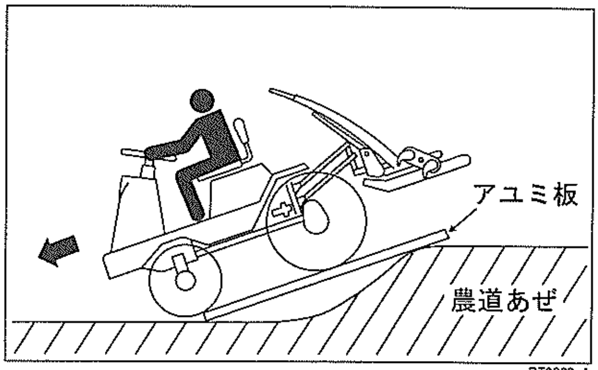


RT0175_A



RT0176_A

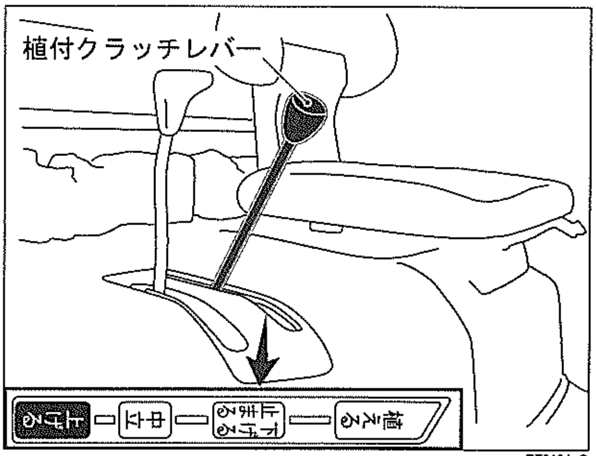
4 前進でゆっくりとほ場に入ってください。



RT0263_A

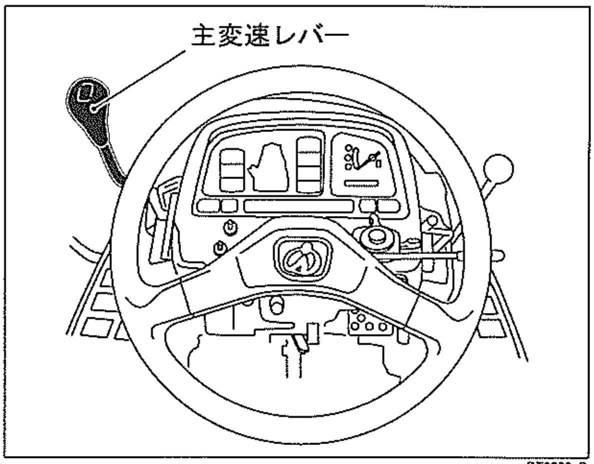
5.4.2 ほ場からの出かた

1 植付クラッチレバーを「上げる」位置（Q型はフィンガーアップレバーで「上」(☞44ページ)）にして植付部をいっぱいまで上げてください。



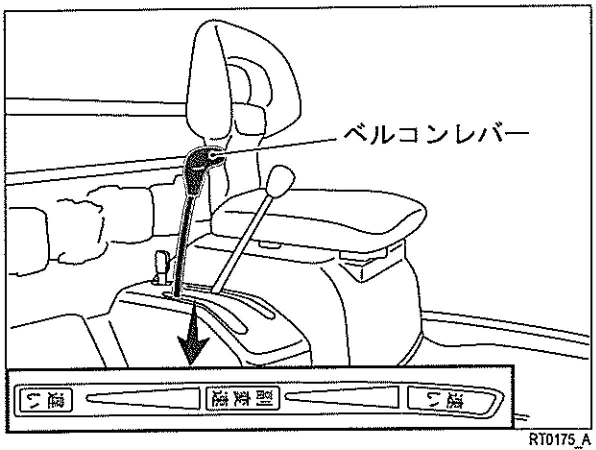
RT0184_C

2 主変速レバーを「後進」位置にしてください。

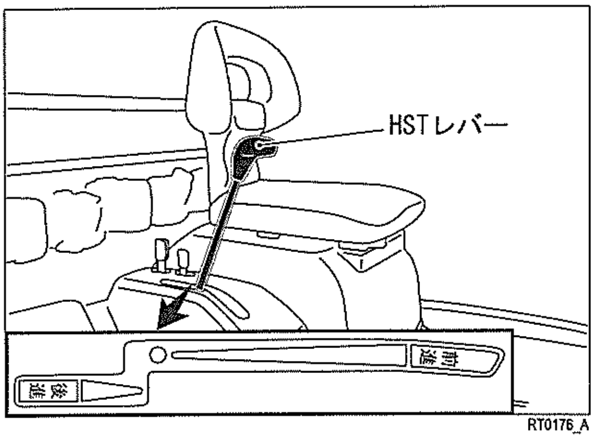


RT0239_B

3 副変速レバー（ベルコンレバー、またはHSTレバー）で速度を調整してください。

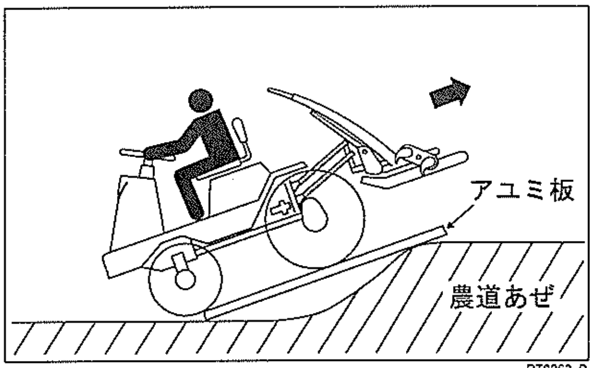


RT0175_A



RT0176_A

4 後進でゆっくりとほ場から出てください。



RT0263_B

6. 植付作業のしかた

⚠警告

作業中は、作業者以外の人を田植機に近づけないでください（特に子供）。

※　田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等には手を触れないでください。

※　傷害事故の原因となります。

作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、合図してから行ってください。

※　守らないと、傷害事故の原因となります。

あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くし、超低速レバーを「超低速」にして、あぜと直角にゆっくり走行してください。

※　斜めになると、スリップや転倒の原因となります。

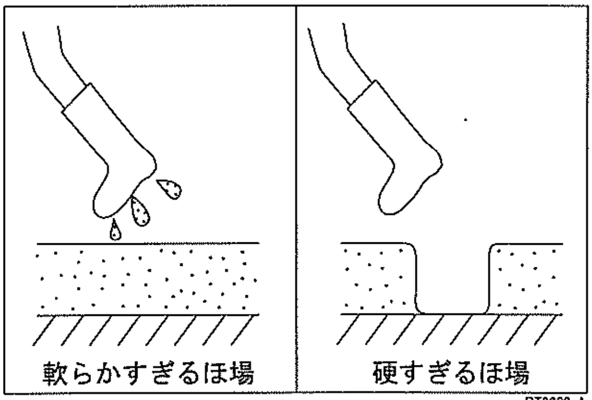
あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。

※　使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあります。

6.1 ほ場の準備

6.1.1 代かき

代かきは、ほ場の表面の凸凹をなくすようにていねいにしてください。

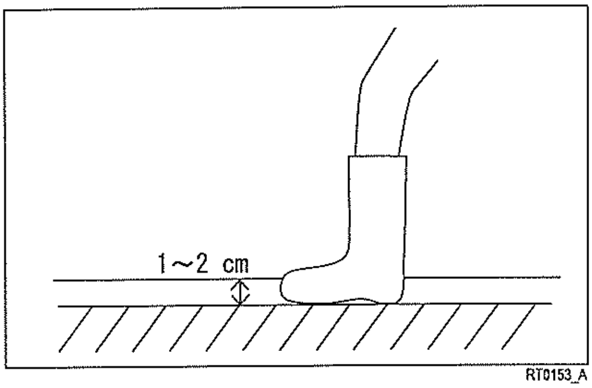


補足

- 代かき日は、土質等によっても異なります。当地に合った代かき日を決めてください。
- ほ場は、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがあります。

6.1.2 水深

水深は 1～2 cm 程度の全面浅水が最適です。

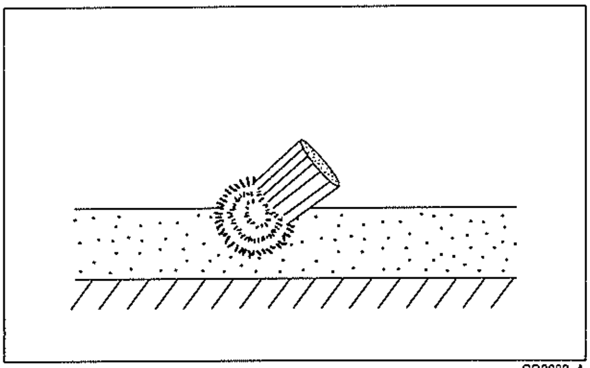


補 足

- 水深が 2 cm 以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがあります。

6.1.3 きょう雑物

刈り株・排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。



6.2 植付作業前の準備

6.2.1 植付株数（株間）の決めかた

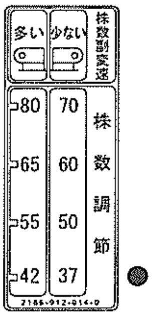
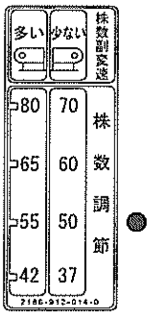
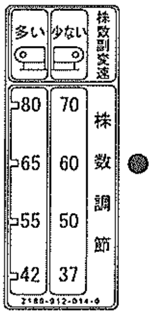
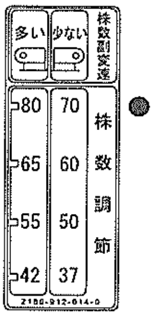
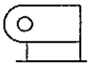
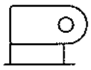
■マット苗

植付株数は、株数切替レバーと株数副変速レバーの切り替えで変更できます。
下表を参考に当地に合った植付株数にセットしてください。(☞92 ページ)

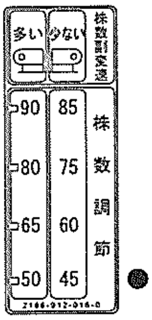
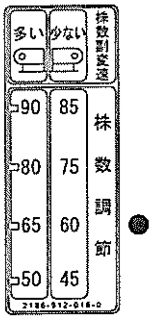
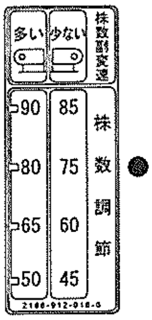
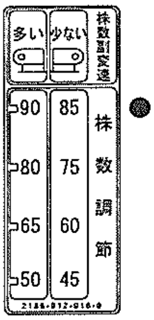
補足

- 出荷時の植付株数は 80 株（株数副変速レバーは[1]の位置）です。(A 仕様は 90 株)
- 植付株数により使用箱数が変わります。植付株数に合った箱数を準備してください。
  なお、実際には 10a あたり 2 箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- 植付株数や苗取量を途中で変更すると所要箱数が変わります。
- PG83 は、37 株、42 株で植付する場合は車速牽制レバーを「37 株、42 株植付時」側に切り替えてください。(☞39 ページ)

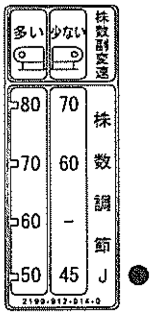
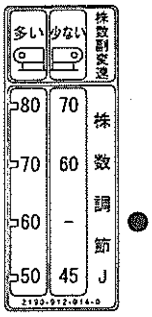
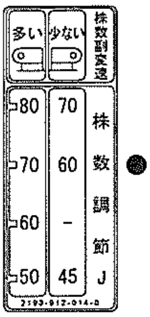
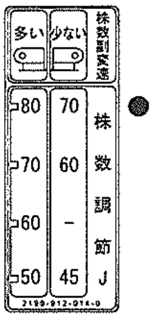
■標準型（条間 30 cm 仕様）

株数切替レバー位置 / 株数副変速レバー位置					
[1]多い 	株数	42	55	65	80
	株間（cm）	26	20	17	14
[2]少ない 	株数	37	50	60	70
	株間（cm）	30	22	18	16

■A、AN、AS型（条間 33 cm 仕様）

株数切替レバー位置 / 株数副変速レバー位置					
[1]多い	株数	50	65	80	90
	株間（cm）	20	15	12	11
[2]少ない	株数	45	60	75	85
	株間（cm）	22	17	13	12

■PG83J型（条間 30 cm 仕様）

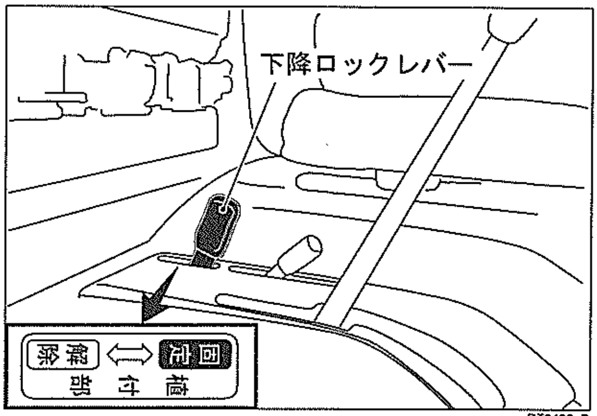
株数切替レバー位置 / 株数副変速レバー位置					
[1]多い	株数（10a）	50	60	70	80
	株間（cm）	22	18	16	14
[2]少ない	株数（10a）	45	–	60	70
	株間（cm）	24	–	18	16

6.2.2 株数副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた

1 植付部をいっぱい上げ、下降ロックレバーを「固定」位置にします。

補足

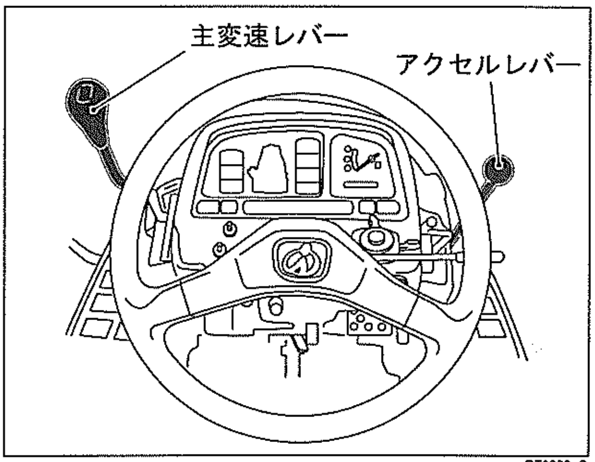
- ほ場内の場合は、植付部は下がったままでもかまいません。



RT0190_B

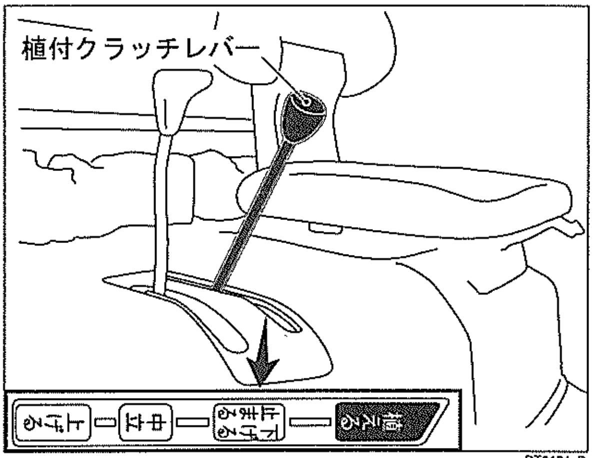
2 アクセルレバーを前方に押して、エンジンを低速回転にします。

3 主変速レバーを「中立（PTO）」位置にします。



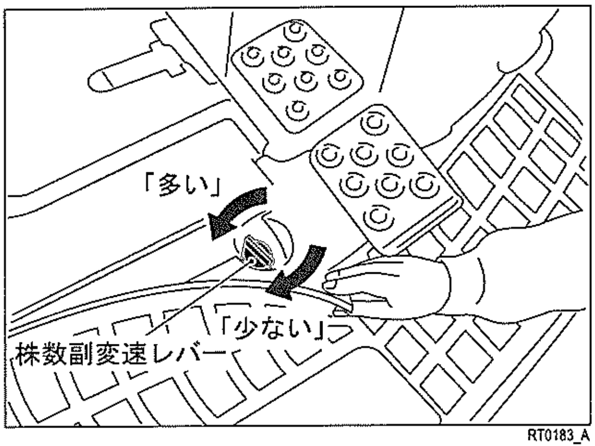
RT0239_C

4 植付クラッチレバーを「植える」位置（Q型はフィンガーアップレバーで植付「入」（☞44ページ））にし、植付ロータリーを回します。



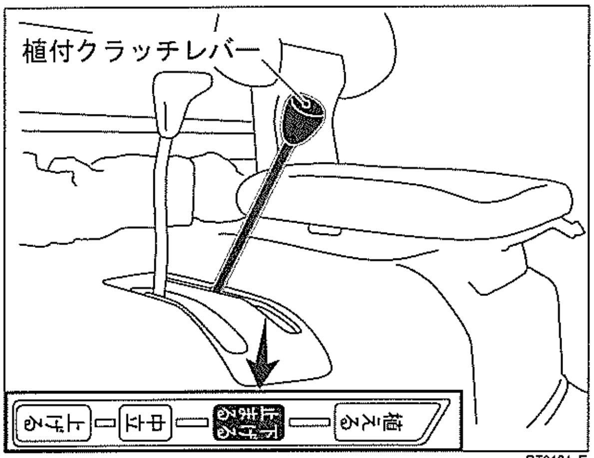
RT0184_D

5 株数副変速レバーを希望の位置に回してください。



RT0183_A

6 植付クラッチレバーを「止まる」位置（Q型はフィンガーアップレバーで植付「切」（☞44ページ））にします。

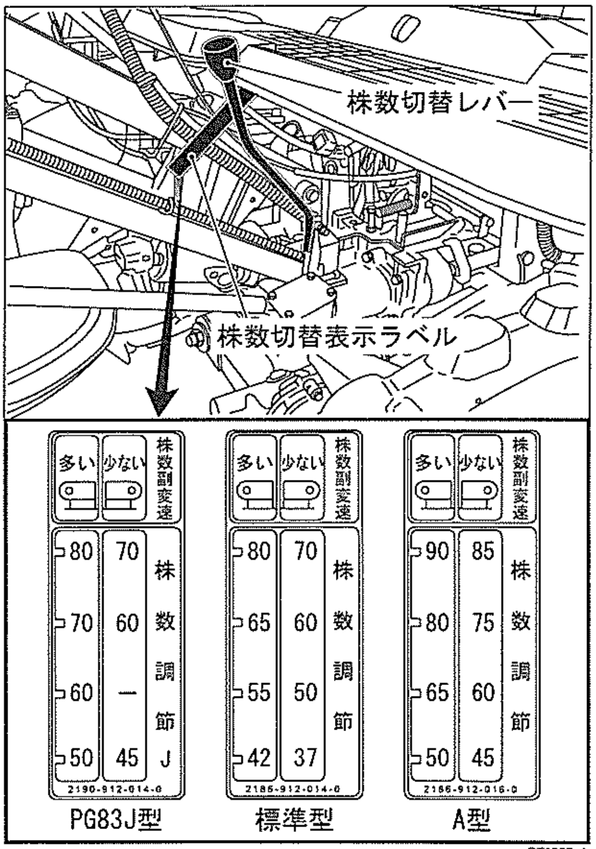


RT0184_E

7 株数切替レバーを動かし、希望の位置にセットします。

補 足

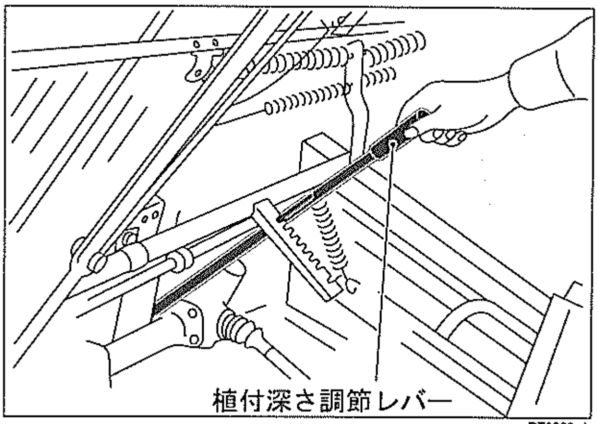
- レバーの調節後、植込杆が回っていることを確認してください。



RT0267_A

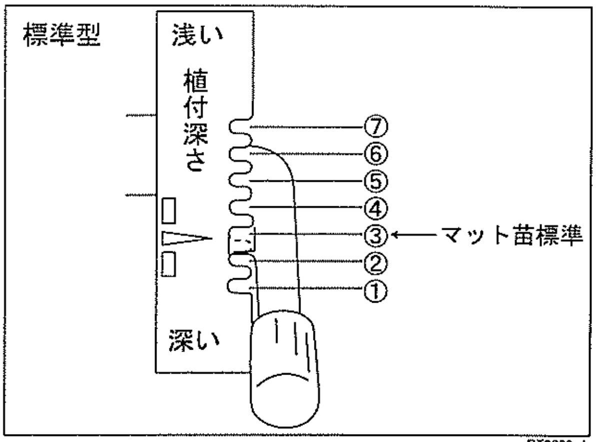
6.2.3 植付深さの調節

(1) 植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは７段階（AN、AS型は９段階）選べます。

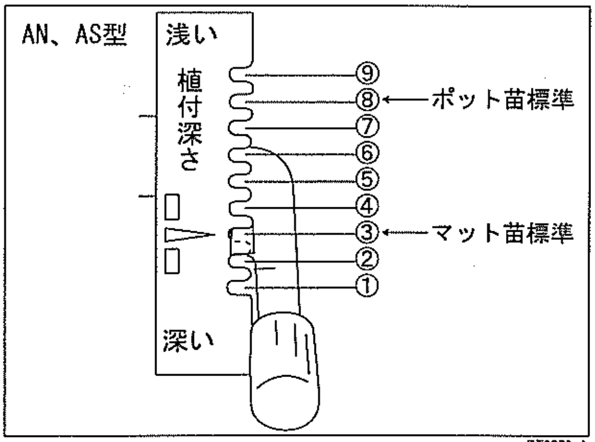


RT0268_A

(2) 植付深さの標準は、マット苗がガイド溝③の位置、ポット苗が⑧の位置です。植付深さを深くしたいときは①の方向へ、浅くしたいときは（⑦⑨）の方向へ植付深さ調節レバーを移動させてください。
AN、AS型でマット苗植付時は⑧⑨は使用しないでください。浅植となり苗がころぶことがあります。



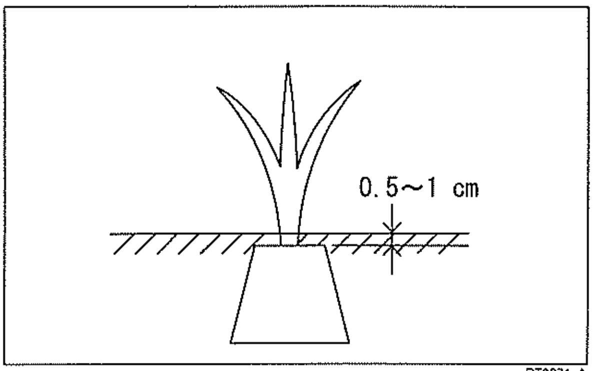
RT0269_A



RT0270_A

補足

- 植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- ポット苗の植付深さは、0.5～1 cm が適正です。



RT0271_A

6.2.4 横送り量の調整

⚠注意

切り替えはエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、作業機を破壊したり、傷害事故の原因となります。

苗の種類によって、横送り量の切り替えを行ってください。

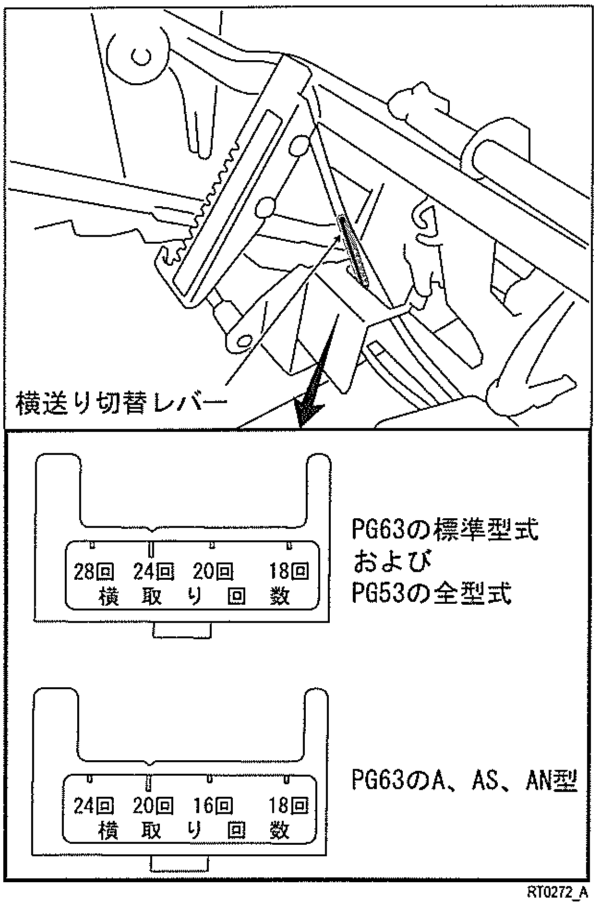
横送りの回数	苗の種類
28回	乳苗
24回	稚苗
20回	中苗
18回	中苗、ヰセキ中苗箱18条ポット苗
16回	ヰセキ成苗箱16条ポット苗

(1) 横送り切替レバーで苗の種類に合った位置に切り替えてください。

(2) 横送り回数を変更するときは下降ロックレバーを「固定」位置にし、エンジンを止めてから希望の横送り回数に変更してください。

補足

- 切り替え後は、必ず希望の位置に入っていることを植込杆を回して確認してください。
- 横送り回数を変更したときは、適正な植付爪と取口ガイドに交換してください。
（植付爪と取口ガイドは、お買い上げ先へ注文してください。）



6.2.5 苗取量の調節

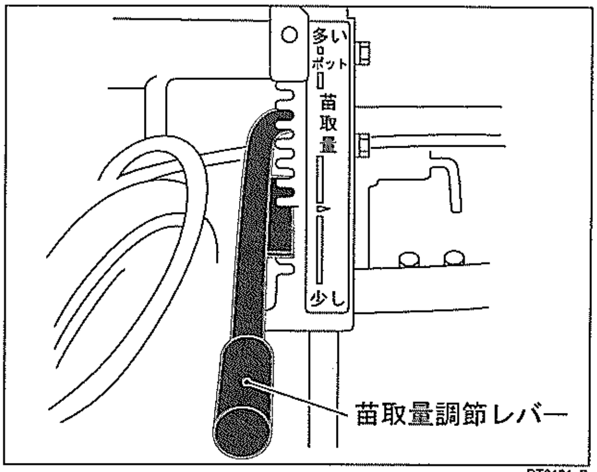
(1) 苗取量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取量を一度に変えることができます。

(2) 苗取量の標準は、マット苗が 11 mm、16 条ポット苗が 20 mm です。

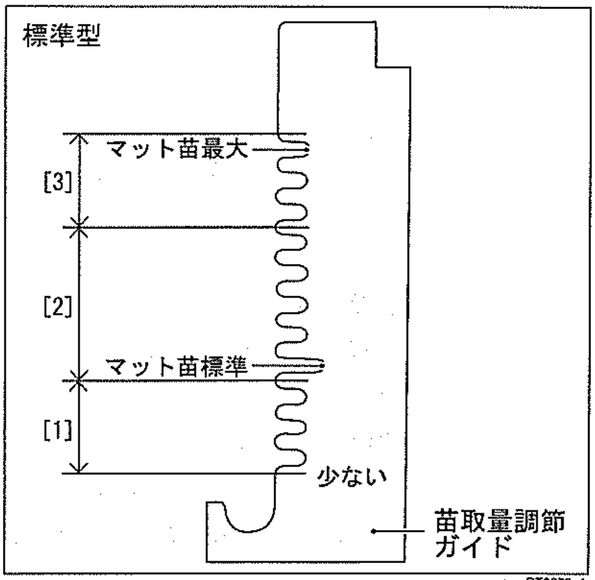
(3) ガイド溝 1 段で苗取量は約 1 mm 変わります。

補 足

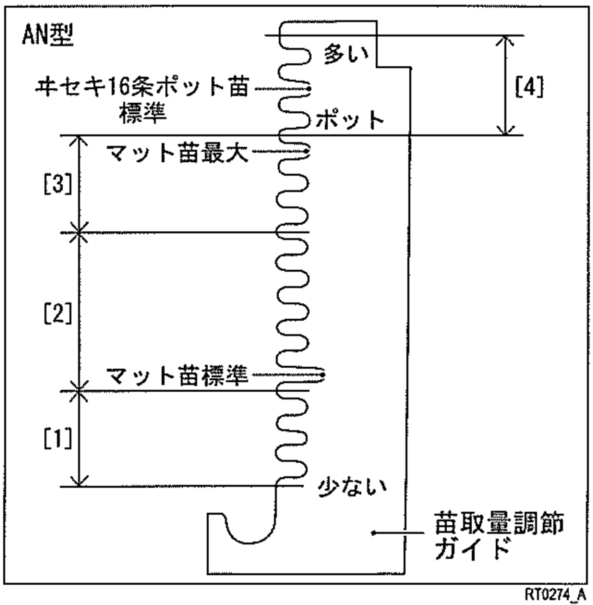
- AN 型のガイド溝[4]の範囲は 16 条ポットを植えるときに使用し、ガイド溝[1][2][3]の範囲はマット苗を植えるときに使用してください。
- AN 型でマット苗を植えるときは[4]の範囲は使用しないでください。



RT0191_B



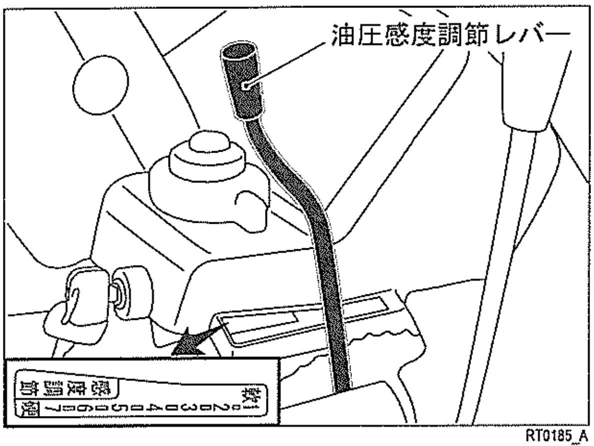
RT0273_A



RT0274_A

6.2.6 油圧感度調節

感度は、油圧感度調節レバーを前後にずらすことにより7段階選べます。



RT0185_A

油圧感度調節レバーの移動方向	植付深さ
「軟」→「硬」	深くなる
「硬」→「軟」	浅くなる

補足

- 最初は必ずレバーを「4」位置にして試し植えをしてください。

(1) フロートで泥を押す場合
レバーを「4」位置から一段ずつ「軟」側（前方）へ移動させてください。

(2) 植付部がバタツク場合やフロート後部が浮く場合
レバーを「4」位置から一段ずつ「硬」側（後方）へ移動させてください。

補足

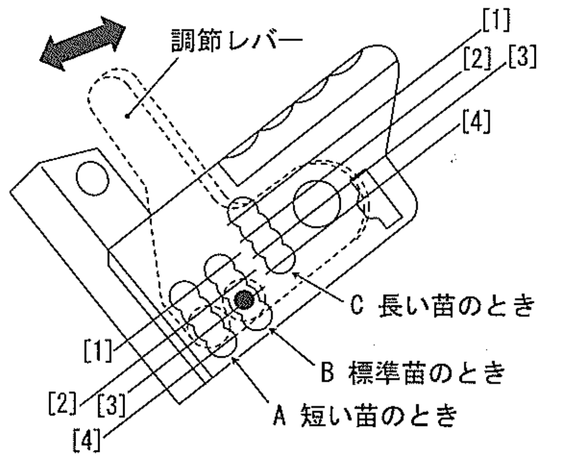
- 油圧感度調節レバーの調節を行った場合は、植付深さが変わります。植付深さの確認と調節を合せて行ってください。
- 水深が深い場合は、水の浮力で、フロートが浮きやすくなります。水深の浅い所よりも一段「硬」側にセットしてください。
- 水深が深い場合や、レバーが「軟」側のときは、植付速度をひかえ目にしてください。
- 隣接条を、植付「切」で走行する場合には、最も「軟」側にセットすると泥押しが少なく隣接条を乱しません。

6.2.7　抵抗棒の調節

⚠注意

抵抗棒の位置の変更はエンジンを停止して行ってください。
※　守らないと、傷害事故の原因となります。

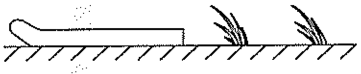
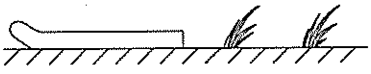
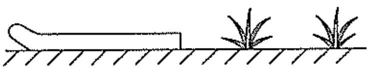
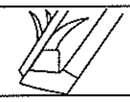
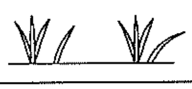
抵抗棒の位置は、調節レバーで４段階の調節できます。
また、苗の長さにより３段階の調節ができます。
その場合は、ヘアーピンを抜いて抵抗棒を差し替えてください。



RT0275_A

抵抗棒の標準（出荷）位置は
マット苗の場合･･･標準苗位置Ｂでの[3]の位置
ポット苗の場合･･･標準苗位置Ｂでの[1]の位置
です。

標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領で調節してください。

不調な場合の現象	抵抗棒の位置	
	マット苗の場合	ポット苗の場合
植付けた苗が前だおれになる。 	[1]、[2]（Ｂの位置）またはＣの位置[1]～[4]	[1]（Ｃの位置）
植付けた苗が後だおれになる。 	[4]（Ｂの位置）またはＡの位置[1]～[4]	[1]（Ａの位置）
植付けた苗がおおぎ状になる。 	[4]（Ｂの位置）またはＡの位置[1]～[4]	－
苗が植付爪より離れない。 	[1]、[2]（Ｂの位置）またはＣの位置[1]～[4]	[1]（Ｃの位置）
苗が一、二本だけ離れ植付が乱れる。 	[4]（Ｂの位置）またはＡの位置[1]～[4]	－

補足

- 抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に調節レバーで抵抗棒の位置を変えて調節してください。それでも直らない場合は抵抗棒の差し替えで抵抗棒の位置を変更してください。
- 抵抗棒の位置を変更後は、全条同じ位置に抵抗棒がセットされているか確認してください。

6.2.8 整地板の調節

⚠注意

ピン穴変更は植付部を上昇させ、感度調節レバーを植付部固定にして、行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

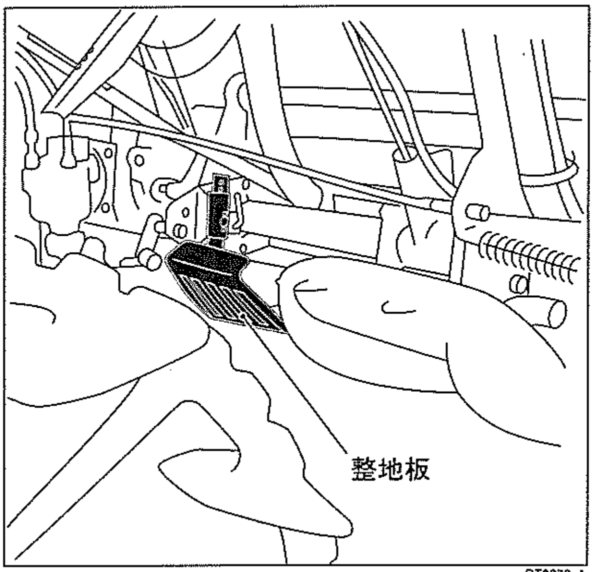
■PG63、73

(1) 整地板の位置は、ピン穴の変更により 4 段階選べます。

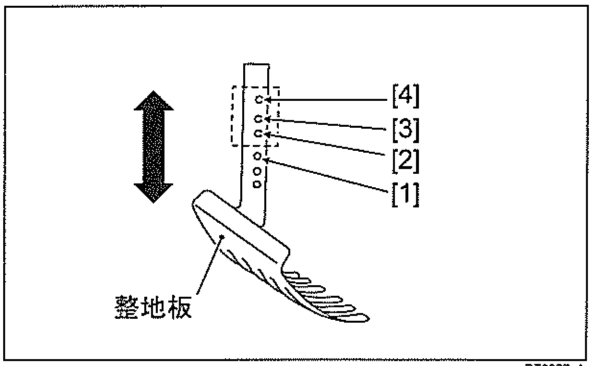
(2) 出荷時は[1]の位置です。

(3) 出荷位置で試し植えをして、不調な場合は下記要領で調節してください。

不調な場合の現象	整地板の位置
整地しない	整地板を下げる
泥を押す	整地板を上げる



RT0276_A



RT0277_A

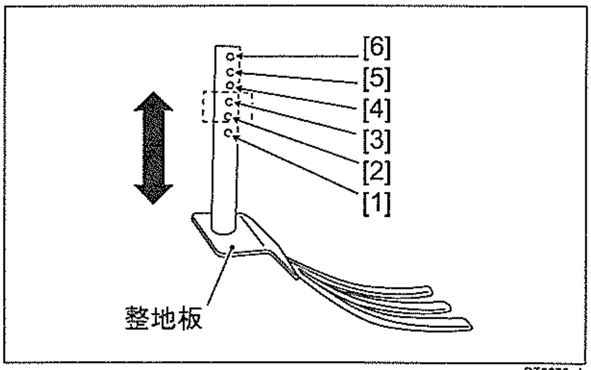
■PG83

(1) 整地板の位置は、ピン穴の変更により 6 段階選べます。

(2) 出荷時は[3]の位置です。

(3) 出荷位置で試し植えをして、不調な場合は下記要領で調節してください。

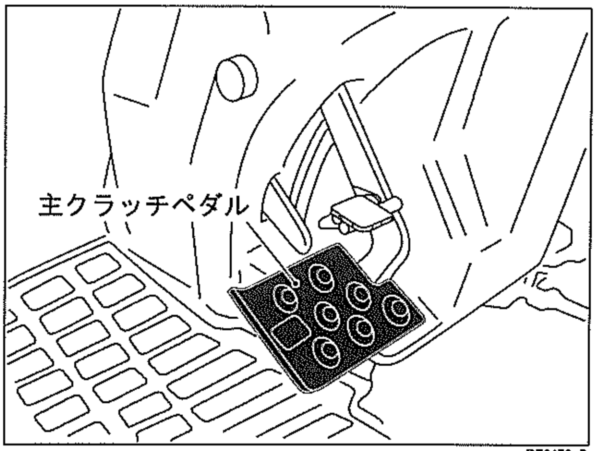
不調な場合の現象	整地板の位置
整地しない	整地板を下げる
泥を押す	整地板を上げる



RT0278_A

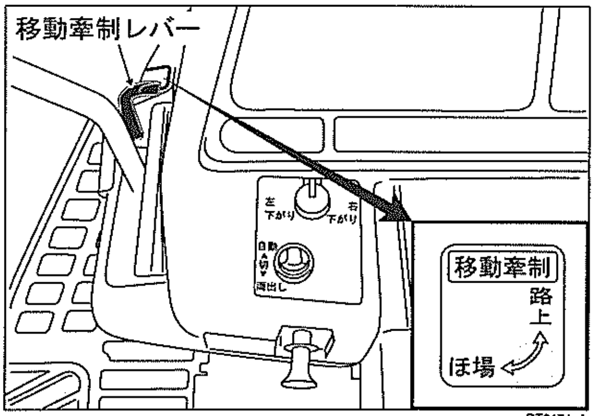
6.3 植付作業の手順

1 ほ場に入り主クラッチペダルを踏み込み、ロックします。



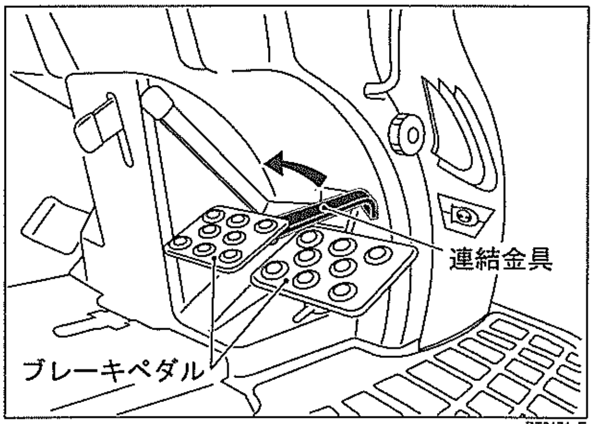
RT0170_B

2 移動牽制レバーを「ほ場」にし（D 型のみ）、主変速レバーを「中立（PTO)」（☞37 ページ）にします。



RT0174_A

3 左右のブレーキペダルを連結している連結金具を外します。



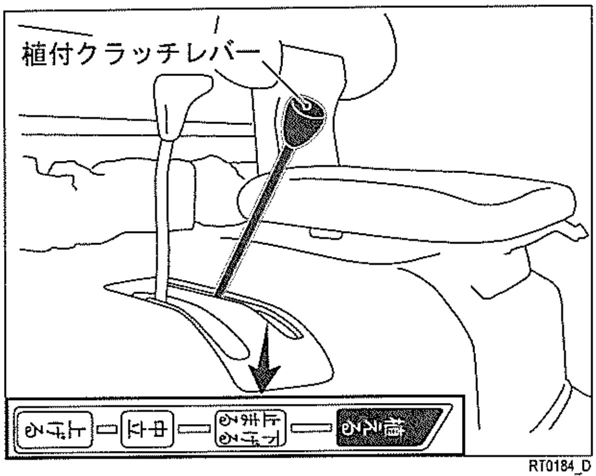
RT0171_E

4 線引マーカを収納位置から作業位置にしてください。（☞69 ページ）

5 隣接マーカ、しゅう動板、しゅう動板ガードを作業位置にセットしてください。（☞69 ページ）

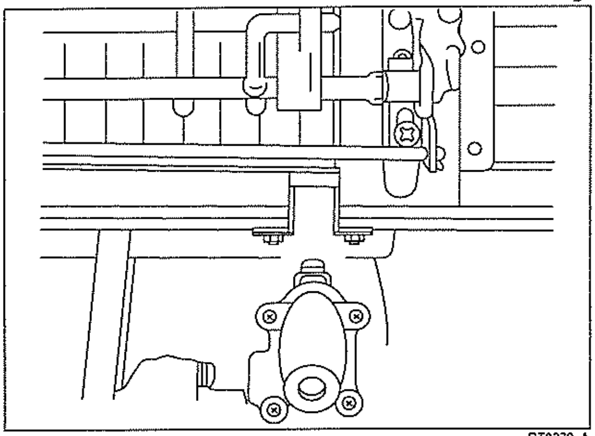
6 主クラッチペダルのロックを解除します。（☞35 ページ）

7 植付クラッチレバーを「植える」位置（Q 型はフィンガーアップレバーで植付「入」（☞44 ページ））にします。

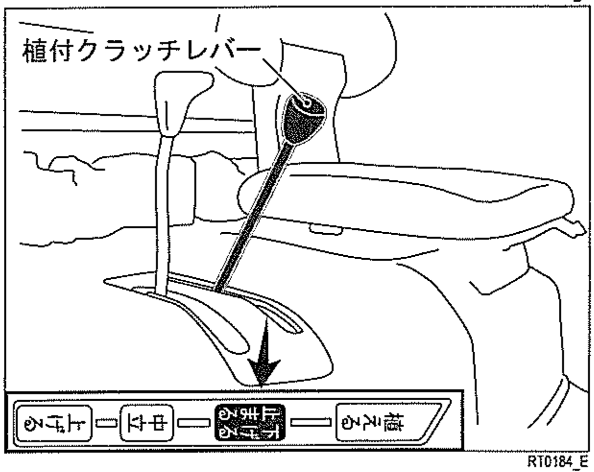


RT0184_D

8 苗のせ台を左または右側に寄せてください。

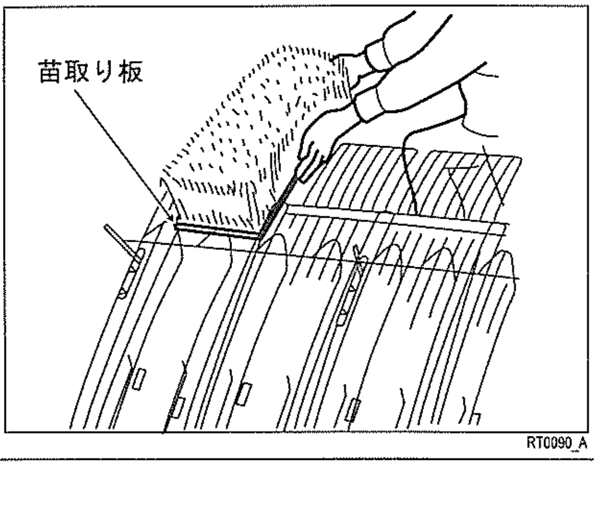

RT0279_A

9 植付クラッチレバーを「止まる」位置（Q 型はフィンガーアップレバーで植付「切」（☞44 ページ））にしてください。



RT0184_E

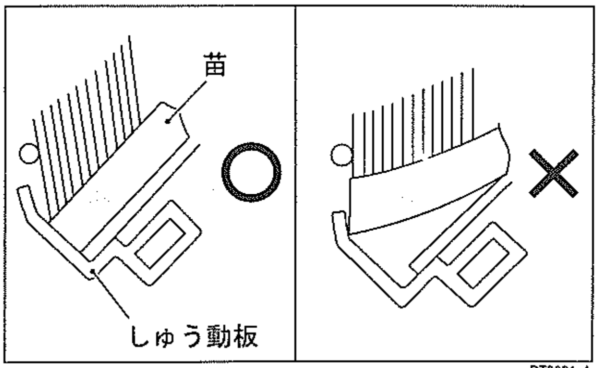
10 苗取り板で取った苗を、苗のせ台にていねいにのせてください。



RT0090_A

補 足

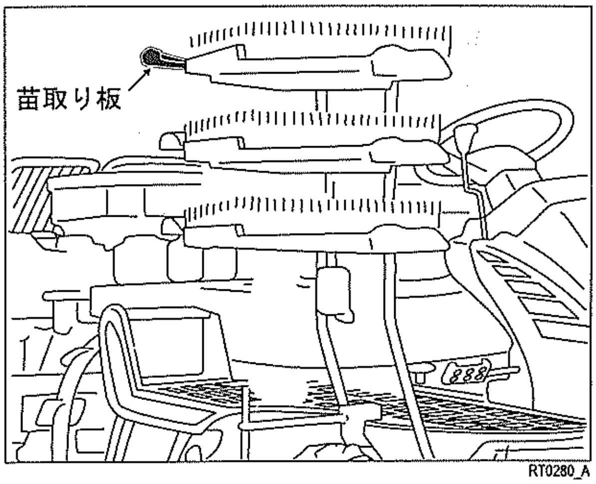
- PG シリーズは、苗のせ台に苗が２枚搭載できます。
- 苗がしゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。
- 苗のせ台を左または右端に寄せてください。
- 根張りの悪い苗は振動で形がくずれてしまうため、育苗箱に入ったままの状態で補助苗枠にのせてください。



RT0091_A

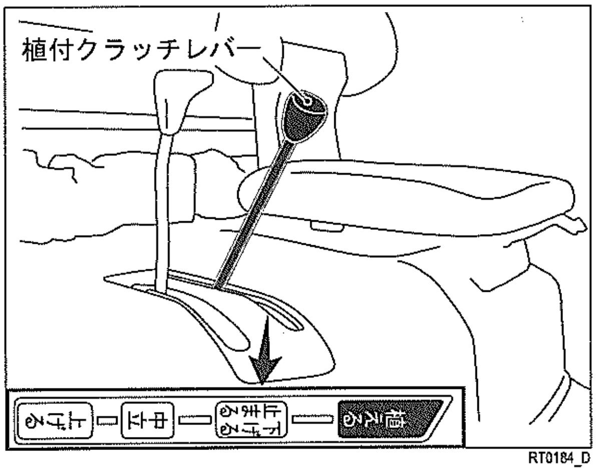
11 主変速レバーを「植付」、副変速レバー（☞38 ページ）を「低速」にして、ほ場の端に移動してください。

12 線引マーカを次の行程で植える側に出してください。



RT0280_A

13 植付クラッチレバーを「植える」位置（Q 型はフィンガーアップレバーで植付「入」（☞44 ページ））にしてください。



RT0184_D

14 エンジン回転数を中速にして、主クラッチペダルをゆっくり離し植付を始めてください。

補 足

- 植付作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから、連続作業を行ってください。
- ほ場の状態、苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。

6.3.1 枕地一工程植えのしかた

■PG73、PG83T 型（あぜが低い場合）

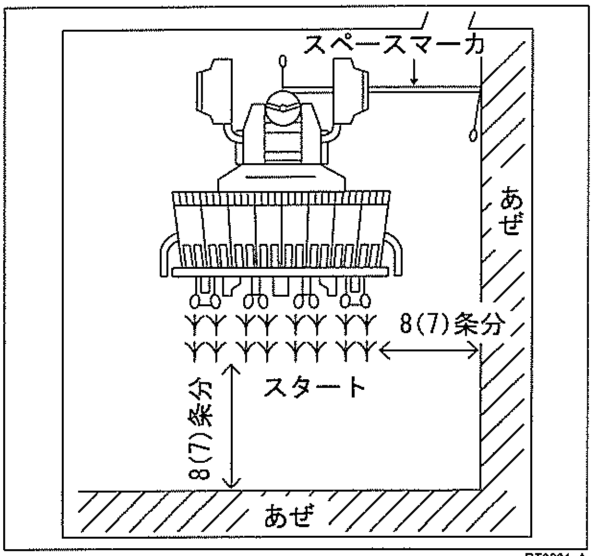
⚠注意

高圧線、架線電線による感電に注意してください。
※ スペースマーカは素材特性上、電気をよく通します。

1 スペースマーカ（あぜ際マーカ）をいっぱいに引き伸ばし、あぜに沿わせ７または８条分をあけて植えます。

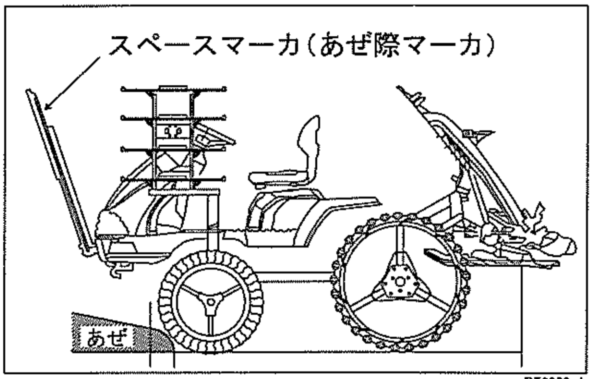
補 足

● スペースマーカ（あぜ際マーカ）伸縮時は、ロック位置付近でひねりながら行うとスムーズに行えます。



RT0281_A

2 前輪があぜにあたるまで植えます。



RT0282_A

3 スペースマーカ（あぜ際マーカ）のマーカステーを垂直位置に戻し、マーカをホルダに押し込んで固定してください。

4 副変速レバー（☞38 ページ）を「後進」にして旋回可能なところまでさがります。

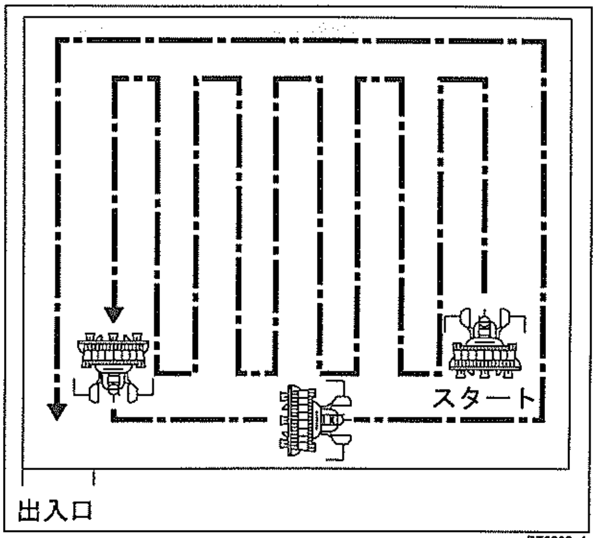
5 副変速レバー（☞38 ページ）を「前進」にして、ステアリング（ハンドル）を回し旋回する側のブレーキペダルを踏んでください。

6 センターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間を合せ、機体の進行方向にまっすぐ向けて植え始めてください。

7 最後にほ場を一回りして植付すると、植え残しがなく効率よく田植えができます。

補 足

- スペースマーカ（あぜ際マーカ）を使用した後は必ず収納してください。（あぜ等に当たり変形するおそれがあります。）
- スペースマーカ（あぜ際マーカ）伸縮時は、ロック位置付近でひねりながら行うとスムーズに行えます。



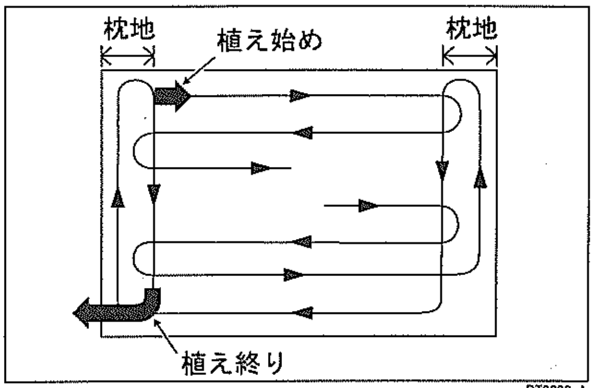
RT0283_A

6.3.2 枕地のとりかた

枕地はあらかじめ 1 往復分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行えます。

補 足

- ほ場が長方形でない場合は、まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると、きれいに植付ができます。



RT0093_A

6.3.3 旋回のしかた

1 あぜに近づいたら、副変速レバー（☞38 ページ）を低速にします。

2 あぜから枕地分手前で、植付クラッチレバーを「上げる」位置（Q 型はフィンガーアップレバー（☞44 ページ）またはらくらくレバー（☞45 ページ）で油圧「上」）にしてください。

3 ステアリング（ハンドル）をいっぱいまで回してください。
また、旋回する側のブレーキペダルを踏むことにより、さらに小さく旋回することができます。

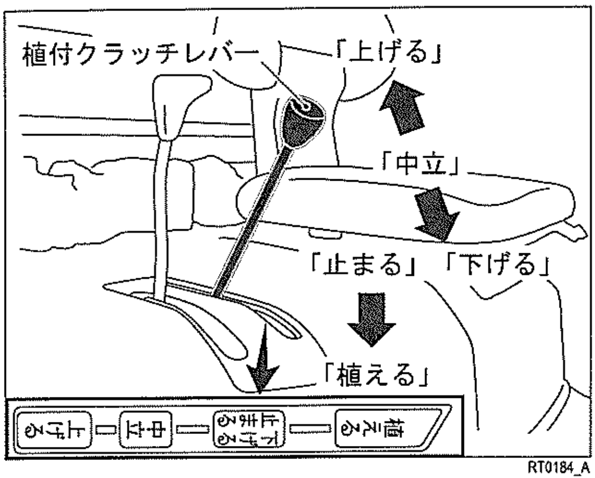
4 センターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間を合せ機体を進行方向にまっすぐ向けてください。

5 植付クラッチレバーを「下げる」位置（Q 型はフィンガーアップレバーで油圧「下」（☞44 ページ））にし、植付部を下げて、次の植付行程側の線引マーカを出します。

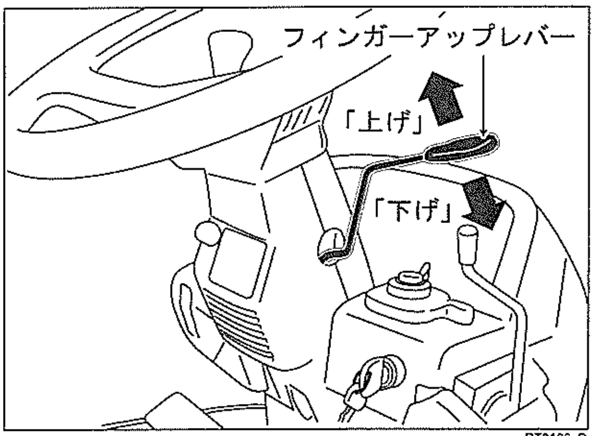
6 枕地分をすぎた所で、植付クラッチレバーを「植える」位置（Q 型はフィンガーアップレバーで植付「入」（☞44 ページ））にし、モニターランプの「植える」の点灯を確認して植え進んでください。

補 足

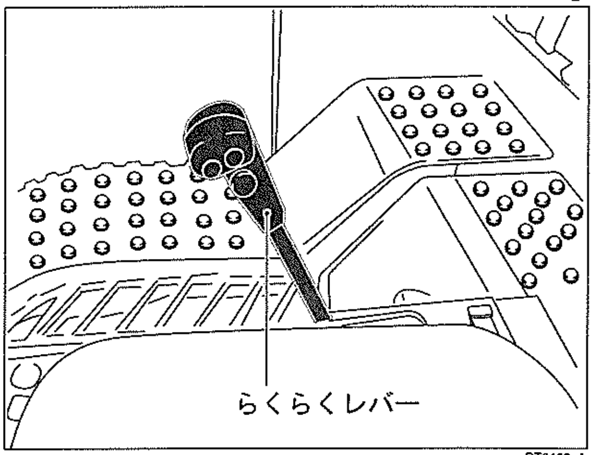
- 線引マーカは、植付部を上下することにより自動的に左右交互に倒れます。
- センターマスコットは、1 行程前に線引マーカでつけたマーカ跡に合せると隣接との条間が合います。
- 隣接マーカは、1 行程前に植付けられた隣接条に合せると条間が合います。



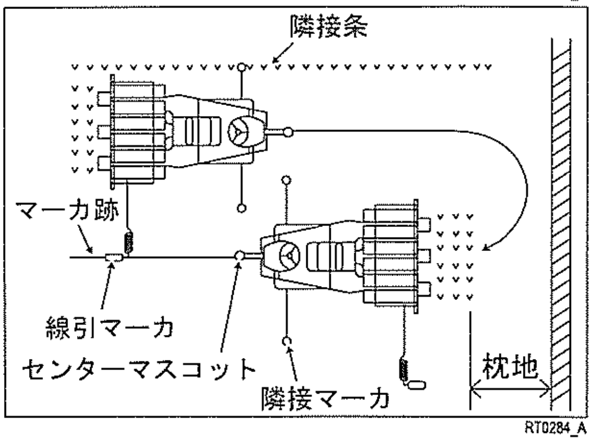
RT0184_A



RT0166_D



RT0188_A



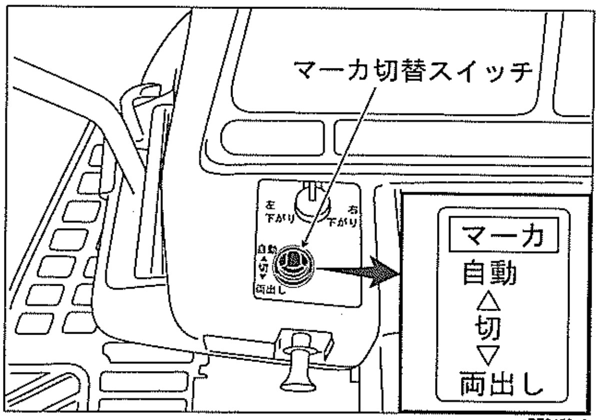
RT0284_A

6.3.4 オートマーカの使いかた

(1) マーカ切替スイッチを「自動」にすると、線引マーカの出る側のオートマーカモニターランプが点灯します。

(2) 線引マーカの出る方向を切り替えるときは、植付クラッチレバーまたはフィンガーアップレバーを「上げ」操作します。
植付部をいっぱいまで上げてから、オートマーカモニターランプが切り替わったことを確認して、植付部を下げてください。

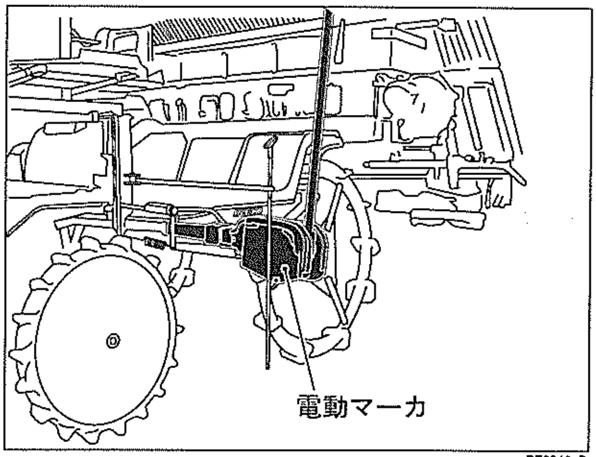
(3) 植付部がいっぱいに上がっているとき、植付クラッチレバーまたはフィンガーアップレバーを「上げ」操作する度に、線引マーカの出る方向が左右交互に切り替わります。



RT0159_A

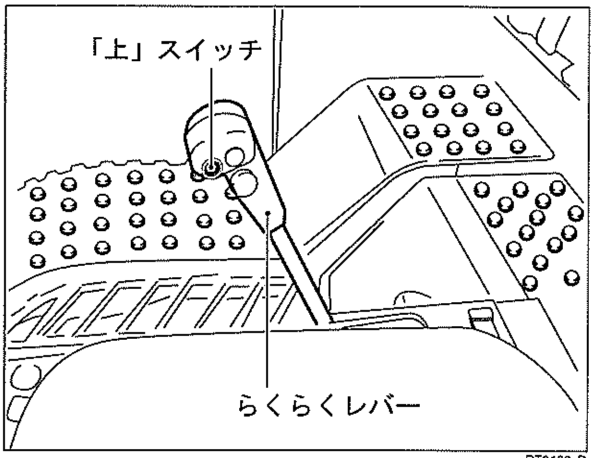
6.3.5 電動マーカの使いかた(PG83(T 型を除く))

(1) マーカ切替スイッチを「自動」にすると、電動マーカが出る側のオートマーカモニターランプが点灯します。



RT0240_D

(2) 電動マーカの出る方向を切り替えるときは、らくらくレバーの「上」スイッチを操作することにより、左右交互に切り替わります。

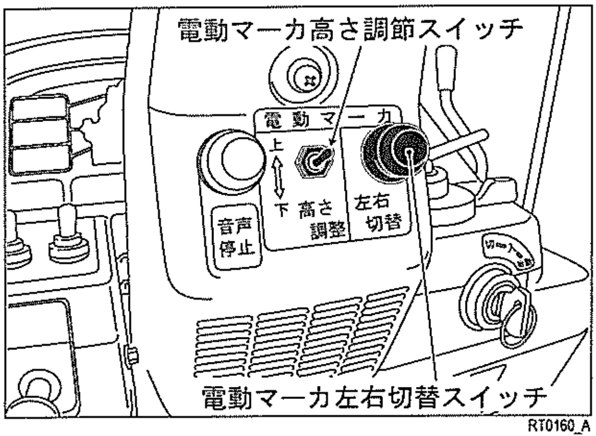


RT0186_B

(3) 深いほ場やあぜ等で、マーカの接地に不具合がある場合は、マーカ高さ調節スイッチでマーカ高さを調節してください。(☞26 ページ)

補足

- 電動マーカの左右切り替えは、電動マーカ左右切替スイッチの操作で植付部が下がっていても切り替えることができます。
- 電動マーカ高さ調節スイッチで調節したマーカの高さは、メインスイッチを「切」にするまで保持されます。再度「入」にすると工場出荷時の高さに戻ります。



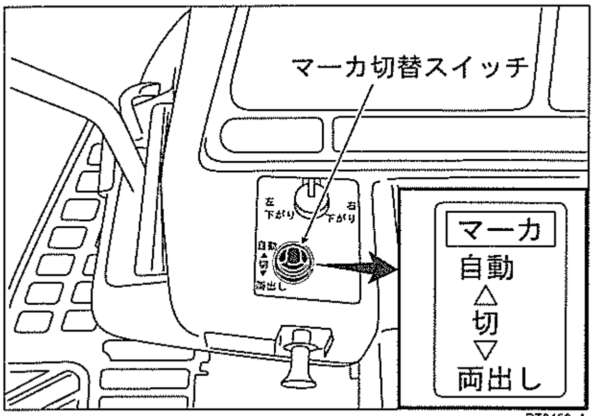
RT0160_A

6.3.6 マーカ両出しのしかた

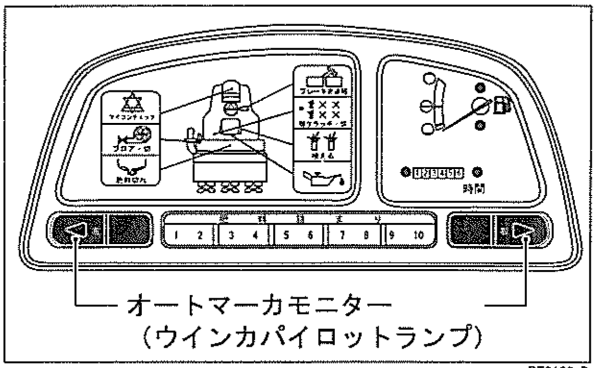
マーカ切替スイッチを「両出し」にすると、左右の線引マーカが同時に出るようになります。
このとき、オートマーカモニターランプが左右とも点灯します。

補足

- 植付部をいっぱいまで上げて、マーカ切替スイッチを「切」にすると、両側の線引マーカは出ません。



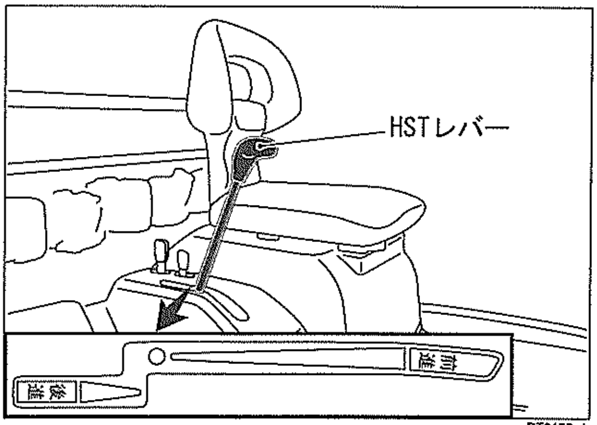
RT0159_A



RT0165_B

6.3.7 バックリフトの使いかた

■Q 型



RT0176_A

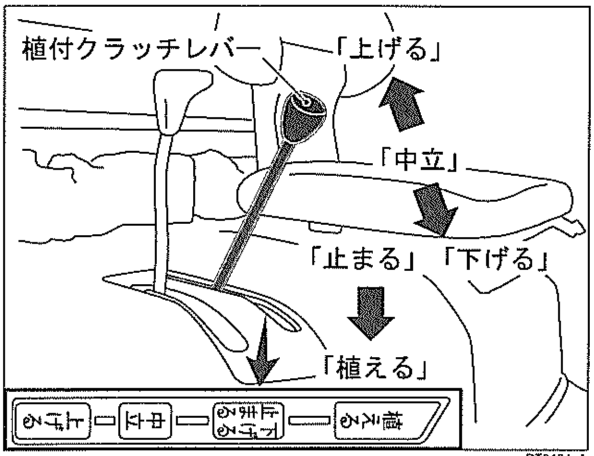
(1) 植付部が下降状態のとき、HST レバーをバック操作（「後進」位置）すると、植付部が上昇します。

(2) バックリフト切替スイッチを「切」にするとバックリフトは作動しません。(☞27 ページ)

補 足

● バックリフトが作動中でも、フィンガーアップレバーの下げ操作で、バックリフトより優先して植付部を下降させることができます。

■Q 型以外



RT0184_A

(1) 主変速レバーまたは、HST レバーをバック操作（「後進」位置）すると、植付クラッチレバーが「上げる」位置に切り替わり、植付部が上昇します。

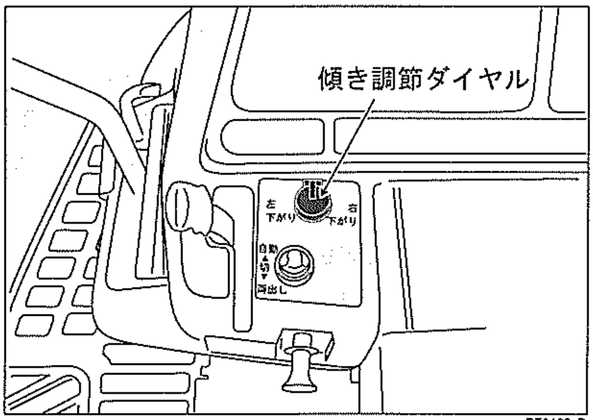
(2) バックリフト切替レバーを「切」にするとバックリフトは作動しません。(☞43 ページ)

補 足

● バックリフトが作動中でも、植付クラッチレバーを手で「下げる」位置まで押し下げると、植付部を下降させることができます。
ただし、レバーより手を離すと、再度植付クラッチレバー「上げる」位置に切り替わり、植付部が上昇します。

6.3.8 傾き調節ダイヤルの使いかた（Q、R 型）

27 ページを参照してください。



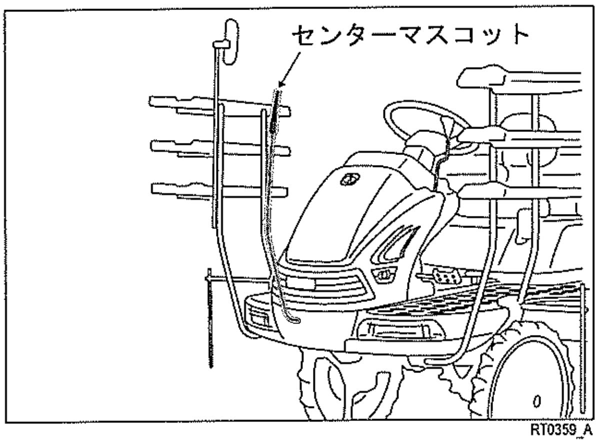
RT0162_B

補 足

● あぜ際で植付部を傾けて作業したいときは、傾き調節ダイヤルで傾けて作業できます。

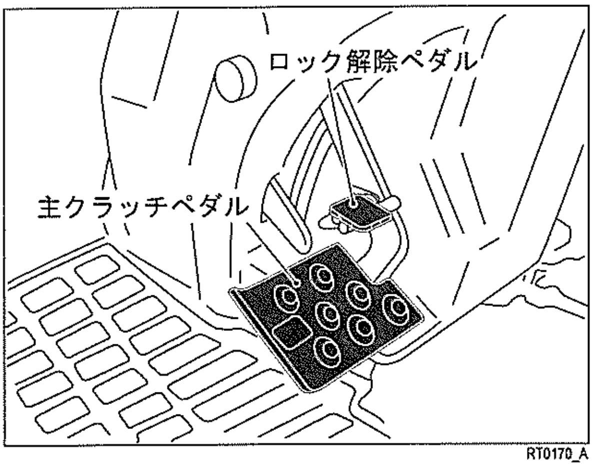
6.3.9 苗の補給

1 苗が一定量まで減少すると、センターマスコットが点滅し、音声モニターで知らせます。（音声モニターはQ型のみ）



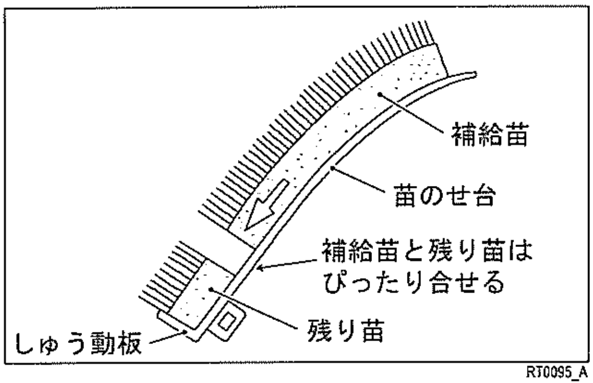
RT0359_A

2 主クラッチペダルを踏み込み、ペダルを固定してクラッチを切ります。



RT0170_A

3 補助苗を苗取り板で取り、上の方からゆっくりと苗のせ台にすべりこませてください。

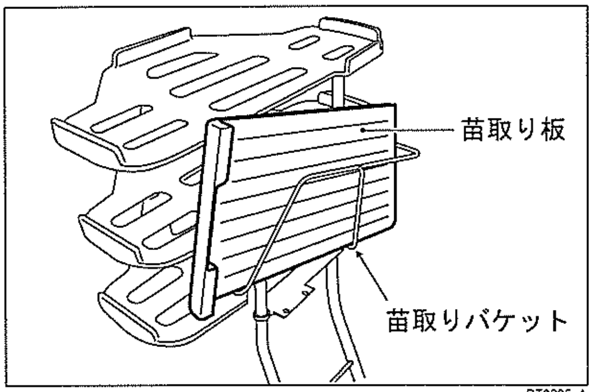


RT0095_A

4 苗補給が終ったら、主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、徐々に離して発進してください。

補 足

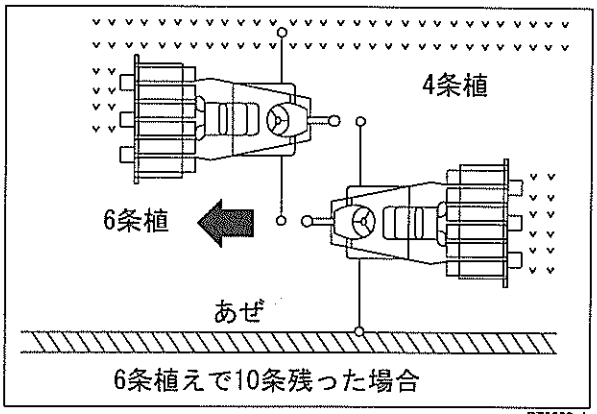
- 苗補給するときには、残り苗と補給苗がぴったり合うように注意してください。
- AN型は苗のせ台が右側に寄ってブザーが鳴ると主クラッチペダルを踏み込み、田植機を停止後、静かに苗を補給してください。
- 苗補給後の苗取り板は苗取りバケットに入れてください。



RT0285_A

6.3.10 植えじまい

植付の最終行程（あぜ際での植付）を使用機械の条数に合せるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。
任意の条数を植えたいときは、植込杆停止レバーと苗ストッパを使って行ってください。



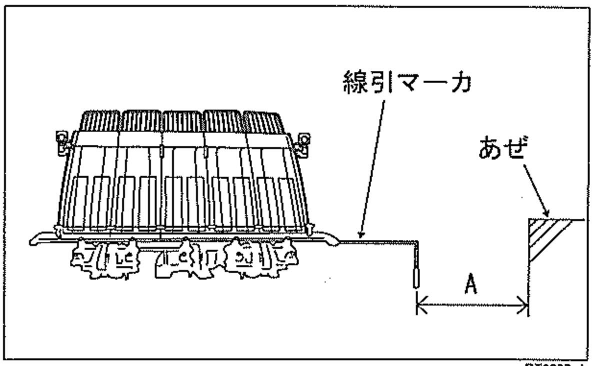
RT0286_A

補足

- 苗の葉を両手で持つと苗がくずれるような弱い苗で、長い距離を特定条のみ植付停止する場合は、苗ストッパを使用してください。
  植込杆停止レバーを使用すると、停止条の苗がくずれ植付再開時、欠株を生じる場合があります。

■最終行程での植付条数の決めかた

センターマスコットと隣接マーカで条合せした後、線引マーカを出し植付条数を決めてください。



RT0287_A

(1) PG53（5条）

Aの距離	
90 cm 程度のとき	5条植え
60 cm 程度のとき	4条植え
30 cm 程度のとき	3条植え
0 cm 程度のとき	2条植え
あぜへ 30 cm 程度のり上げるとき	1条植え

(2) PG63（6条）

Aの距離	
105 cm 程度のとき	6条植え
75 cm 程度のとき	5条植え
45 cm 程度のとき	4条植え
15 cm 程度のとき	3条植え
あぜへ 15 cm 程度のり上げるとき	2条植え
あぜへ 45 cm 程度のり上げるとき	1条植え

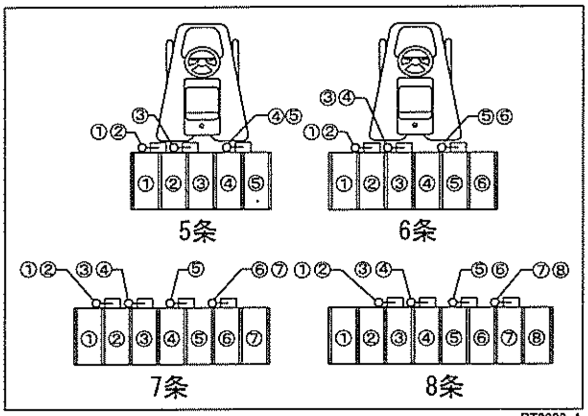
(3) PG73

Aの距離	
120 cm 程度のとき	7条植え
90 cm 程度のとき	6条植え
60 cm 程度のとき	5条植え
30 cm 程度のとき	4条植え
0 cm 程度のとき	3条植え
あぜへ 30 cm 程度のり上げるとき	2条植え
あぜへ 60 cm 程度のり上げるとき	1条植え

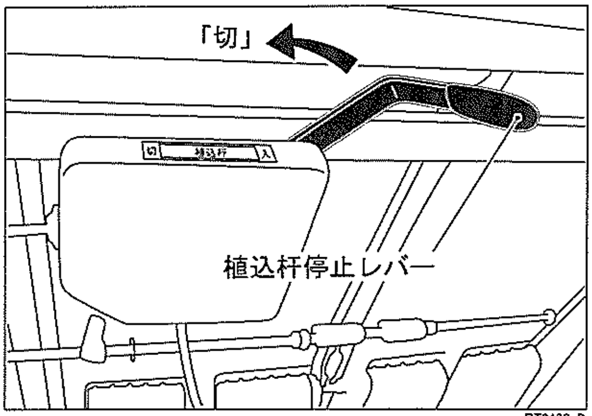
(4) PG83

Aの距離	
135 cm 程度のとき	8 条植え
105 cm 程度のとき	7 条植え
75 cm 程度のとき	6 条植え
45 cm 程度のとき	5 条植え
15 cm 程度のとき	4 条植え
あぜへ 15 cm 程度のり上げるとき	3 条植え
あぜへ 45 cm 程度のり上げるとき	2 条植え
あぜへ 75 cm 程度のり上げるとき	1 条植え

植込杆停止レバーを「切」位置にすることにより、下図に示す条の植付を停止することができます。



RT0290_A

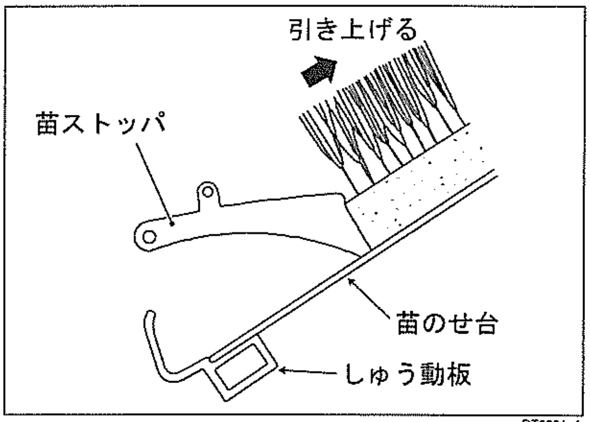


RT0186_B

補 足

- 植込杆停止レバーを「切」位置で使用した後は、必ず「入」位置に戻してください。

1 条単位で植付を停止したいときには、植付を止めたい条の苗を上に引き上げ、苗ストッパを座席下部より外し、右図のように取り付けてください。



RT0291_A

注意

苗ストッパを使用した後は、必ず苗押えから取り外し、座席下に収納してください。

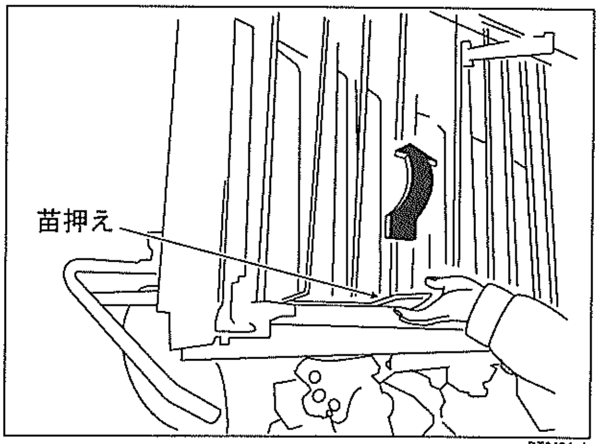
※ 苗ストッパが後方に倒れて植込杆と接触し、部品を破損するおそれがあります。

6.3.11 残り苗の取り出し

植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、苗押えを上に引き抜き、ガイド穴から外し、上側に回してください。

補足

- 苗の取り出しが終ったら、苗押えは必ず作業位置（ガイド穴）に戻してください。



RT0194_A

6.3.12 安全クラッチが作動したとき

⚠注意

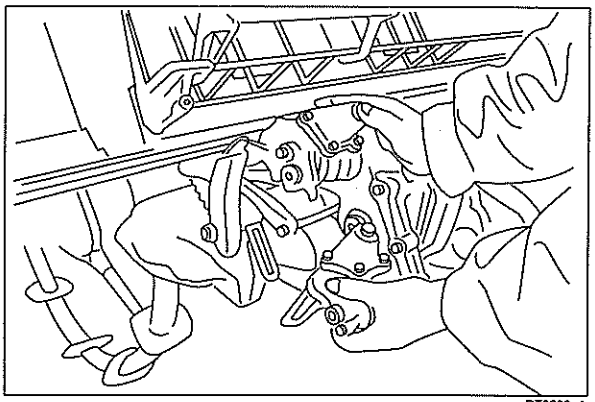
安全クラッチの確認は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

植付作業中、植込杆が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いています。次の処置をしてください。

1. ただちに主クラッチペダルを踏み込み、クラッチを切り、主クラッチペダルをロックさせます。
2. 植付クラッチレバーを「止まる」位置（Q型はフィンガーアップレバーで植付「切」（☞44 ページ））にし、エンジンを停止します。
3. 苗取口と植付爪の間、植込杆とフロートの間等に石等をかんでいないか確認し、取り除いてください。
4. 植込杆が軽く回動するか、しゅう動板との干渉はないか、植付爪は変形していないかを確認してから植付を再開してください。
5. 植付爪が変形している場合には、交換してください。

補足

- 植付爪が曲がったり破損したときは、お買い上げ先へご連絡ください。



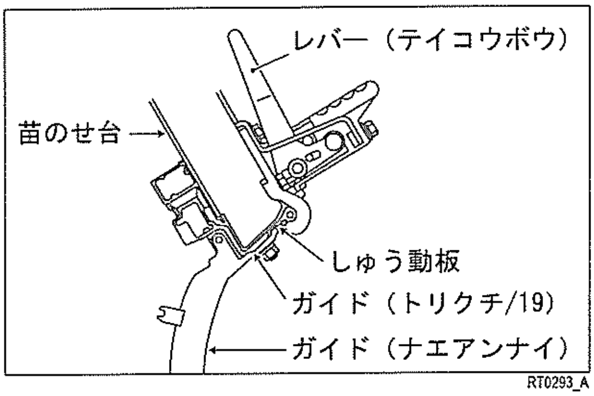
RT0292_A

6.3.13 ポット、マットの組み替え

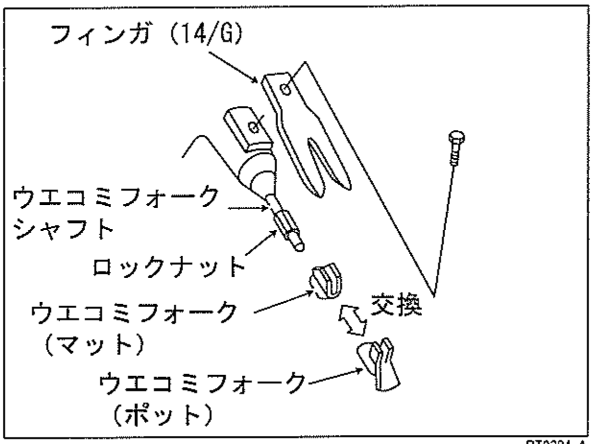
AN 型仕様機でマット苗を植えるときは、次の箇所を変更してください。

(1) 下に示す部品の追加および交換は、お買い上げ先に依頼してください。
- ・ポットホルダの取り外し
- ・ガイド（トリクチ/19）の交換
- ・フィンガ（14/G）
- ・ウエコミフォーク（マット）の交換
- ・ガイド（ナエアンナイ）の追加
- ・レバー（テイコウボウ）の追加

(2) 下に示す箇所の調節を行ってください。
- ・植付深さ調節レバーの調節（☞93 ページ）
- ・横送り切替レバーの調節（☞94 ページ）
- ・苗取量調節レバーの調節（☞95 ページ）
- ・抵抗棒位置の調節（☞97 ページ）



RT0293_A



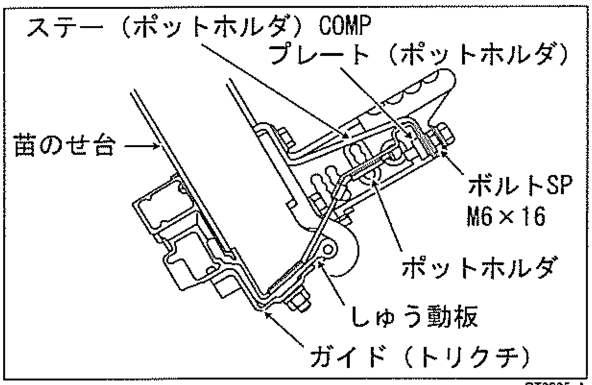
RT0294_A

■N18 型

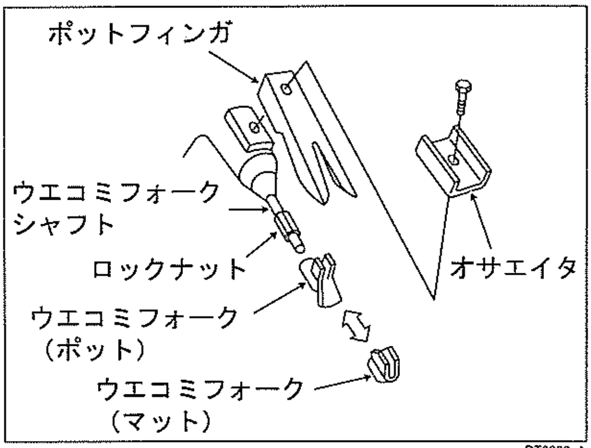
ヰセキ成苗箱ポット苗を植えるときは、次の箇所を変更してください。

(1) 下に示す部品の追加および交換は、お買い上げ先に依頼してください。
- ・ポットホルダの追加
- ・ガイド（トリクチ/22）の交換
- ・ポットフィンガの交換
- ・ウエコミフォーク（ポット）の交換
- ・プレート（ポットホルダ）の追加
- ・ステー（ポットホルダ）COMP の追加

(2) 下に示す箇所の調節を行ってください。
- ・植付深さ調節レバーの調節（☞93 ページ）
- ・横送り切替レバーの調節（☞94 ページ）
- ・苗取量調節レバーの調節（☞95 ページ）
- ・抵抗棒位置の調節（☞97 ページ）



RT0295_A



RT0296_A

7. 点検整備

7.1 定期的な点検整備

⚠危険

作業中は火気厳禁です。

※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠警告

取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 田植機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。

点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。

※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部を降ろすか植付部の油圧を下降ロックレバーで「固定」位置にしてから行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 間に合せの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良により傷害事故を引き起こします。

点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。

※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。

※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

⚠警告

エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。
エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※　守らないと、やけど等の原因となります。

ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。
運転停止後 10 分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※　守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。
※　守らないと、故障や事故の原因となります。

7.1.1　点検、給油、調整一覧表

○：点検　△：給油　×：交換

点検・給油・調整項目一覧		点検時間 作業前後	50時間ごと	100時間ごと	不調時	備考	参照ページ
エンジン部	エンジンオイル	○	×			ヰセキ純正オイル 10W30# または 30#（SE 級以上）8 条、6HG-1.2 ℓ 7、6、5 条-1.1 ℓ	116
		初回のみ 20 時間で交換					
エンジン部	オイルフイルタ	200 時間ごとに交換					118
エンジン部	エアクリーナエレメント洗浄			○		スポンジエレメントは 25 時間ごと	122
エンジン部	燃料フィルタの清掃			○		または毎シーズン始め	125
エンジン部	点火プラグの清掃				○	毎シーズン始め	123
エンジン部	ラジエータ冷却水	○				1 年 1 回交換（約 2.2 ℓ）	119
エンジン部	ラジエータの清掃				○	冷却水交換時	122
走行部 標準型	チェンジミッションオイル（油圧オイル兼用）			×		ヰセキハイポイドギヤーオイル 80#　5 条、7 条-11 ℓ　6 条-12 ℓ	55
走行部 標準型	油圧サクションフィルタ			○		オイル交換時清掃	126

点検・給油・調整項目一覧			点検時間				備考	参照ページ
			作業前後	50時間ごと	100時間ごと	不調時		
走行部	H HG型	チェンジミッションオイル			×		ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 5条-10 ℓ 6条-11 ℓ 8条-12 ℓ (Y型は11 ℓ)	55
		油圧無段変速機オイル（オイルタンク）		×		○	ヰセキU·T·Hオイル	55
			初回のみ30時間で交換					
		油圧オイルフィルタ			×	○		125
			初回のみ30時間で交換					
		リヤミッションオイル	分解給油時				ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 8条-各2.5 ℓ 6、5条-各1.3 ℓ	127
		植付クラッチケースオイル	分解給油時				ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 0.4 ℓ	128
		主クラッチペダルの点検	○				毎シーズン始め	129
		ブレーキペダルの点検	○				毎シーズン始め	129
		注油指定箇所	△				注油	57 58 59
		バッテリーの点検	○				毎シーズン始め	130
植付部		植付部フレーム	分解時給油				ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 1.3 ℓ	50
		サイドフレーム	分解時給油				ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 各0.4 ℓ	50
		ロータリーケース	分解時給油				ユニルーブ00#適量	50
		植込杆		○			ウエコミカングリス適量 （ワンルーバーMP1#）	50
		フィンガ（13/G）（14/G）（植付爪）交換調整	○			×	摩耗、変形時 毎シーズン始め点検	134
		注油指定箇所	△				注油	57 58 59
その他		電気配線の接続部（カプラ）のゆるみ、損傷、ヒューズ等の点検				○	毎シーズン終了後	—
		各ワイヤの点検調整				○	毎シーズン始め	—

7.1.2 エンジンオイルの交換

⚠危険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

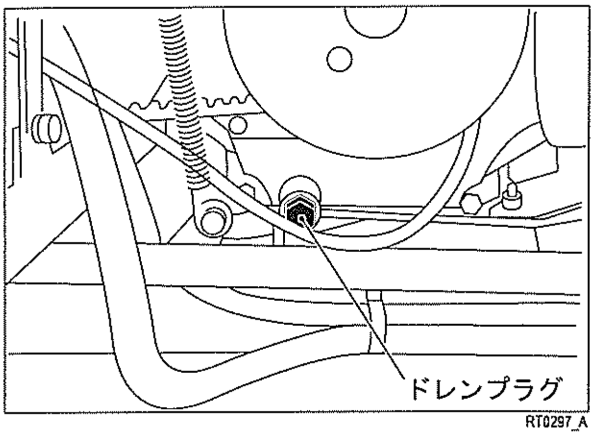
補足

- オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  お買い上げ先にご相談ください。

■PG53、63（HG型を除く）、73

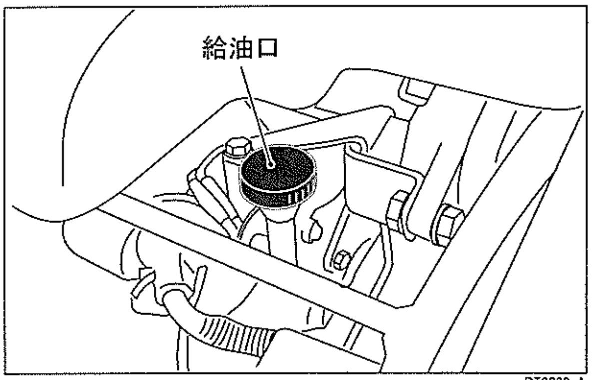
1 エンジンを暖機運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。

2 ドレンプラグを締め付けてください。



RT0297_A

3 給油口からエンジンオイルを給油してください。（☞52ページ）

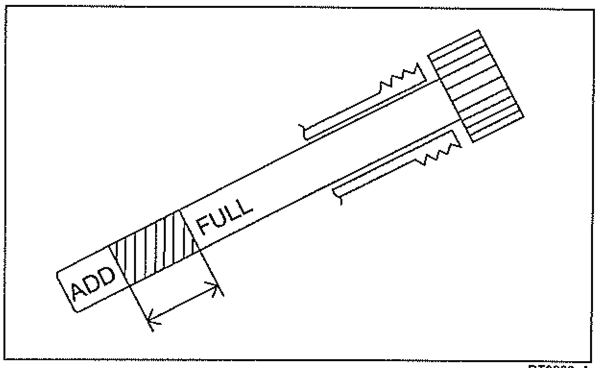


RT0298_A

4

オイルレベルゲージ（給油栓）の上下刻線の間に油量があるか調べます。
適量入っていればオイルレベルゲージ（給油栓）を確実に閉めてください。

機種	搭載エンジン	オイル量
PG53 PG63 （HG 型除く） PG73	FE400D	1.1 ℓ （オイルフィルタ交換時 1.3 ℓ）



RT0299_A

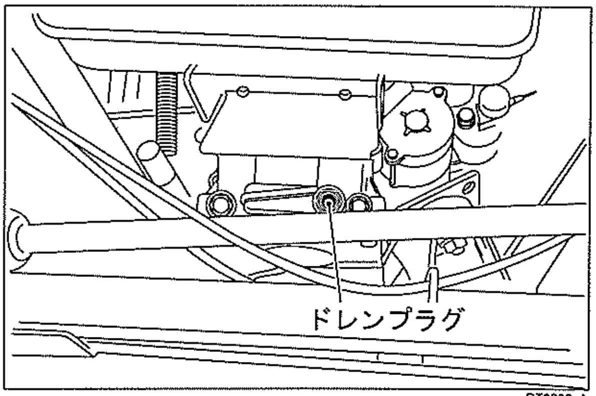
補足

- オイルレベルゲージ（給油栓）をねじこまずに点検してください。

■PG63HG 型、PG83

1 エンジンを暖気運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。

2 ドレンプラグを締め付けてください。

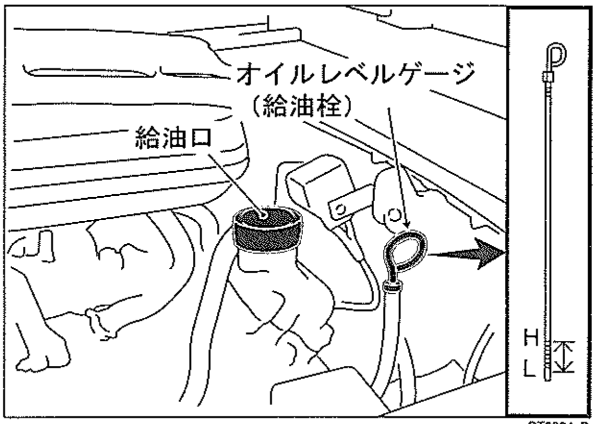


RT0300_A

3 給油口からエンジンオイルを給油してください。
（☞52 ページ）

4 オイルレベルゲージ（給油栓）の上下刻線の間に油量があるか確認してください。

機種	搭載エンジン	オイル量
PG63HG 型	FD501D	1.2 ℓ （オイルフィルタ交換時 1.5 ℓ）
PG83	FD620D	



RT0204_B

5 オイルレベルゲージ（給油栓）を閉めてください。

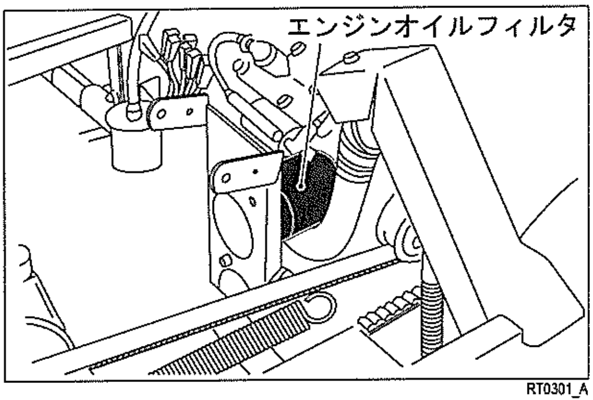
7.1.3 エンジンオイルフィルタの交換

1 オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。

2 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬってください。

3 元どおりに締め付けてください。

交換用フィルタ	
部品コード	品名
5490-652-071-××	オイルフィルタ



RT0301_A

補足

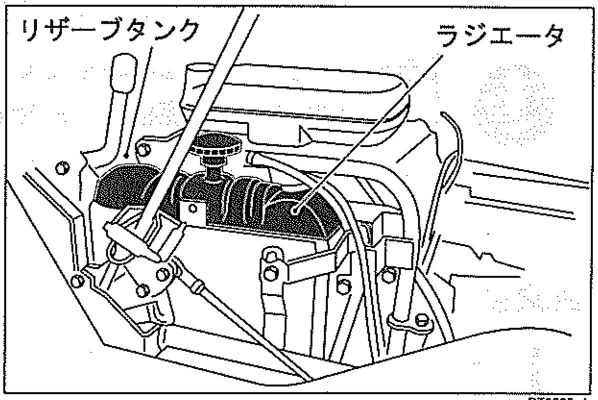
- 交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけオイルが減ります。規定量までオイルを追加してください。

7.1.4 冷却水の点検

■PG63HG型、PG83

1 エンジンカバーを開けてください。
（☞54ページ）

2 エンジン後部にあるリザーブタンクのキャップを外してください。

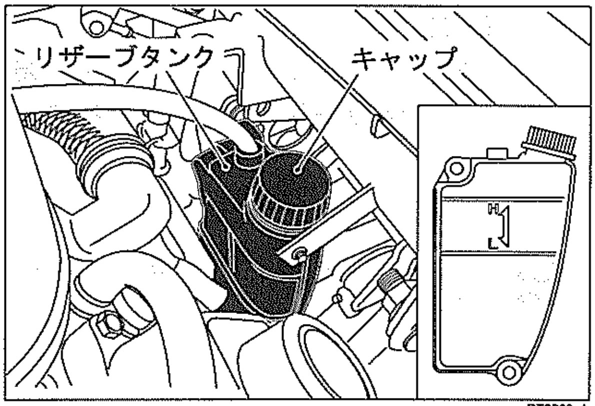


RT0205_A

3 リザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（H↔L）にあるかどうか点検し、少ない場合はHラインまで補給してください。

補足

● 冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。

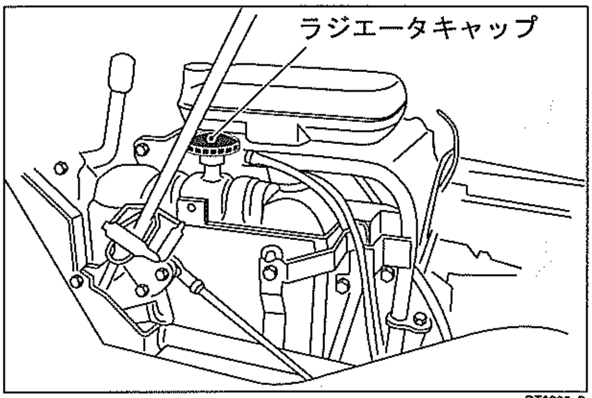


RT0206_A

4 点検後リザーブタンクのキャップを確実に閉め、エンジンカバーを閉じてください。

■PG63HG型、PG83

1 ラジエータキャップを外してください。



RT0205_B

2 「口元」まで入っているかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

補足

● 冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。

不凍液
モービル石油：モービルロングライフクーラント
シェル石油　：アンチフリーズ
他有名メーカ品を使用

3 ラジエータキャップを閉めてください。

7.1.5 ラジエータホース（PG63HG型、PG83）

⚠注意

ラジエータホースは使わなくても劣化します。シーズン前には、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検し、2年ごとに交換してください。

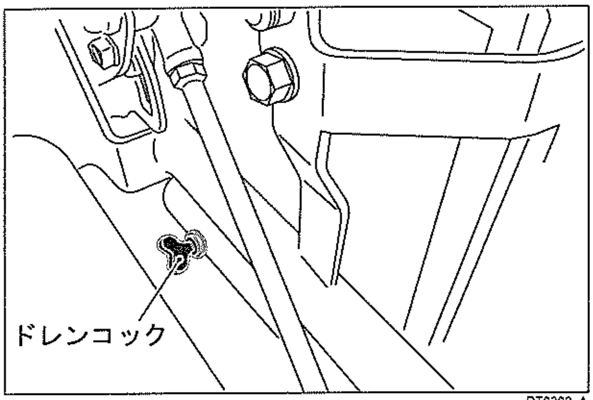
※ ラジエータホースが運転中に破損すると、熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

■交換

1 エンジン右側のドレンコックを開けて冷却水を抜きます。

補足

- ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。



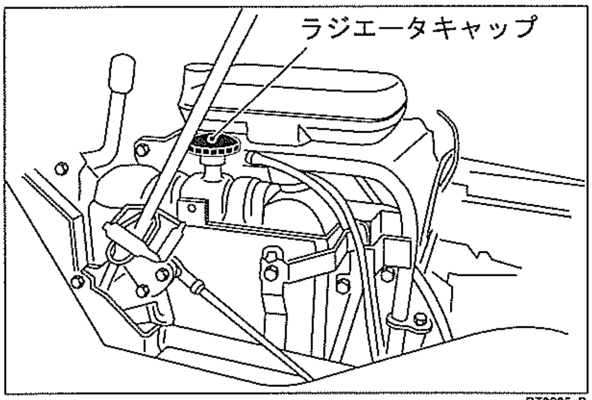
RT0302_A

2 水道水でラジエータ内部をよく洗浄してください。

3 冷却水は不凍液濃度50%のものを約2.2 ℓ用意してください。

4 ドレンコックを閉じてください。

5 冷却水を注入し、ラジエータキャップを確実に締めてください。



RT0205_B

6 エンジンを始動してください。

7 約5分間ほどアイドリング回転で運転し、再度冷却水の量を確認し不足していれば補給してください。

■不凍液の使い方

注意

冬期、気温が 0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。
※ 冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。

(1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
(2) 不凍液の混合は、不凍液メーカや気温により異なります。不凍液メーカの説明書に従ってください。
(3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
(4) 不凍液の補給
  (a) 蒸発の場合
  冷却水が減った分だけ、水を補給してください。
  (b) ブリーザより漏れた場合
  同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

補 足

● 不凍液は産業廃棄物にあたります。河川、土壌への廃棄は行わないでください。廃棄するときはお買い上げ先にご連絡ください。

■ラジエータコアの清掃

注意

強い圧力水をかけないでください。
※ 守らないと、フィンが変形することがあります。

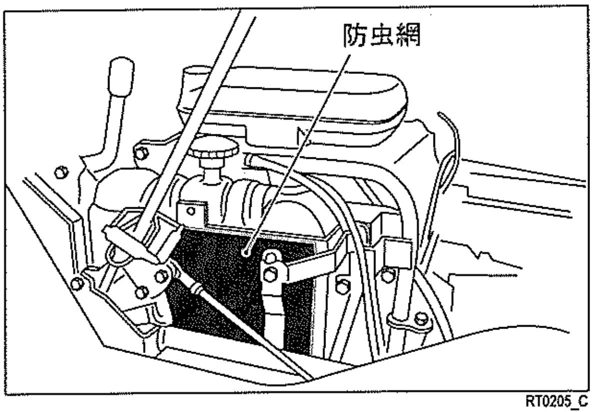
エンジンのまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。
※ 守らないと、故障の原因となります。

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水で流してください。

7.1.6 ラジエータの清掃（PG63HG 型、PG83）

■防虫網の清掃

夜間の走行をすると、ラジエータに虫が付着し詰まることがあります。
防虫網を引き出して清掃してください。



RT0205_C

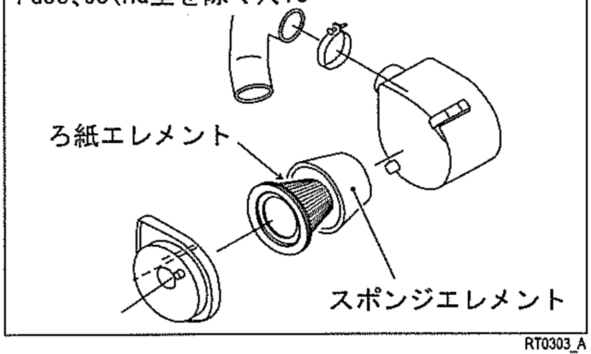
7.1.7 エアクリーナエレメントの洗浄

■スポンジエレメント

25 時間ごとに清掃してください。

1. 石けん液で洗浄した後、水洗いし、よく乾燥させてください。
2. エンジンオイルに浸して固く絞ってから取り付けてください。

PG53、63（HG型を除く）、73



RT0303_A

■ろ紙エレメント

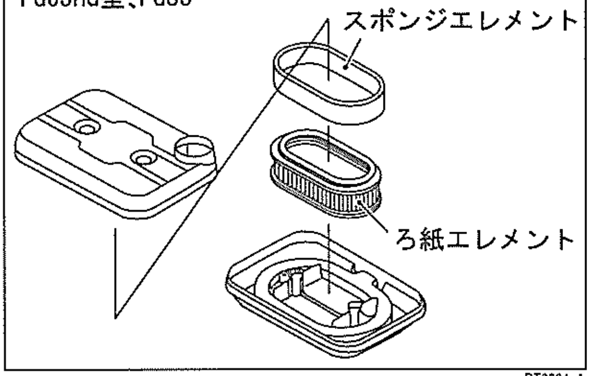
100 時間ごとに清掃してください。

1. 軽く叩いてホコリを落としてください。
2. 汚れのひどい場合は新品に交換するか、石けん液で洗浄した後、水洗いしてください。
3. よく乾燥させてから取り付けてください。

補足

- ホコリの多い場所では運転前に点検し、早めに清掃してください。

PG63HG型、PG83

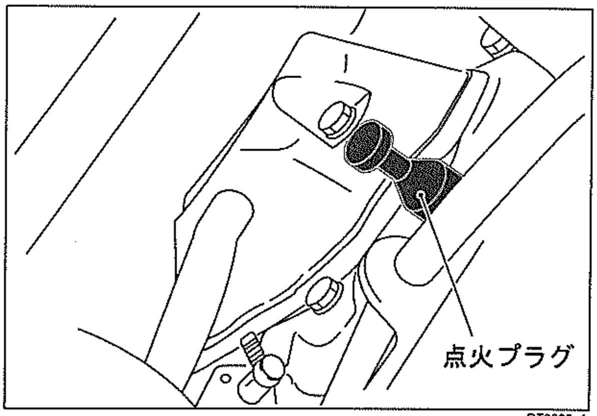


RT0304_A

7.1.8　点火プラグの清掃

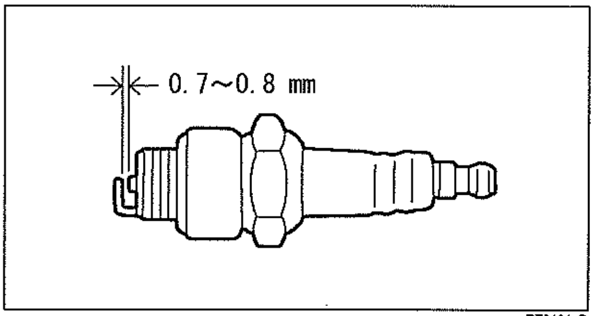
■PG53、63（HG型を除く）、73

1 付属のボックスレンチで点火プラグを取り外してください。



RT0305_A

2 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7～0.8 mmに調整してください。



RT0104_B

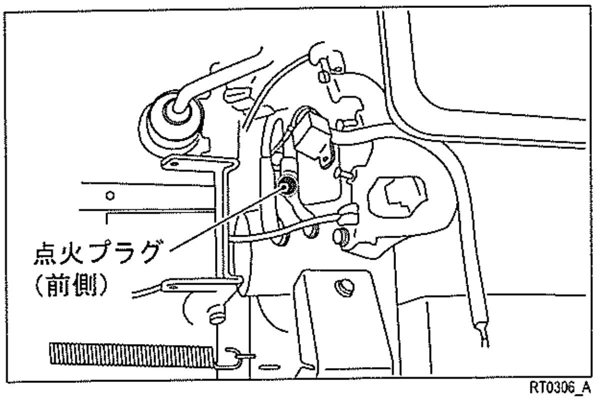
補足

● 使用点火プラグはNGK BPR5ESです。

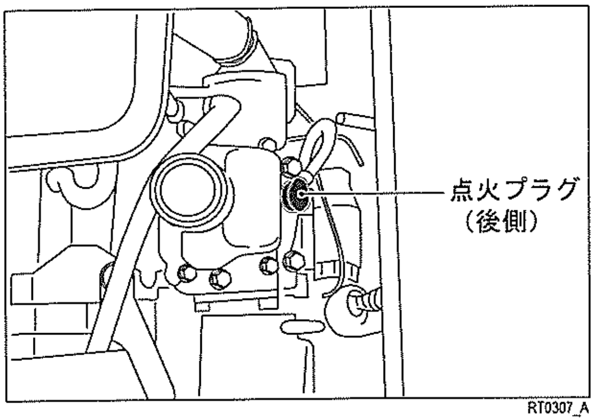
3 点火プラグを元のとおりに取り付けてください。

■PG63HG型、PG83

1 付属のボックスレンチで点火プラグ（前後２箇所）を取り外してください。

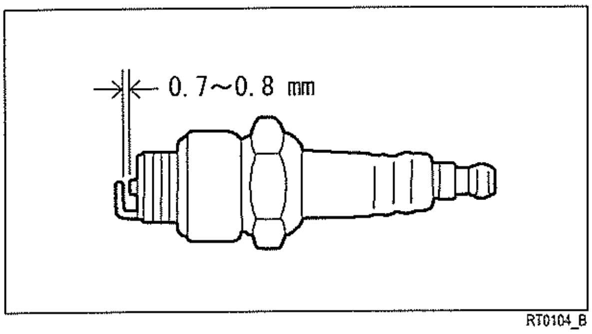


RT0306_A



RT0307_A

2 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7～0.8 mmに調整してください。



RT0104_B

補足

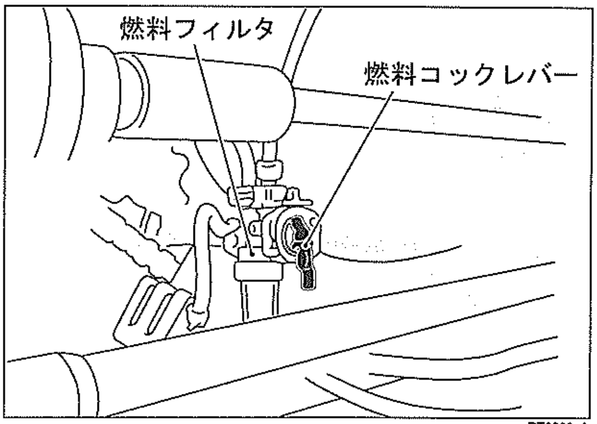
- 使用点火プラグはNGK BPR4ES（2個）です。

3 点火プラグを元のとおりに取り付けてください。

7.1.9 燃料フィルタの清掃

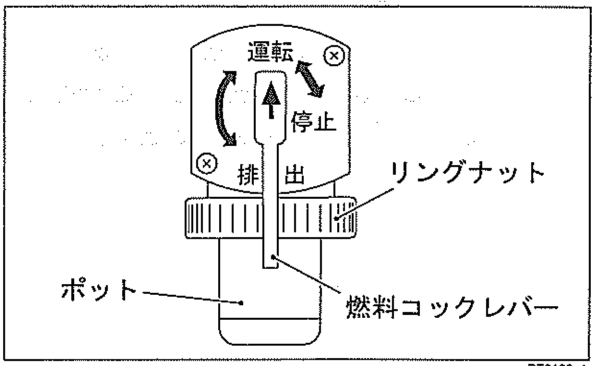
■PG53、63（HG 型を除く）、73

1 燃料コックレバーを「停止」位置にしてください。



RT0308_A

2 リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油・ガソリン等で洗浄し、元どおり組み付けてください。



RT0106_A

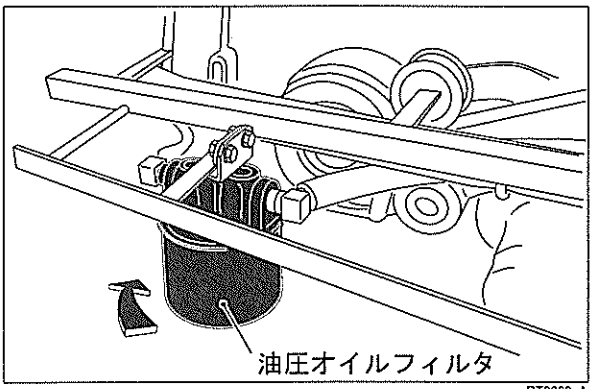
7.1.10 油圧オイルフィルタの交換（H、HG 型）

1 オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。

2 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬってください。

3 元のように締め付けてください。

交換用フィルタ	
部品コード	品名
3669-354-250-00	カートリッジ ASSY



RT0309_A

補 足

● 交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量まで油圧オイルを追加してください。（オイルの種類・検油のしかた等 ☞55 ページ）

7.1.11 油圧サクションフィルタの清掃（D 型）

⚠危険

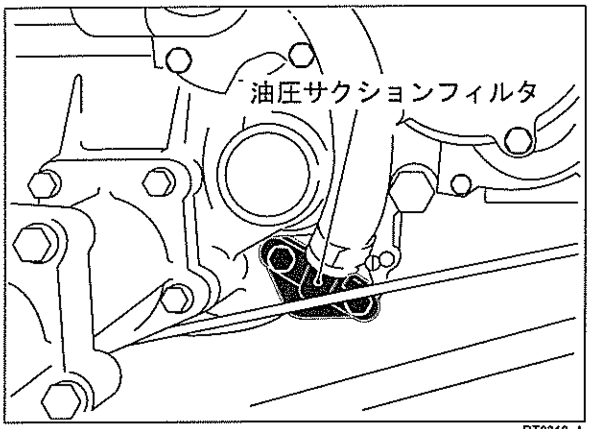
オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

補 足

- オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。お買い上げ先にご相談ください。

オイル交換時に、2 本のボルトを外して引き抜き、点検・清掃してください。



RT0310_A

7.1.12 リヤミッションオイルの給油

⚠危険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

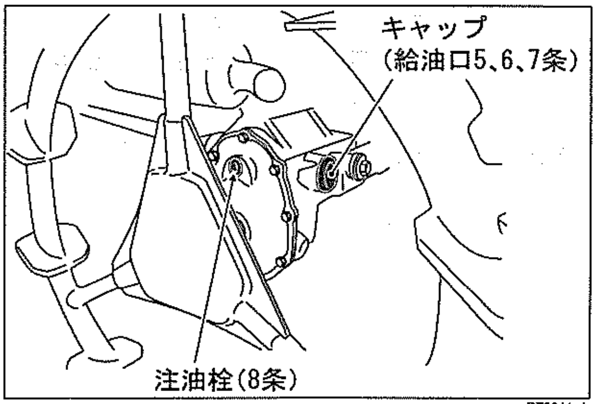
補足

- オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。お買い上げ先にご相談ください。

リヤミッション分解時に、キャップを外してオイル（ヰセキハイポイドギヤーオイル 80#）を給油してください。

5、6、7条	左右各 1.3 ℓ
8条	左右各 2.5 ℓ

給油後はキャップを閉めてください。



RT0311_A

7.1.13 植付クラッチケースの給油

⚠危険

オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

作業中は火気厳禁です。

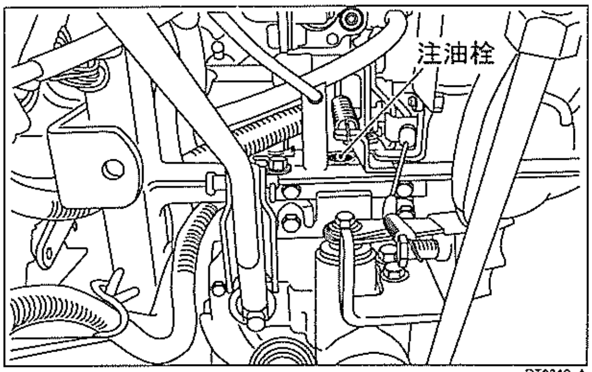
※ 守らないと、火災の原因となります。

補足

- オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。お買い上げ先にご相談ください。

植付クラッチ分解時に、黄色の注油栓を外してオイル（井セキハイポイドギヤーオイル 80#　0.4 ℓ）を給油してください。

給油後は注油栓を元どおりにしてください。



RT0312_A

7.1.14 ブレーキペダルの点検

⚠警告

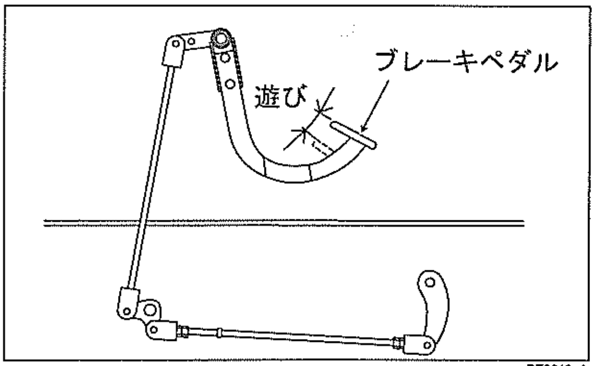
調整時左右のペダルの踏み込み量を合せてください。

※ 踏み込み量が合っていないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ブレーキペダルを軽く手で押し、左右のペダルの遊びが同じか確認してください。
遊びは 10～25 mm です。

補足

● 左右のブレーキペダルはステアリング（ハンドル）の操作と連動しています。
上記の遊び範囲を越え調整が必要な場合は、必ずお買い上げ先で調整を行ってください。



RT0313_A

7.1.15 主クラッチペダルの点検と調整

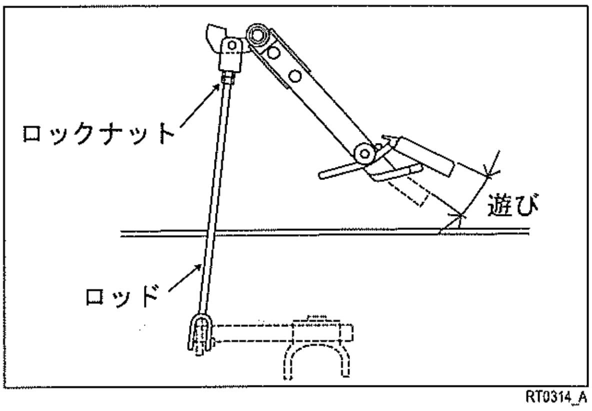
⚠警告

点検・調整は必ず行ってください。

※ 調整が合っていないと、クラッチが切れず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■点検

主クラッチペダルを軽く手で押し、ペダルの遊びが 15～25 mm になっているか確認してください。



RT0314_A

■調整

1. ロッドのロックナットをゆるめてください。
2. ロッドを回して調整してください。
3. 調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

7.1.16 バッテリーの点検と取り扱い

⚠危険

ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。

バッテリーの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。

※ 失明や、やけどをするおそれがあります。
もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

⚠警告

バッテリーコード（端子）を取り外すときは、⊖のコードを先に外します。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けます。

※ 守らないと、ショートして火花が飛ぶおそれがあります。

ブースタケーブルは、バッテリーの補水キャップを取り外してから接続してください。

※ 補水キャップが取り外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損するおそれがあります。

バッテリー液の点検は作業前に必ず実施してください。表示されている 2 本の線（レベル）の間に液面があるよう少ないときは、蒸留水を補給してください。

バッテリー液は使っているうちに蒸発して減少します。

※ バッテリーの液が下限以下になったまま使用または充電すると、バッテリーの破裂（爆発）の原因となります。

■バッテリー液の点検

補 足

- バッテリー液が不足すると、バッテリーを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体を腐蝕させせます。

■バッテリーの取り扱い

注意

バッテリーは必ず車体から取り外して充電してください。
※ 電装品の損傷の他に配線等を痛めることがあります。

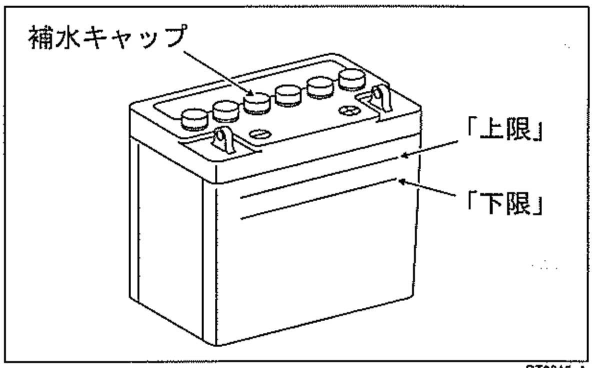
バッテリーの急速充電はできるだけ避けてください。
※ バッテリーの寿命を短くします。

充電はバッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。
※ 守らないと、故障の原因となります。

バッテリーを外し、再度取り付けるときにはバッテリーの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように取り付けてください。
※ 守らないと、故障の原因となります。

補 足

- バッテリーは産業廃棄物にあたります。河川、土壌への廃棄は行わないでください。廃棄するときは、お買い上げ先にご連絡ください。



RT0315_A

(1) 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬期は特にバッテリーの管理に注意してください。

(2) バッテリーは使用しなくても自己放電します。補充電を行ってください。
　夏期・・・・2ケ月ごと
　冬期・・・・3ケ月以内

(3) 田植機を長期格納する場合は、バッテリーを取り外し、日光の当たらない乾燥した場所で保管してください。
どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。

(4) 新品のバッテリーと交換する場合は必ず指定した型式（32A19L）のバッテリーを使用してください。

7.1.17 ヒューズの交換

⚠注意

部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

■全型式

1 ボンネットを外し、ヒューズケースを開いてください。
中にヒューズが入っています。

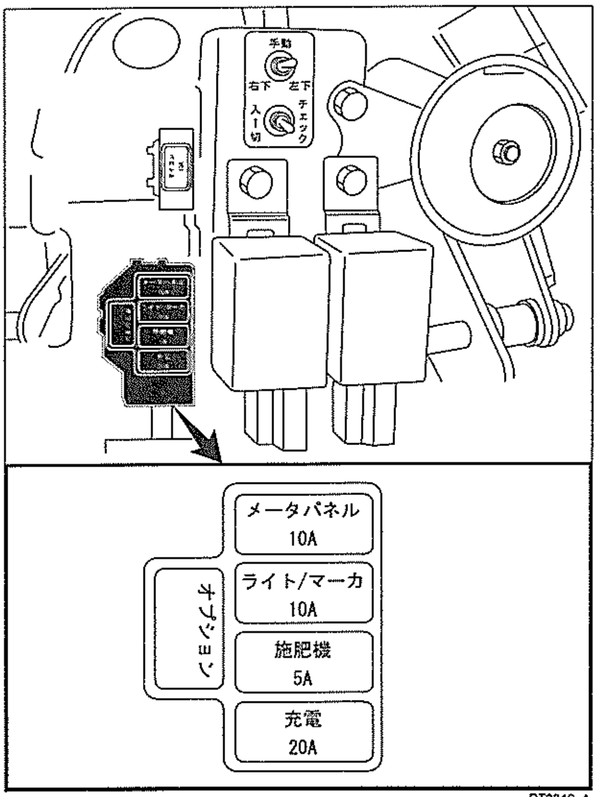
2 切れたヒューズを外します。
（5A、10A、20A）

3 同容量のヒューズと交換してください。

補足

- ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買い上げ先へご相談ください。

4 ヒューズケースを閉じ、ボンネットを閉じてください。



RT0316_A

■Q、R型

1 ボンネットを外し、ヒューズケースを開いてください。
中にヒューズが入っています。

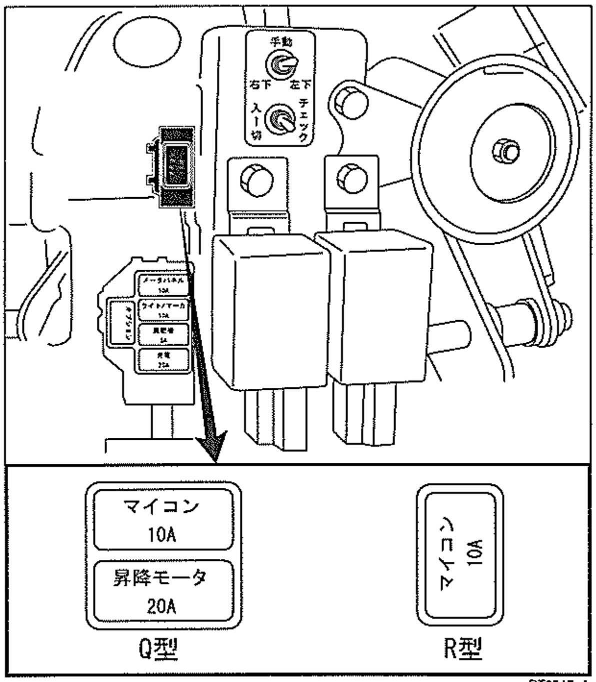
2 切れたヒューズを外します。
（10A、20A）

3 同容量のヒューズと交換してください。

補足

- ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買い上げ先へご相談ください。

4 ヒューズケースを閉じ、ボンネットを閉じてください。



RT0317_A

7.1.18 スローブローヒューズの交換

⚠注意

部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

補足

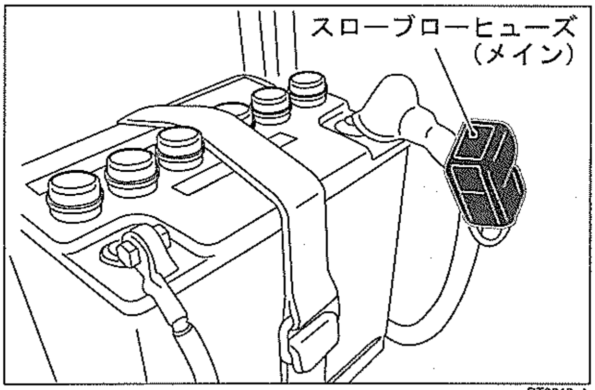
● スローブローヒューズが焼損した場合は、お買い上げ先へご相談ください。

■全型式

1 ボンネットを外してください。

2 バッテリー⊕端子部にスローブローヒューズがあります。焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

部品コード	品名	容量
1650-650-222-00	ヒューズ（スローブロー）	40A



RT0318_A

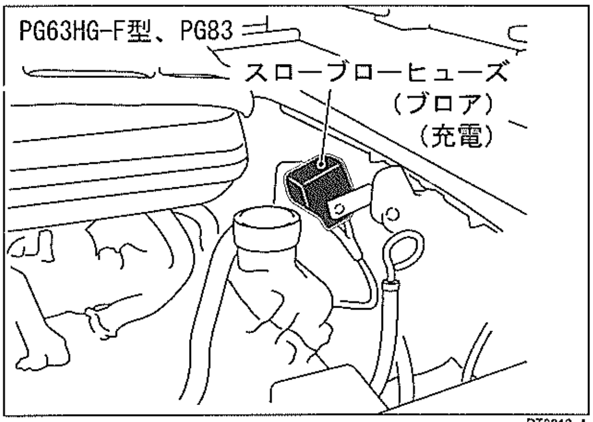
3 ボンネットを閉じてください。

■F型（2個）

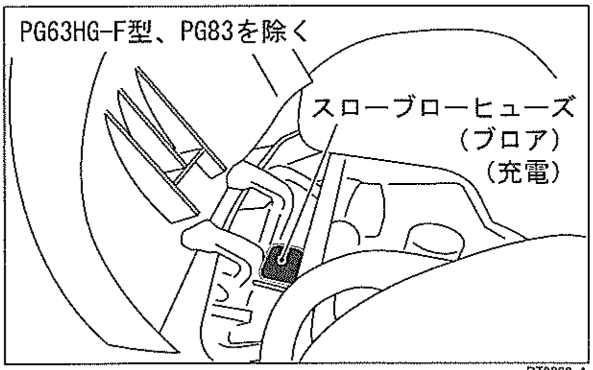
1 エンジンカバーを開けてください。

2 エンジン後部（PG63HG-F型、PG83）、またはエンジン左前部（PG63HG-F型、PG83を除く）にスローブローヒューズがあります。
焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

部品コード	品名	容量
1650-650-222-00	ヒューズ（スローブロー）	40A



RT0319_A



RT0320_A

3 エンジンカバーを閉めてください。

7.1.19 ランプの交換

ランプを外し、同型のランプと交換してください。

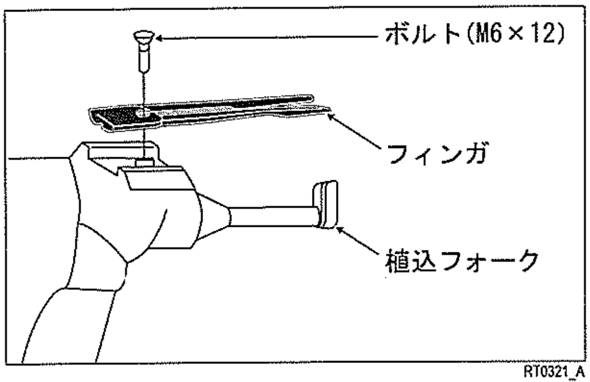
補足

- ランプが切れた場合は、お買い上げ先でご注文ください。

部品コード	品　名	使用場所
2161-532-202-00	バルブ（12V　18W）	ヘッドランプ
2132-524-204-10	バルブ（ランプ/12V　8W）	センターマスコットランプ
1560-658-280-40	バルブ（ランプ）SET	モニターランプ

7.1.20 フィンガ（13/G）（14/G）の点検交換

フィンガが摩耗または変形すると植付姿勢が悪くなります。
フィンガを交換してください。



RT0321_A

8. 格納時の手入れ

8.1 日常の格納

⚠危険

燃料抜取時は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠警告

点検・整備は、必ずエンジンを停止して行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料がこぼれた場合はきれいにふき取ってください。
※ 守らないと、火災の原因となります。

1 その日の内に水洗いし、回転部等に巻き付いたゴミ等をきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

3 回転部、摺胴部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。
（☞56、57 ページ）

8.2 長期格納

⚠危険

燃料を放置しないでください。
※ 放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火等火災の原因となるおそれがあります。

⚠警告

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、加熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

⚠警告

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、加熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。

※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1 水洗いし、回転部等に巻き付いたゴミ等をきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

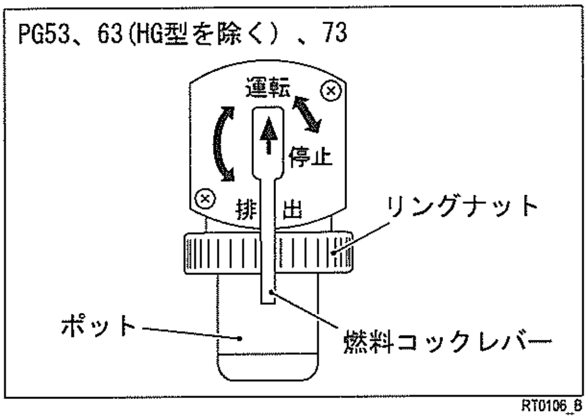
3 回転部、摺胴部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。
(☞56、57 ページ)

4 燃料を抜き取ってください。

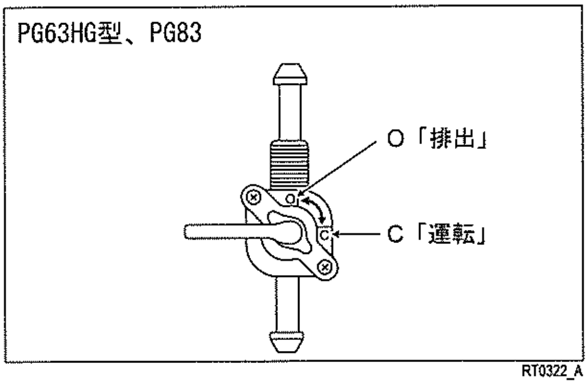
(a) 燃料タンク、気化器

- PG53、63（HG 型を除く)、73
  燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」位置にしてください。
- PG63HG 型、PG83
  ワンタッチドレンコックを「O」位置にして、気化器の燃料を抜き取り、抜き取り後「C」位置に戻してください。
  燃料タンク下側のホースを外し、燃料を抜き取り、抜き取り後元に戻してください。

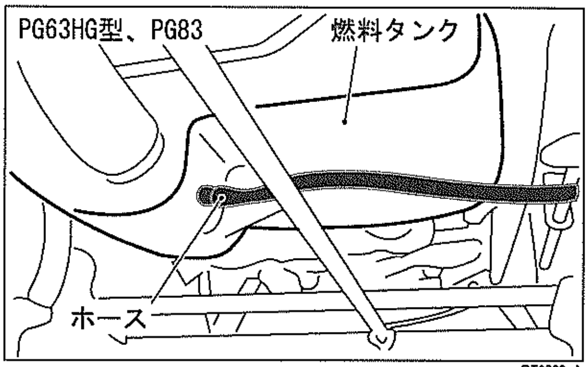
(b) ポット
リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油、ガソリン等で洗浄し、元どおり組み付けてください。



RT0106_B



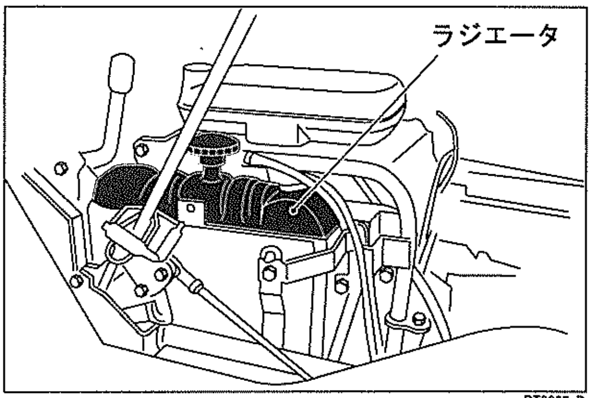
RT0322_A



RT0323_A

5 ラジエータの冷却水を抜いてください。（PG63HG 型、PG83）排水後「水なし」と書いた札をステアリング（ハンドル）にかかげてください。

6 植付部は降してください。



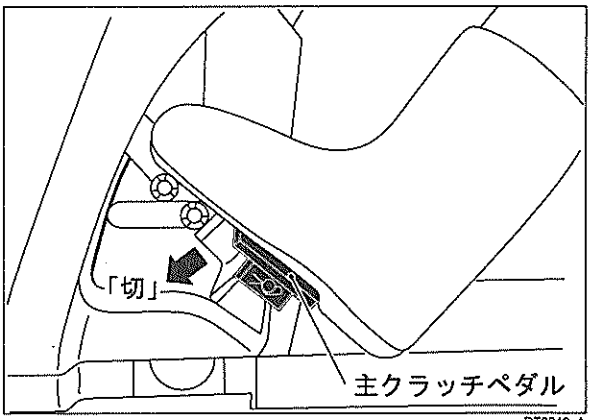
RT0205_D

7 主クラッチペダルは踏み込みロックしてください。

8 バッテリーは取り外し、補充電を行い日光の当らない乾燥した場所に保管してください。どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。

補 足

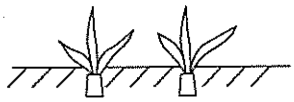
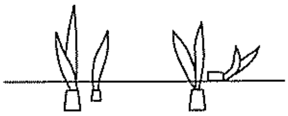
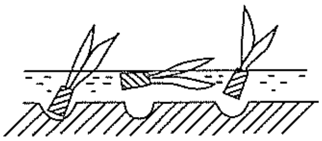
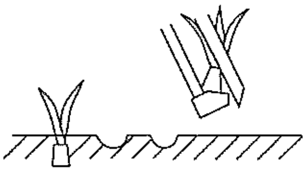
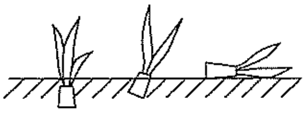
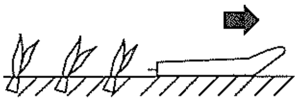
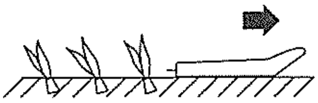
- 夏期には２ケ月、冬期には３ケ月以内に補充電をするとバッテリーが長く使用できます。

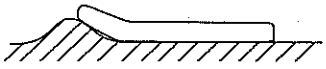
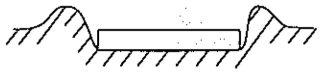
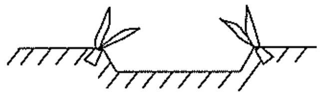
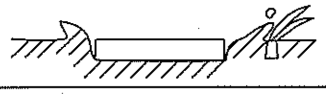
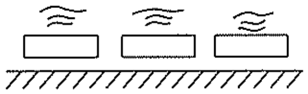
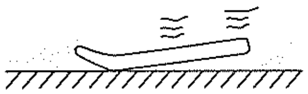
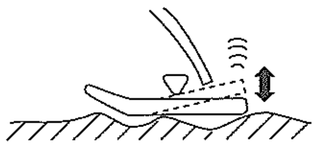


RT0243_A

9 格納場所は直射日光の当らない風通しの良い場所を選定し、シートを掛けてください。

9. 不調時の処置

不調の内容	原　因	処置方法
苗がバラけて植わる。 	● 苗の根張りが悪い。 ● 苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	● 苗に水をかける。 ● 植付速度を遅くする。
	● 苗の床土が乾いている。	● 苗に水をかける。
	● 植付速度が速すぎる。	● 植付速度を遅くする。
苗が一本、二本だけ離れ植付が乱れる。 	● 苗の根張りが悪い。 ● 苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。	● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞97 ページ） ● 苗に水をかける。
	● 抵抗棒のセット位置が悪い。	● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞97 ページ）
	● 苗の床土が乾いている。	● 苗に水をかける。
爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。 	● ほ場が硬い。 ● 砂質系のほ場。	● 水を 1～2 cm 入れ、ほ場の表土を軟らかくして植える。 ● 代かき直後に植える。
苗が植付爪より離れず欠株または苗がころぶ。  	● 苗床が粘土質で粘りが強い。 ● 粘土質のほ場で水が少ない。 ● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗のかけすぎ） ● 植込フォークの押し出しが遅い。	● 苗床に十分水が含むよう、水をかける。 ● ほ場に 1～2 cm 程水を入れる。 ● 抵抗棒セット位置を変える。（☞97 ページ）
前進方向に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗のかけすぎ）	● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞97 ページ）
前進方向と反対側に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗が弱い）	● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞97 ページ）

不調の内容	原　因	処置方法
フロートで泥を押す。 	● 油圧感度調節が田んぼの硬さに合っていない。 ● 田んぼの表土が軟らかい。	● 油圧感度調節レバーを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。
フロートが沈み跡が深く付く、または前が内側に倒れ込む。  	● 植付速度が速すぎる。 ● 田んぼの表土がトロトロで軟らかい。	● 植付速度を遅くする。 ● 水を落し表土を硬くする。または硬くなるまで植付を延期する。
サイドフロートで泥を押し隣接苗を倒す。 	● 苗を多くのせすぎている。	● 苗のせ台に苗を多く（2 枚）のせない。
フロートが浮き上がる。  	● 油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。 ● 下降ロックレバーが「固定」位置になっている。	● 油圧感度調節レバーを「硬」方向にフロートが浮き上がらなくなるように調節する。 ● 下降ロックレバーを植付できる適正な位置に調節する。
植付部全体がバタバタする。 	● 油圧感度調節が「軟」側によりすぎている。 ● エンジン回転数が高すぎる。 ● 田んぼの耕盤が凸凹している。 ● 土のかたまりの上にセンターフロートが乗っている。	● 油圧感度調節レバーを「硬」方向にバタつきがなくなるように調節する。 ● エンジン回転数をさげる。 ● 植付速度を遅くする。 ● そのまま前進する。 ● 植付レバーを油圧「中立」位置にする。
サイドフロートの片方だけが浮き上がる。 	● 植付部の左右のバランスがとれていない。	● バランススプリングの張りを替え左右のバランスを取る。（お買い上げ先にご相談ください。） ● 傾き調節ダイヤルで左右バランスを調節する。（Q、R 型）

9.1 油圧ローリングの応急処置（Q、R型）

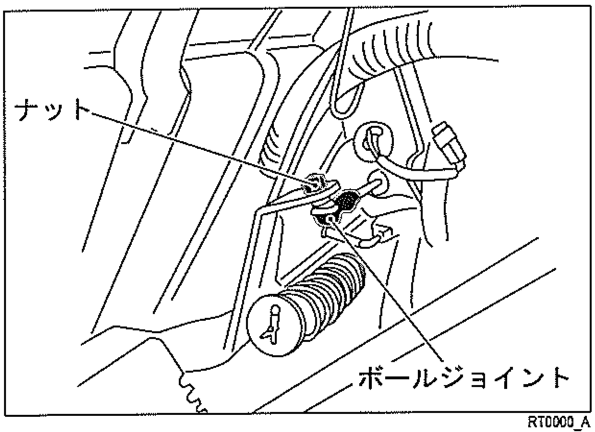
ローリングが正常に作動しなくなった場合は、下記の要領で応急処置をしてください。

1 ローリングシリンダー部に連結されているボールジョイントのナットをゆるめてください。

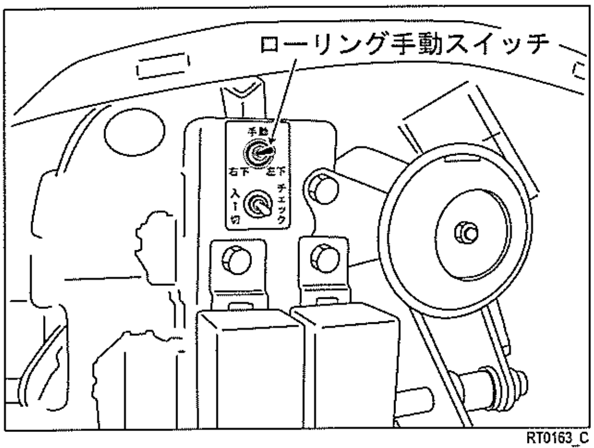
2 油圧シリンダとの連結を外すことにより応急的に作業ができます。

補足

● センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられます。お買い上げ先にご連絡ください。



RT0000_A



RT0163_C

9.2 植付ポジションレバーの応急処置（Q型）

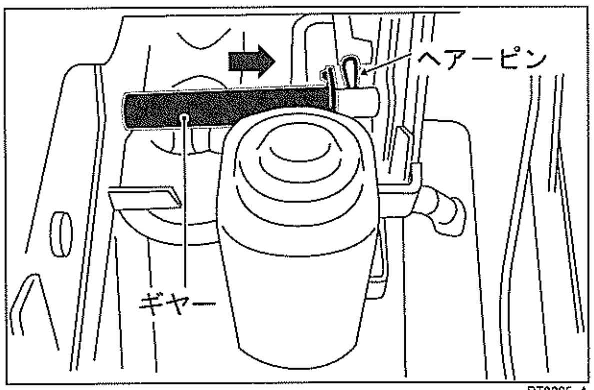
植付ポジションレバーが正常に作動しなくなった場合は、下記の要領で手動に切り替えて、応急的に作業ができます。

⚠注意

応急処置の作業をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

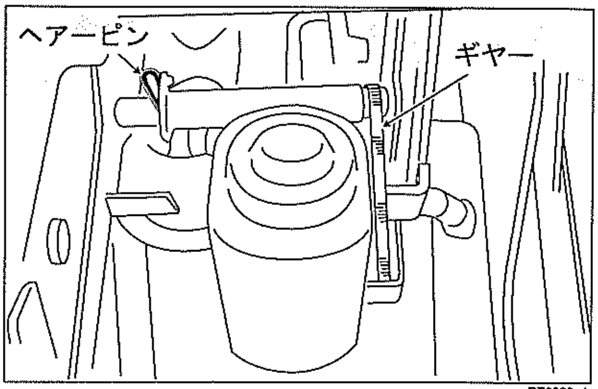
1 ステップ等の外装を取り外します。

2 ヘアーピンを抜き、ギヤーを図の矢印の方向に止まるまで移動します。



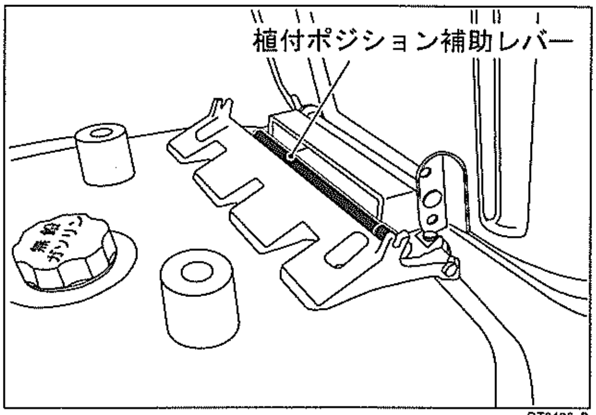
RT0325_A

3 2で抜いたヘアーピンを図の位置に挿入します。



RT0326_A

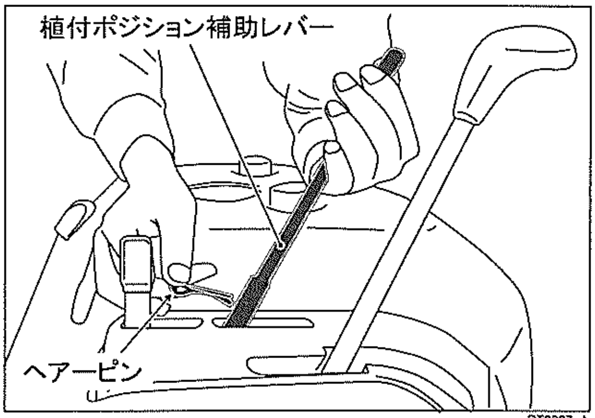
4 植付ポジション補助レバーをシート下から取り外します。



RT0195_B

5 植付ポジションレバーの先端のキャップを抜きます。

6 植付ポジション補助レバーを差し込んで4で抜いたヘアーピンでレバーを固定します。
植付ポジションレバーを手で操作して、応急的に作業ができます。



RT0327_A

補足

- センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられます。お買い上げ先にご連絡ください。

9.3 ブザーが鳴り続くとき（水冷エンジンの場合）

オーバーヒートの可能性があります。
機械をアイドリング運転後停止し、十分冷やしてから冷却水の有無、水漏れ、防虫網の点検、清掃を行ってください。（☞119〜122 ページ）

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表

区分		メーカ名	商品名
エンジンオイル		井関農機	ヰセキ純正オイル 10W30# 20 リットル缶：7019-009-300-00 4 リットル缶：7019-009-400-00
ギヤーオイル	チェンジミッションオイル	井関農機	ヰセキハイポイドギヤーオイル 80# 20 リットル缶：7019-001-300-00 4 リットル缶：7019-001-400-00
	リヤミッションオイル		
	植付クラッチケースオイル		
	植付部フレーム		
	サイドフレーム	他有名メーカのグレード GL-4 以上使用	
HST オイル	油圧無段変速機オイル	井関農機	ヰセキ U･T･H オイル 20 リットル缶：7019-019-300-00 4 リットル缶：7019-019-400-00
グリース	一般グリース		エトライト No.2
	ロータリーケース		ユニルーブ 00#
	植込杆		ウエコミカングリス（ワンルーバーMP1#）
燃料		有名メーカ品	自動車用無鉛ガソリン
不凍液		モービル石油 シェル石油 他有名メーカ品を使用	モービルロングライフクーラント アンチフリーズ

10.2 主要諸元

販売型式名			PG83HG			
型式名			P0358			
区分			Q	QB	QA	QAN
駆動方式			4輪駆動			
機体寸法	全長(mm)		3090			
	全幅(mm)		2200		2350	
	全高(mm)		1700		2090	2500
	最低地上高(mm)		420			
重量(kg)			695		715	765
エンジン	型式名		FD620D			
	種類		水冷4サイクルV型2気筒OHVガソリンエンジン			
	総排気量(ℓ)		0.617			
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)		11.4{15.5}/3600(最大4.7{20.0}/3800)			
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン			
	タンク容量(ℓ)		22			
	始動方式		セルモーター			
走行部	かじ取り方式		センターヨーク式			
	車輪 種類個数	前輪	広幅ノーパンクタイヤ×2			
		後輪	太リムラグ車輪×2			
	車輪 外径(mm)	前輪	650			
		後輪	900			
	変速段数(段)		前進2、後進2			
植付部	植付部の位置		後部			
	植付部の昇降方式		油圧式			
	植付部の装着方式		4点リンク			
	植付方式		ロータリー			
	植付条数(条)		8			
	植付条間(cm)		30		33	
	植付株数(株/3.3 m²)		37·42·50·55·60·65·70·80		45·50·60·65·75·80·85·90	
	植付深さ(cm)		1.2~4.8(7段)			0~4.8(9段)
	一株本数調節方法		横送り10.0~15.6 mm/株、縦かき取り8~18 mm/株(AN:横送り10.0~17.5 mm/株、縦かき取り8~21 mm/株)			
植付速度(m/秒)			1.5(37、42株車速牽制時:1.0)			
作業能率(分/10a)			8			
苗条件	苗の種類		マット苗、井セキポット苗			
	草丈(cm)		10~25			
	葉令(葉)		マット苗2~4、井セキポット苗3.1~4			
予備苗とう載数(箱)			8		12	32
型式検査合格番号			—			
安全鑑定適合番号			28100			

販売型式名			PG73D			
型式名			P0247			
区分			V	VR	VRB	VRA
駆動方式			4輪駆動			
機体寸法	全長 (mm)		2930	2840		
機体寸法	全幅 (mm)		2020			2200
機体寸法	全高 (mm)		1800			
機体寸法	最低地上高 (mm)		420			
重量 (kg)			562	568		588
エンジン	型式名		FE400D			
エンジン	種類		水冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン			
エンジン	総排気量 (ℓ)		0.401			
エンジン	出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)		7.0 {9.5} /3450 (最大9.9 {13.5} /3800)			
エンジン	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン			
エンジン	タンク容量 (ℓ)		9			
エンジン	始動方式		セルモーター			
走行部	かじ取り方式		センターヨーク式			
走行部	車輪 種類個数	前輪	広幅ノーパンクタイヤ×2			
走行部	車輪 種類個数	後輪	太リムラグ車輪×2			
走行部	車輪 外径 (mm)	前輪	650			
走行部	車輪 外径 (mm)	後輪	900			
走行部	変速段数 (段)		前進2、後進2			
植付部	植付部の位置		後部			
植付部	植付部の昇降方式		油圧式			
植付部	植付部の装着方式		4点リンク			
植付部	植付方式		ロータリ			
植付部	植付条数 (条)		7			
植付部	植付条間 (cm)		30			33
植付部	植付株数 (株/3.3 m²)		37·42·50·55·60·65·70·80 (A：45·50·60·65·75·80·85·90)			
植付部	植付深さ (cm)		1.2〜4.8 (7段)			
植付部	一株本数調節方法		横送り 10.0〜15.6 mm/株、縦かき取り 8〜18 mm/株			
植付速度 (m/秒)			1.3			
作業能率 (分/10a)			10			9
苗条件	苗の種類		マット苗、ヰセキポット苗			
苗条件	草丈 (cm)		10〜25			
苗条件	葉令 (葉)		マット苗2〜4、ヰセキポット苗3.1〜4			
予備苗とう載数 (箱)			8			14
型式検査合格番号			200041			
安全鑑定適合番号			—			

販売型式名	PG63D				
型式名	ヰセキ P0226				
区分	V	VR	VA	VRA	VAN
駆動方式	4輪駆動				
機体寸法 全長 (mm)	2930	2840	2930	2840	2930
機体寸法 全幅 (mm)	2020		2200		
機体寸法 全高 (mm)	1560		2140		
機体寸法 最低地上高 (mm)	420				
重量 (kg)	492	495	502	505	502
エンジン 型式名	FE400D				
エンジン 種類	空冷4サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン				
エンジン 総排気量 (ℓ)	0.401				
エンジン 出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)	7.0 {9.5} /3450 (最大 9.9 {13.5} /3800)				
エンジン 使用燃料	自動車用無鉛ガソリン				
エンジン タンク容量 (ℓ)	9				
エンジン 始動方式	セルモーター				
走行部 かじ取り方式	センターヨーク式				
走行部 車輪 種類個数 前輪	広幅ノーパンクタイヤ×2				
走行部 車輪 種類個数 後輪	太リムラグ車輪×2				
走行部 車輪 外径 (mm) 前輪	650				
走行部 車輪 外径 (mm) 後輪	900				
走行部 変速段数 (段)	前進4、後進2				
植付部 植付部の位置	後部				
植付部 植付部の昇降方式	油圧式				
植付部 植付部の装着方式	4点リンク				
植付部 植付方式	ロータリー				
植付部 植付条数 (条)	6				
植付部 植付条間 (cm)	30		33		
植付部 植付株数 (株/3.3 m²)	37·42·50·55·60·65·70·80		45·50·60·65·75·80·85·90		
植付部 植付深さ (cm)	1.2~4.8 (7段)				0~4.8(9段)
植付部 一株本数調節方法	横送り 10.0~15.6 mm/株、縦かき取り 8~18 mm/株 (AN：横送り 10.0~17.5 mm/株、縦かき取り 8~21 mm/株)				
植付速度 (m/秒)	1.4				
作業能率 (分/10a)	10		9		
苗条件 苗の種類	マット苗、ヰセキポット苗				
苗条件 草丈 (cm)	10~25				
苗条件 葉令 (葉)	マット苗 2~4、ヰセキポット苗 3.1~4				
予備苗とう載数 (箱)	6		12		
型式検査合格番号	200007				
安全鑑定適合番号	―				

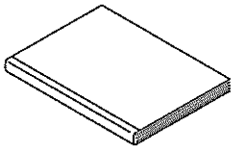
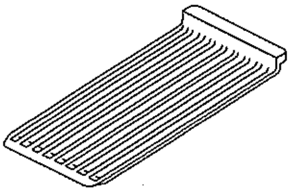
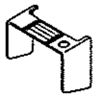
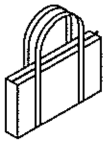
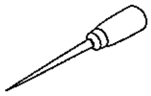
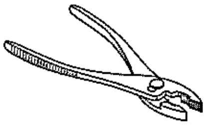
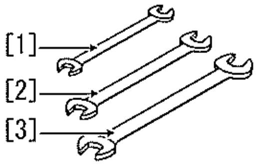
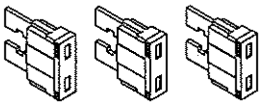
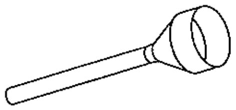
販売型式名	PG63H			PG63HG	
型式名	ヰセキP0236A			ヰセキP0236	
区分	V	VR	VRA	Q	QA
駆動方式	4輪駆動				
機体寸法 全長 (mm)	2930	2840		2990	
機体寸法 全幅 (mm)	2020		2200	2020	2200
機体寸法 全高 (mm)	1560		2140	1560	2140
機体寸法 最低地上高 (mm)	420				
重量 (kg)	547	555	565	570	580
エンジン 型式名	FE400D			FD501D	
エンジン 種類	空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン			水冷4サイクルV型2気筒OHVガソリンエンジン	
エンジン 総排気量 (ℓ)	0.401			0.437	
エンジン 出力/回転速度 (kW {PS} /rpm)	7.0 {9.5} /3450 (最大9.9 {13.5} /3800)			8.3 {11.3} /3600 (最大11.8 {16.0} /4000)	
エンジン 使用燃料	自動車用無鉛ガソリン				
エンジン タンク容量 (ℓ)	9			11	
エンジン 始動方式	セルモーター				
走行部 かじ取り方式	センターヨーク式				
走行部 車輪 種類個数 前輪	広幅ノーパンクタイヤ×2				
走行部 車輪 種類個数 後輪	太リムラグ車輪×2				
走行部 車輪 外径 (mm) 前輪	650				
走行部 車輪 外径 (mm) 後輪	900				
走行部 変速段数 (段)	前進2、後進2				
植付部 植付部の位置	後部				
植付部 植付部の昇降方式	油圧式				
植付部 植付部の装着方式	4点リンク				
植付部 植付方式	ロータリー				
植付部 植付条数 (条)	6				
植付部 植付条間 (cm)	30		33	30	33
植付部 植付株数 (株/3.3 m²)	37·42·50·55·60·65·70·80 (A : 45·50·60·65·75·80·85·90)				
植付部 植付深さ (cm)	1.2～4.8 (7段)				
植付部 一株本数調節方法	横送り 10.0～15.6 mm/株、縦かき取り 8～18 mm/株				
植付速度 (m/秒)	1.3			1.4	
作業能率 (分/10a)	11		10	10	9
苗条件 苗の種類	マット苗、ヰセキポット苗				
苗条件 草丈 (cm)	10～25				
苗条件 葉令 (葉)	マット苗2～4、ヰセキポット苗3.1～4				
予備苗とう載数 (箱)	6		12	6	12
型式検査合格番号	―			200008	
安全鑑定適合番号	27036			―	

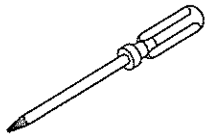
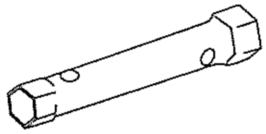
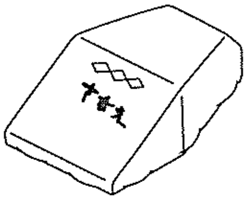
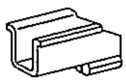
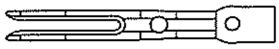
販売型式名			PG53D				PG53H		PG53HG	
型式名			ヰセキP0205				ヰセキP0215			
区分			V	VR	VA	VRA	V	VR	Q	QA
駆動方式			4輪駆動							
機体寸法	全長(mm)		2930	2840	2930	2840	2930	2840		
機体寸法	全幅(mm)		1700		1820		1700		1700	1820
機体寸法	全高(mm)		1560		2140		1560		1560	2140
機体寸法	最低地上高(mm)		420							
重量(kg)			472	480	482	490	505	513	515	525
エンジン	型式名		FE400D							
エンジン	種類		空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン							
エンジン	総排気量(ℓ)		0.401							
エンジン	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)		7.0{9.5}/3450(最大9.9{13.5}/3800)							
エンジン	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン							
エンジン	タンク容量(ℓ)		9							
エンジン	始動方式		セルモーター							
走行部	かじ取り方式		センターヨーク式							
走行部	車輪 種類個数	前輪	広幅ノーパンクタイヤ×2							
走行部	車輪 種類個数	後輪	太リムラグ車輪×2							
走行部	車輪 外径(mm)	前輪	650							
走行部	車輪 外径(mm)	後輪	900							
走行部	変速段数(段)		前進4、後進2				前進2、後進2			
植付部	植付部の位置		後部							
植付部	植付部の昇降方式		油圧式							
植付部	植付部の装着方式		4点リンク							
植付部	植付方式		ロータリー							
植付部	植付条数(条)		5							
植付部	植付条間(cm)		30		33		30		30	33
植付部	植付株数(株/3.3 m²)		37·42·50·55·60·65·70·80(A:45·50·60·65·75·80·85·90)							
植付部	植付深さ(cm)		1.2~4.8(7段)							
植付部	一株本数調節方法		横送り10.0~15.6 mm/株、縦かき取り8~18 mm/株							
植付速度(m/秒)			1.4							
作業能率(分/10a)			12		11		12		12	11
苗条件	苗の種類		マット苗、ヰセキポット苗							
苗条件	草丈(cm)		10~25							
苗条件	葉令(葉)		マット苗2~4、ヰセキポット苗3.1~4							
予備苗とう載数(箱)			6		12		6		6	12
型式検査合格番号			200005				200006			
安全鑑定適合番号			ー							

10.3 機能装備一覧表

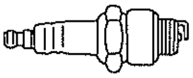
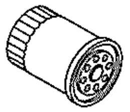
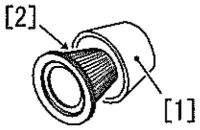
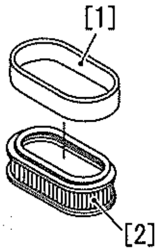
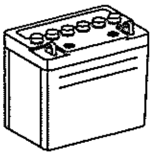
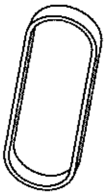
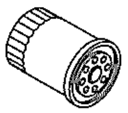
		PG53						PG63						PG73		PG83
		DVE	DV	DVR	HVE	HVR	HGQ	DVE	DV	DVR	HVE	HVR	HGQ	DV	DVR	HGQ
エンジン	20.0PS															○
	16.0PS												○			
	13.5PS	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
変速	HST				○	○	○				○	○	○			○
	ベルコン	○	○	○				○	○	○				○	○	
パワーステアリング		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
前輪ノーパンク（φ650）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪太リムラグ（φ900）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
パネルモニタ	アワメータ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	燃料計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マイコン	フィンガーアップ						○						○			○（J型）
	バックリフト(切り替え付)						○						○			○
	油圧ローリング			○		○	○			○		○	○		○	○
	音声モニター						○						○			○
	らくらくレバー						○						○			○（J型以外）
	自己診断						○						○			○
メカ	バックリフト(切り替え付)	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	
	ワンリフト		○	○		○			○	○		○		○	○	
スーパーくるっとターン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
超低速		○	○	○				○	○	○				○	○	
AS シフト（自動変速）			○	○					○	○				○	○	
フロントホイルキャップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
前輪デフロック		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪ローリング		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SQスライド		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ワンタッチ迎角調節		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ワンタッチ横送り4段		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロング苗タンク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フロート間平均レーキ								○	○	○	○	○	○	○	○	○
ショートフロート				○		○	○			○					○	○
あぜクラッチ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
両側線引能水車マーカ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
補助苗搭載量（箱）		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	8	8	8
苗取板枚数（枚）		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ホイールベース（mm）		1050	1050	1050	1050	1050	1050	1050	1050	1050	1050	1050	1200	1050	1050	1200

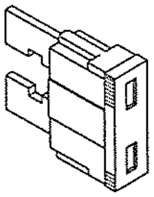
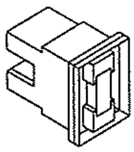
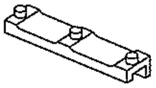
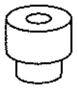
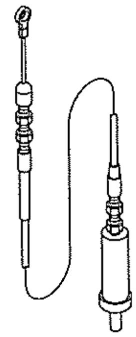
■標準付属品

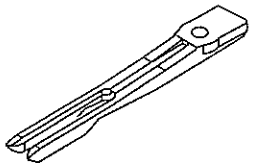
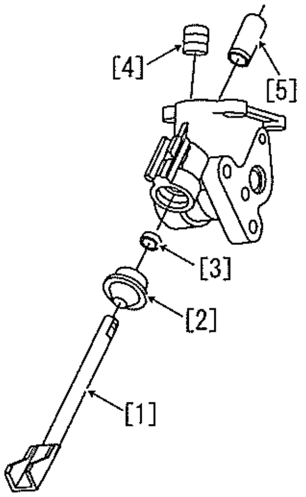
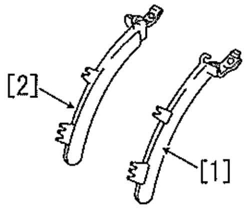
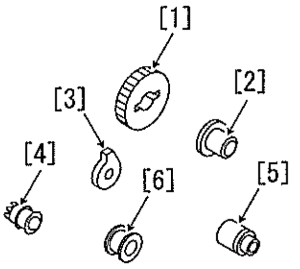
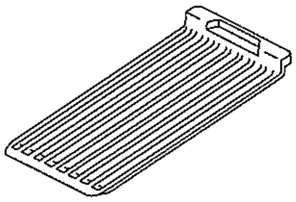
形　状	型　式	品　名	部品コード	個数
	全型式	マニュアル （オペレーション/M）	2186-971-007-10	1
	全型式	ナエトリイタ	2161-971-004-00	1
	全型式	ナエトリクチゲージ	2144-930-002-10	1
	DVE、HVE を除く 全型式	コウグブクロ	3560-702-001-10	1
	全型式	アブラサシ	3502-602-004-00	1
	DVE、HVE を除く 全型式	プライヤG150	V936-150-015-00	1
	DVE、HVE を除く 全型式	[1]リョウグチスパナ（ヤリ）(12-14) [2]リョウグチスパナ（ヤリ）(10-13) [3]リョウグチスパナ（ヤリ）(17-19)	V922-551-201-4 V922-551-001-3 V922-551-701-9	1 1 1
	全型式	ヒューズ（スペア）SET	2186-971-200-00	1
	全型式	PL ジョウゴ ASSY	2130-931-200-00	1

形　状	型　式	品　名	部品コード	個数
	DVE、HVE を除く 全型式	サシカエドライバASSY	2130-931-210-00	1
	全型式	ツール（レンチ）19×21	92110-2051	1
	DVE、HVE を除く 6条、5条	カバー（タウエキ）	2161-970-005-20	1
	8条、7条	カバー（タウエキ）	2162-970-005-00	1
	AN 型式	フォーク（ウエコミ）COMP	2186-740-033-00	1台分
	AN 型式	フィンガ（14/G）	2186-740-033-00	1台分

■主な消耗部品一覧表

形状	型式				品名	部品コード	備考
	PG83	PG73	PG63	PG53			
		○	○	○	プラグ(NGK BPR5ES)	5920-701-167-XX	
	○		○ HG型		プラグ(NGK BPR4ES)	5920-702-112-XX	
<エンジンオイル用> 	○	○	○	○	オイルフィルタ	5490-652-071-XX	200時間ごとに交換
		○	○	○	[1]エレメント(エアフィルタ) [2]フィルタ(エア)	5110-132-159-XX 5490-642-077-XX	
	○		○ HG型		[1]エレメント(エアフィルタ) [2]エレメント(エアフィルタ)	5110-132-161-XX 5110-132-162-XX	
	○	○	○	○	バッテリー(32A19L/CA)	2186-541-200-00	
 エンジンベルト	○				ベルト(VB045)	2161-105-022-00	亀裂・摩耗時交換
エンジンベルト		○	○	○	ベルト(VB052)	2186-105-001-00	
エンジンベルト			○ HG型	○ HG型	ベルト(VB44.5)	2186-105-056-00	
ベルコンベルト		○	○	○	ベルト(ベルコン)	2161-131-203-00	
HSTベルト			○ HG型	○ HG型	ベルト(VB040)	2161-131-026-00	
HSTベルト	○				ベルト(VB040)	2190-131-007-00	
ゼネレータベルト(F型用)		○	○	○	ベルト(VA023)	8838-121-002-00	
ゼネレータベルト(F型用)	○		○ HG型		ベルト(VA025/PF)	8841-101-001-10	
<HSTオイル用> 	○		○ HG型	○ HG型	カートリッジASSY	3669-354-250-00	初期30時間以降100時間ごとに交換

形状	型式 PG83	PG73	PG63	PG53	品名	部品コード	備考
	○	○	○	○	ヒューズ（ブレード/32V05A）	1650-664-264-00	ヒューズ切れ時交換
					ヒューズ（ブレード/32V10A）	1575-623-010-00	
					ヒューズ（ブレード/32V20A）	1593-623-203-00	
	○	○	○	○	ヒューズ（スローブロー）（40A）	1650-650-222-00	
<ヘッドランプ用>	○	○	○	○	バルブ（12V　18W）	2161-532-202-00	ランプ切れ時交換
<センターマスコット用>	○	○	○	○	バルブ（12V　8W）	2132-524-204-10	
<モニターランプ用>	○	○	○	○	バルブ（ランプ）SET	1560-658-280-40	
<しゅう動板スライダー> 		○	○	○	スライダー	2161-831-002-00	摩耗時交換
	○		○ E型		スライダー（E12）	2161-831-003-10	
	○	○	○	○	しゅう動板（マエイタ）		
	○	○	○	○	ナエタンクローラ	2142-9801-005-20	
	○	○	○	○	各ケーブル		作動が重くなったら交換

形　状	型　式				品　名	部品コード	備　考
	PG83	PG73	PG63	PG53			
	○	○	○	○	フィンガ（13/G）	2186-738-033-00	摩耗時または変形時交換
	A型、B型、E12型				フィンガ（14/G）	2186-740-033-00	
	○	○	○	○	[1]フォーク （ウエコミ/E)COMP	2190-738-230-00	
	○	○	○	○	[2]フォークシール （ウエコミフォーク）	2186-738-046-00	
	○	○	○	○	[3]グリスシール （ウエコミフォーク）	2186-738-047-00	
	○	○	○	○	[4]クッション	2186-738-029-20	
	○	○	○	○	[5]ブッシュ （08×12×29）	2186-738-024-00	
	○	○	○	○	[1]ガイド （ナエアンナイ LH）	2186-803-002-00	摩耗時交換
	○	○	○	○	[2]ガイド （ナエアンナイ RH）	2186-803-003-00	
	○	○	○	○	[1]ラチェットホイル （35） [2]ブッシュ （ナエオクリアーム） [3]ラチェットツメ [4]クラッチ （ナエオクリ/クドウ） [5]ブッシュ （ナエオクリ/ソト） [6]ブッシュ （ナエオクリ/ナカ）	2161-835-002-00 2161-835-003-00 2161-835-006-00 2186-805-001-00 2186-805-005-00 2186-805-011-00	
	○	○	○	○	ナエトリイタ	2161-971-004-00	

■注文部品一覧表

No.	SET 品名	部品コード	対象型式	参考情報資料
1	ステアリング（グリップ）ASSY	2175-301-400-00	全	
2	レーキ（PAA）SET	8821-027-200-00	PG63、53 外付補助車輪装着機	
3	ウエコミカングリス(300G)ASSY	8849-001-200-00	（約８条分）	
4	ウエコミカングリス(150G)ASSY	8849-001-300-00	（約４条分）	
5	ブンリバリ	2186-738-052-00	全	
6	ヒロハバブンリバリ	2186-738-053-00	全	
7	ブンリバリトリツケイタ	2186-738-051-00	ブンリバリまたはヒロハバブンリバリとセットでご使用ください。	
8	フォークピース	2186-751-001-00	全	
9	フォーククリーナー	2186-738-055-00	分離針、広幅分離針装着機	
10	ハンガーウエイト（30）SET	2190-340-300-00	PG83	

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

取扱い方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、購入先へご相談ください。

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

購入先名	担当者名	電話 (　　)　　―
御購入日 平成　年　月　日	型式	区分
車台番号（本機番号）	エンジン番号	同時購入作業機

人と大地のハーモニー ISEKI

井関農機株式会社

ISEKI & CO., LTD.

営業本部	〒116-8541	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号 (FSビル)	☎ 03-5604-7618
北海道支店	〒068-0005	岩見沢市5条東12丁目5番地	☎ 0126-22-2666
東北支店	〒989-2421	宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2	☎ 0223-24-1111
関東センター	〒300-2346	茨城県筑波郡伊奈町青木560	☎ 0297-58-5131
関西センター	〒523-0016	滋賀県近江八幡市千僧供町字大橋602	☎ 0748-37-3831
中国支店	〒739-0024	広島県東広島市西条町御薗宇727-2	☎ 0824-23-9883
四国支店	〒799-3101	愛媛県伊予市八倉120-1	☎ 089-983-5677
九州支店	〒861-2297	熊本県上益城郡益城町大字安永1400	☎ 096-286-4020
部品部	〒799-2692	愛媛県松山市馬木町700	☎ 089-979-4114

R100

PRINTED WITH SOY INK

2186-971-007-6H